

亀岡市男女共同参画に関する
市民意識調査
報 告 書

令和7(2025)年3月

亀 岡 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の見方	1
5. 令和元年（2019）年度調査の概要	2
第2章 調査結果	3
1. 回答者本人について	3
（1）性別	3
（2）年代	3
（3）既婚・未婚の有無	5
（4）世帯構成	6
（5）職業	7
2. 男女平等に関する意識について	9
（1）男女平等意識	9
（2）性別による役割分担意識に対する考え	20
3. 家庭生活・子育てについて	22
（1）家庭内での役割	22
（2）男女ともに家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと	32
4. 仕事について	37
（1）職場環境	37
（2）男女がともに働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと	50
5. 配偶者・恋人等からの暴力について	54
（1）暴力を受けた経験の有無	54
（2）相談経験の有無	68
（3）配偶者等からの暴力をなくすために必要だと思うこと	72
6. 日常生活又は社会生活における困難な問題を抱える女性について	76
（1）困難な問題を抱える女性	76
7. 社会活動への参加について	79
（1）社会活動への参加状況	79
（2）社会活動への参加に支障になること	87
8. 災害について	91
（1）大災害が発生し避難が必要になった時に心配なこと	91
（2）防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うこと	94
9. 男女共同参画に関する法律、施策、用語等について	98
（1）男女共同参画に関する法律等の認知状況	98
（2）亀岡市の相談室の認知状況	106

10. 男女共同参画の推進について.....	110
(1) 男女共同参画社会の実現のため、力を入れていくべき取組	110
(2) 自由意見	114
第3章 調査票	115

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和3（2021）年度からスタートした「ゆう・あいプラン2021～亀岡市男女共同参画計画～」の上半期を検証し、今後の施策の方向付けにつなげるため、市民意識調査を実施し、男女共同参画における啓発がどのように浸透しているのか、また啓発方法等、実施している事業の課題を把握することを目的に実施した。

2. 調査設計

調査対象：亀岡市内に居住する18歳以上の市民1,000人を住民基本台帳から無作為抽出

調査方法：郵送による配布・回収、またはWEBによる回答

調査期間：令和6（2024）年11月20日（水）～12月13日（金）まで

※なお、令和6（2024）年12月18日（水）到着分までを集計の対象とする。

3. 回収状況

配布数		回収数	無効数	有効回答者数	有効回答率
a		b	c	b-c=d	d/a
1,000		382	2	380	38.0%
内 訳	郵 送	285	2	283	
	W E B	97	0	97	

4. 報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 報告書記載の「前回調査（R元年）」とは令和元年（2019）年10月1日～同年10月24日に実施した調査の結果について示している。
- ⑤ 今回調査で「18・19歳」と答えた回答者は6名、「90歳以上」と答えた回答者は10名と少数だったため、分析上では「18・19歳」と「20～29歳」を合わせた「18～29歳」、「80～89歳」と「90歳以上」を合わせた「80歳以上」の年齢区分とする。

5. 令和元年（2019）年度調査の概要

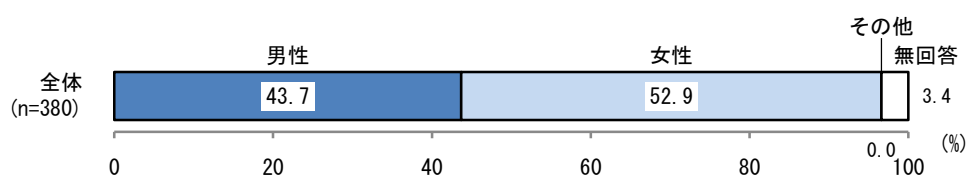
	令和元年（2019）年度調査（前回調査）
調査対象	亀岡市内在住の満20歳以上の男女1,000人を無作為抽出
調査方法	郵送により配布し、郵送及びインターネットによる回収
発送数	1,000件
有効回答数	343件
有効回答率	34.3%

第2章 調査結果

1. 回答者本人について

(1) 性別

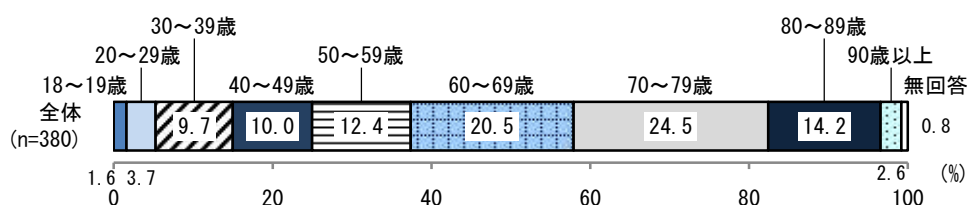
【図1-1 性別】



回答者の性別について、「女性」が52.9%で最も高く、次いで「男性」が43.7%となっている。
(図1-1)

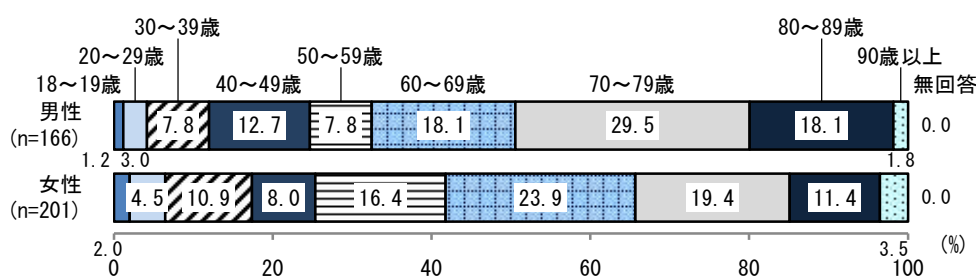
(2) 年代

【図1-2 年代（全体）】



回答者の年代について、「70~79歳」が24.5%で最も高く、次いで「60~69歳」が20.5%、「80~89歳」が14.2%となっている。(図1-2)

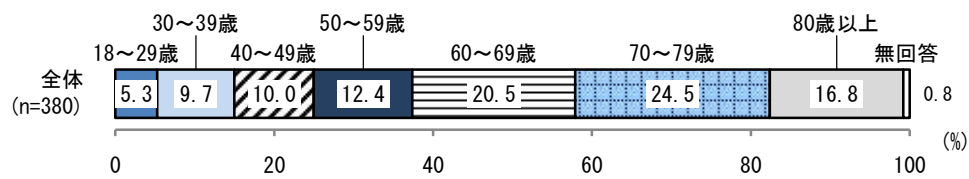
【図1-2-1 性別 年代】



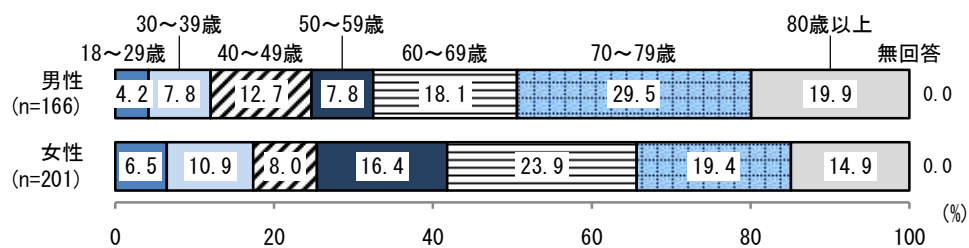
性別でみると、男性は「70~79歳」が29.5%、女性は「60~69歳」が23.9%で最も高くなっている。これに次いで、男性は「60~69歳」、「80~89歳」がそれぞれ18.1%、「40~49歳」が12.7%となっており、女性は「70~79歳」が19.4%、「50~59歳」が16.4%となっている。
(図1-2-1)

≪「18・19歳」と「20～29歳」を合わせて『18～29歳』、「80～89歳」と「90歳以上」を合わせて『80歳以上』とした場合≫

【図1-2-2 年代（全体）】

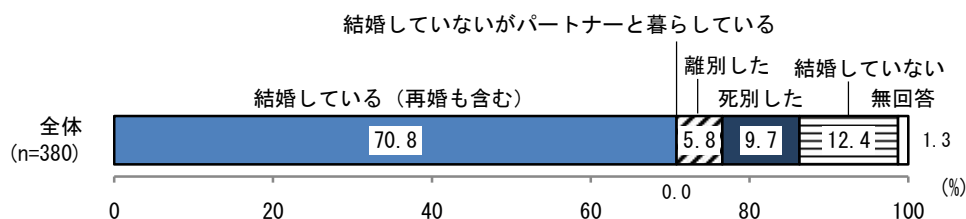


【図1-2-3 性別 年代】



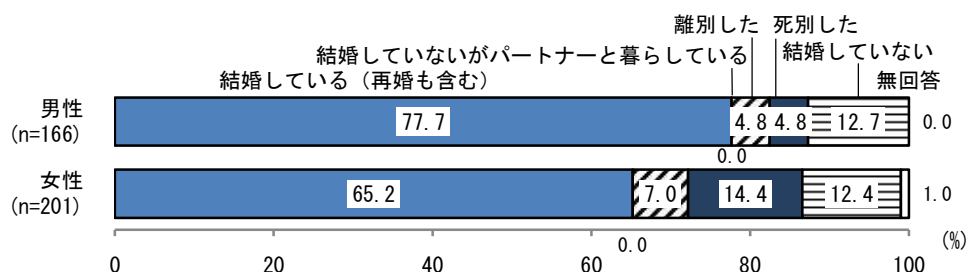
(3) 既婚・未婚の有無

【図1-3 既婚・未婚の有無（全体）】



既婚・未婚の有無について、「結婚している（再婚も含む）」が70.8%で最も高く、次いで「結婚していない」が12.4%、「死別した」が9.7%となっている。（図1-3）

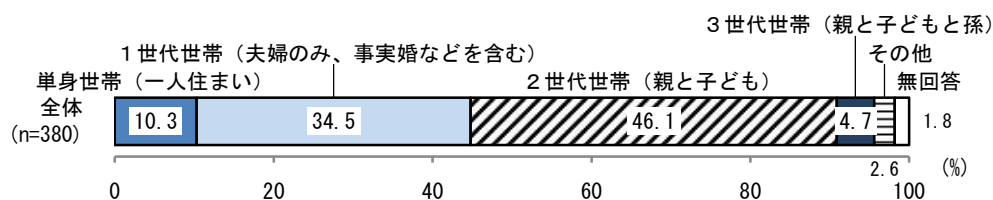
【図1-3-1 性別 既婚・未婚の有無】



性別でみると、男性・女性ともに「結婚している（再婚も含む）」が最も高く、男性が77.7%、女性が65.2%となっている。これに次いで、男性は「結婚していない」が12.7%、「離婚した」、「死別した」がそれぞれ4.8%となっており、女性は「死別した」が14.4%、「結婚していない」が12.4%となっている。（図1-3-1）

(4) 世帯構成

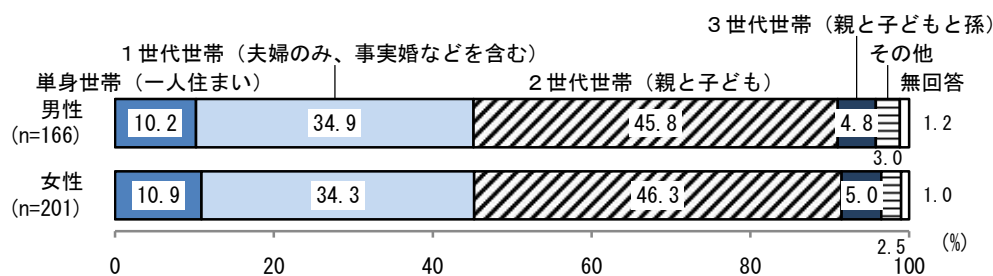
【図1-4 世帯構成（全体）】



世帯構成について、「2 世代世帯 (親と子ども)」が46.1%で最も高く、次いで「1 世代世帯 (夫婦のみ、事実婚などを含む)」が34.5%、「単身世帯 (一人住まい)」が10.3%となっている。

(図1-4)

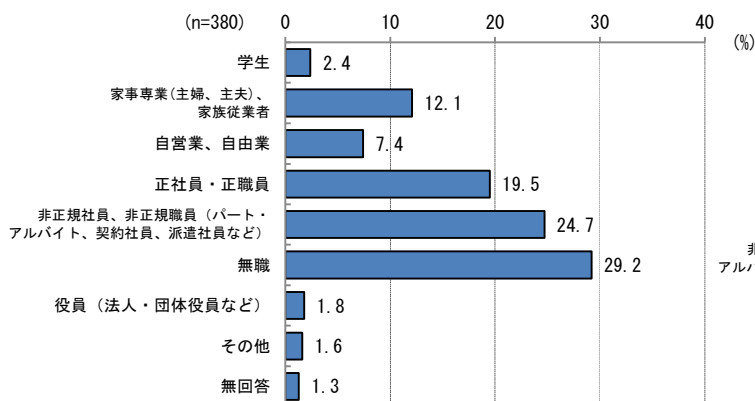
【図1-4-1 性別 世帯構成】



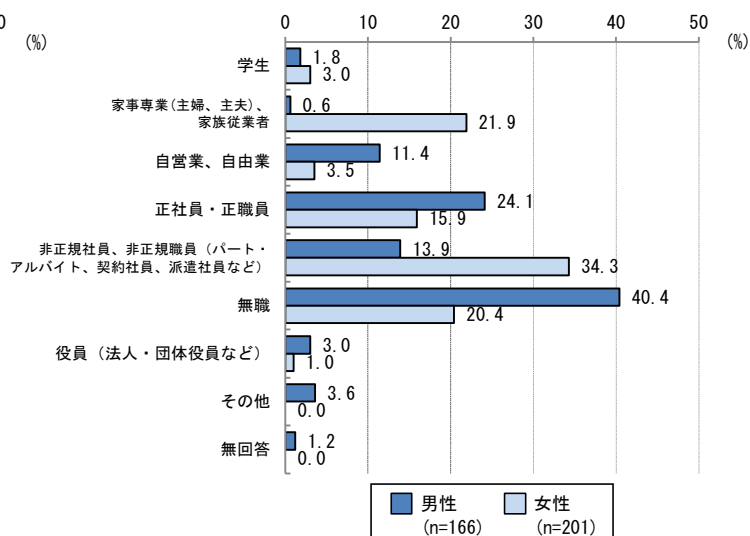
性別でみると、男性・女性ともに「2 世代世帯 (親と子ども)」が最も高く、男性が45.8%、女性が46.3%となっている。これに次いで、男性は「1 世代世帯 (夫婦のみ、事実婚などを含む)」が34.9%、「単身世帯 (一人住まい)」が10.2%となっており、女性は「1 世代世帯 (夫婦のみ、事実婚などを含む)」が34.3%、「単身世帯 (一人住まい)」が10.9%となっている。(図1-4-1)

(5) 職業

【図1-5 職業（全体）】



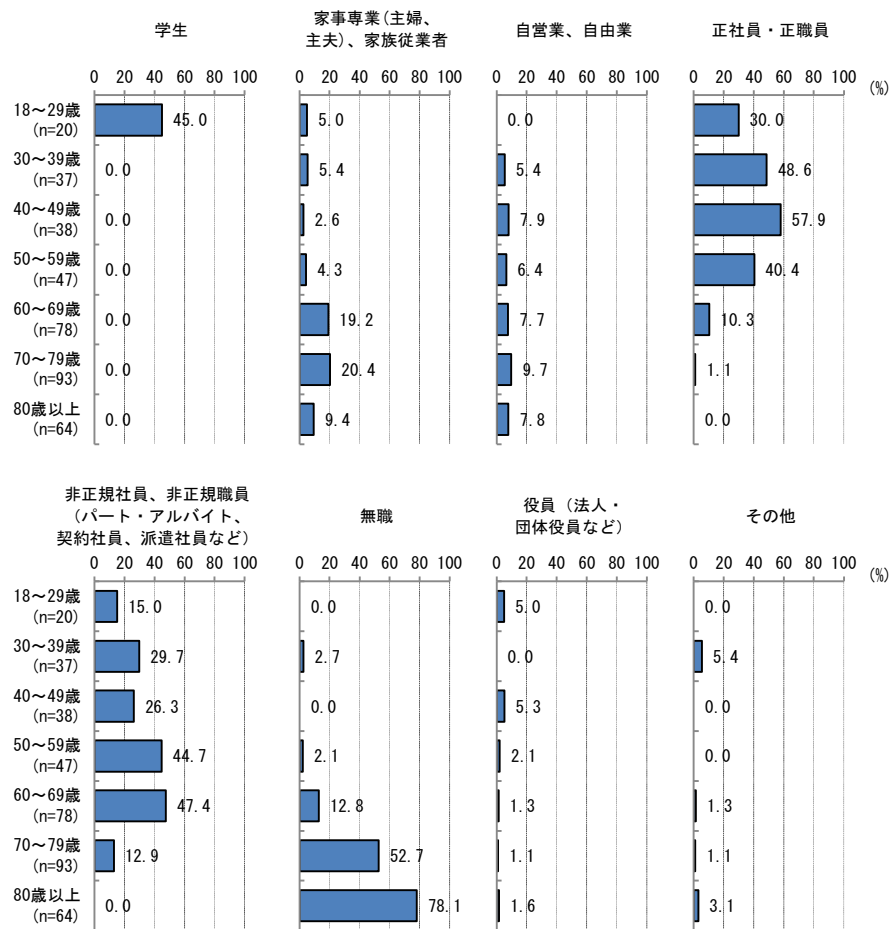
【図1-5-1 性別 職業】



職業について、「無職」が29.2%で最も高く、次いで「非正規社員・非正規職員（パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など）」が24.7%、「正社員・正職員」が19.5%となっている。（図1-5）

性別でみると、男性は、「無職」が40.4%で最も高く、次いで「正社員・正職員」が24.1%、「非正規社員・非正規職員（パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など）」が13.9%となっている。女性は、「非正規社員・非正規職員（パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など）」が34.3%で最も高く、次いで「家事専業（主婦、主夫）、家族従業者」が21.9%、「無職」が20.4%となっている。（図1-5-1）

【図1-5-2 年代別 職業】



年代別でみると、「正社員・正職員」が40～49歳で57.9%と最も高く、次いで、30～39歳で48.6%、50～59歳で40.4%となっている。

「非正規社員・非正規職員（パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など）」が60～69歳で47.4%と最も高く、次いで、50～59歳で44.7%、30～39歳で29.7%となっている。

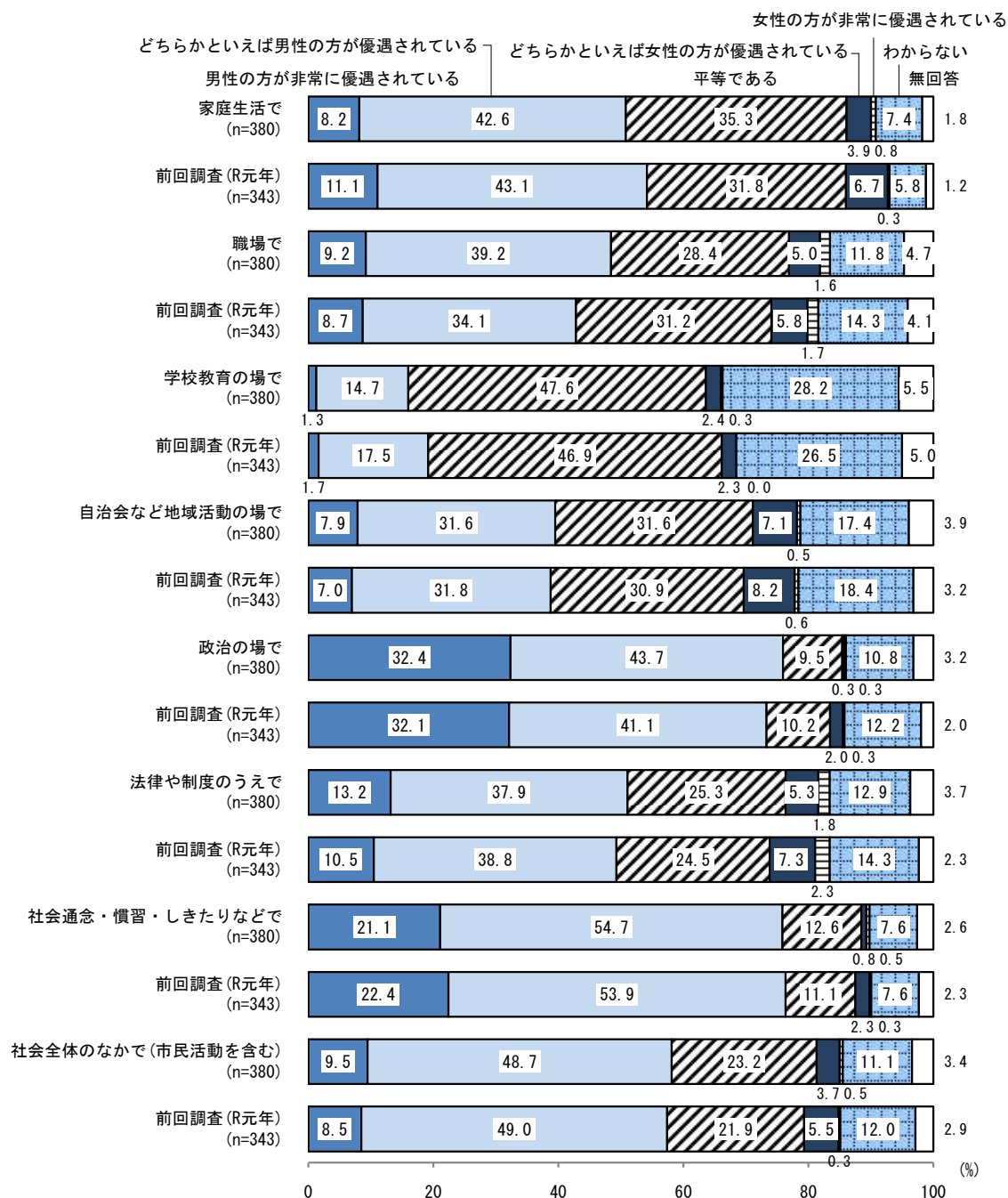
「無職」が80歳以上で78.1%と最も高く、次いで70～79歳で52.7%、60～69歳で12.8%となっている。（図1-5-2）

2. 男女平等に関する意識について

(1) 男女平等意識

問1 あなたは、現在、次の分野で男女の立場は平等になっていると思いますか。
あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つ選択)

【図2-1-1 経年比較 男女平等意識】



男女平等意識について、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性の方が優遇されている』が、「政治の場で」で76.1%と最も高く、次いで、「社会通念・慣習・しきたりなどで」で75.8%、「社会全体のなかで（市民活動を含む）」で58.2%となっている。

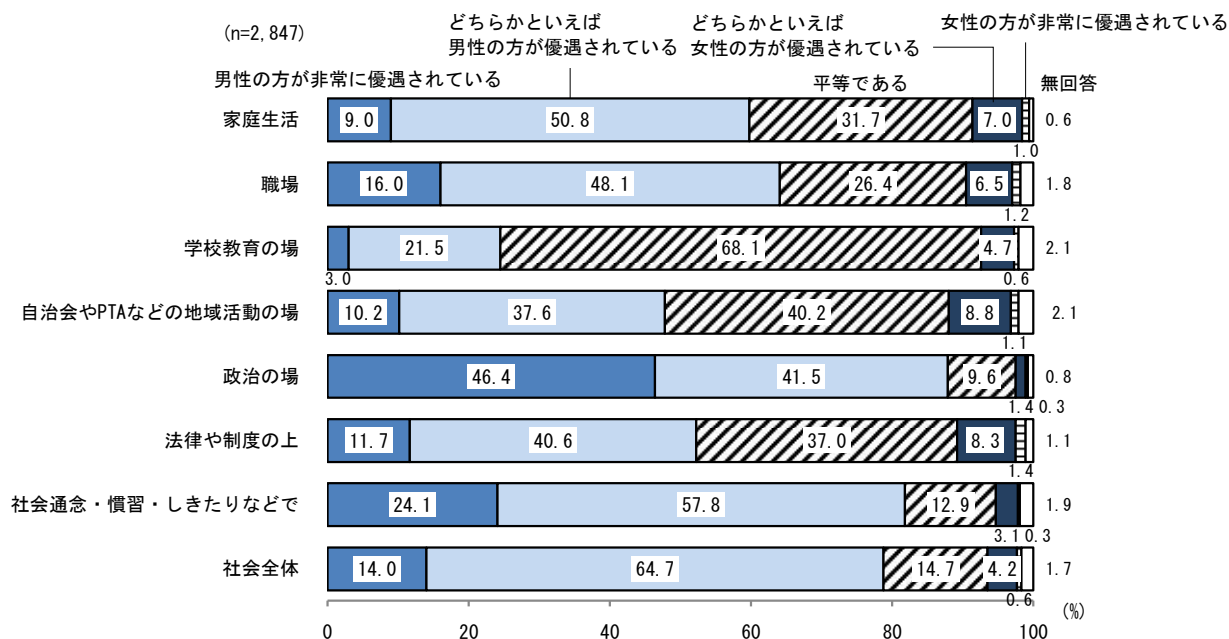
「平等である」が、「学校教育の場で」で47.6%と最も高く、次いで、「家庭生活で」で35.3%、「自治会など地域活動の場で」で31.6%となっている。

一方で「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性の方が優遇されている』が、「自治会など地域活動の場で」で7.6%と最も高く、次いで、「法律や制度のうえで」で7.1%、「職場で」で6.6%となっている。

経年比較でみると、「職場で」で『男性の方が優遇されている』が、今回調査で48.4%、前回調査で42.8%となっており、前回に比べて5.6ポイント高くなっている。

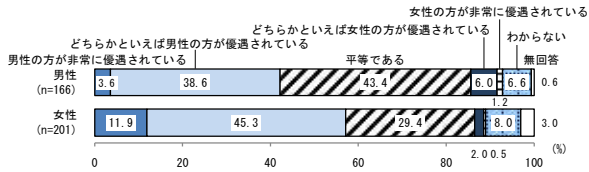
「法律や制度のうえで」で『女性の方が優遇されている』が、今回調査で7.1%、前回調査で9.6%となっており、前回に比べて2.5ポイント低くなっている。（図2-1-1）

【図2-1-2 全国 男女平等意識】

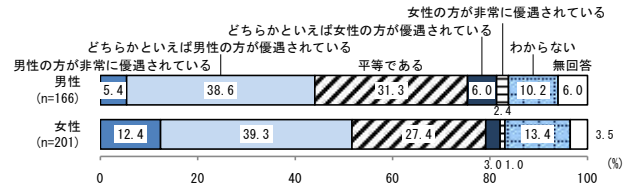


【図2-1-3 性別 男女平等意識】

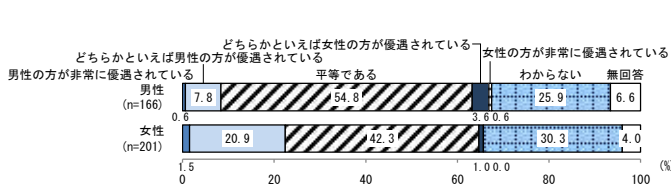
〔1. 家庭生活で〕



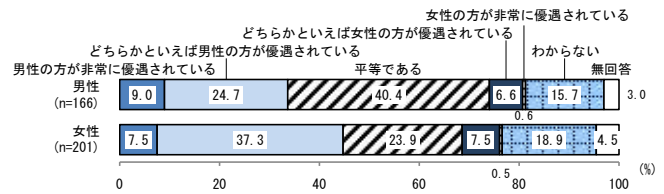
〔2. 職場で〕



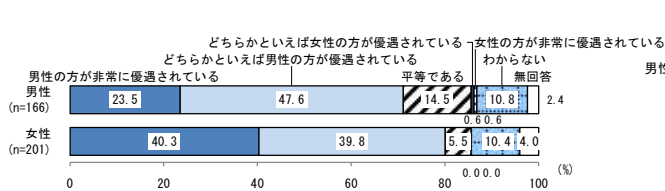
〔3. 学校教育の場で〕



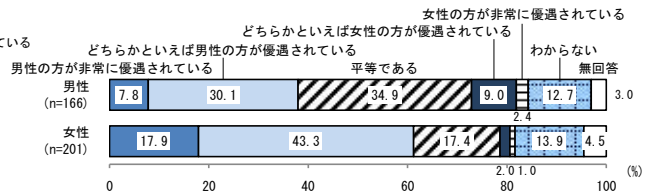
〔4. 自治会など地域活動の場で〕



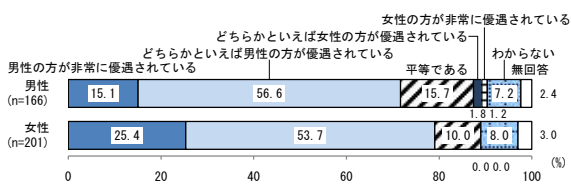
〔5. 政治の場で〕



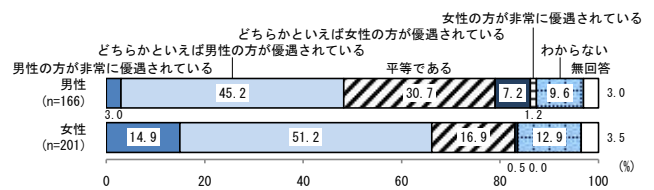
〔6. 法律や制度のうえで〕



〔7. 社会通念・慣習・しきたりなどで〕



〔8. 社会全体のなかで（市民活動を含む）〕



性別でみると、『男性の方が優遇されている』の割合は、「法律や制度のうえで」で女性が61.2%、男性が37.9%となっており、女性の方が23.3ポイント、「社会全体のなかで（市民活動を含む）」で女性が66.1%、男性が48.2%となっており、女性の方が17.9ポイント高い割合になっている。

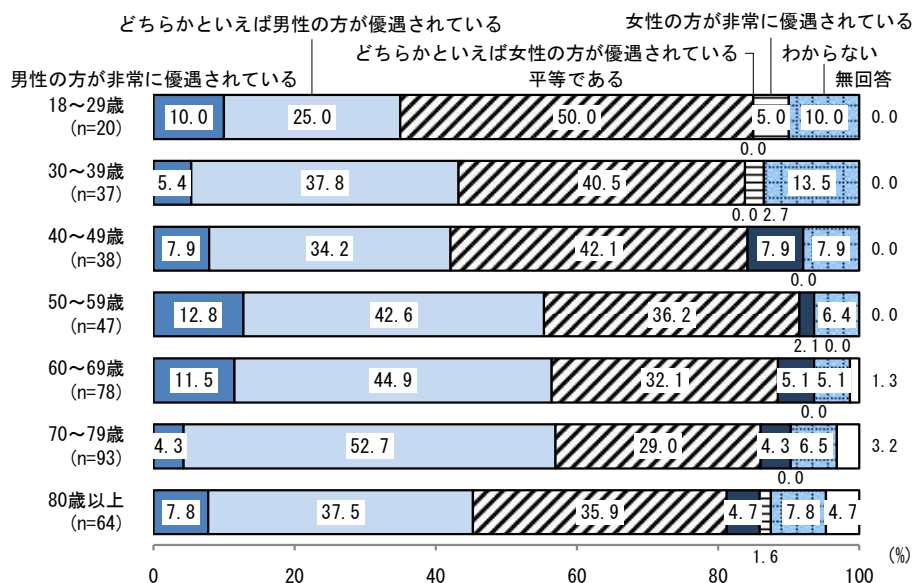
「平等である」の割合は、「法律や制度のうえで」で男性が34.9%、女性が17.4%となっており、男性の方が17.5ポイント、「自治会など地域活動の場で」で男性が40.4%、女性が23.9%となっており、男性の方が16.5ポイント高い割合になっている。

『女性の方が優遇されている』の割合は、「法律や制度のうえで」で男性が11.4%、女性が3.0%となっており、男性の方が8.4ポイント、「社会全体のなかで（市民活動を含む）」で男性が8.4%、女性が0.5%となっており、男性の方が7.9ポイント高い割合になっている。

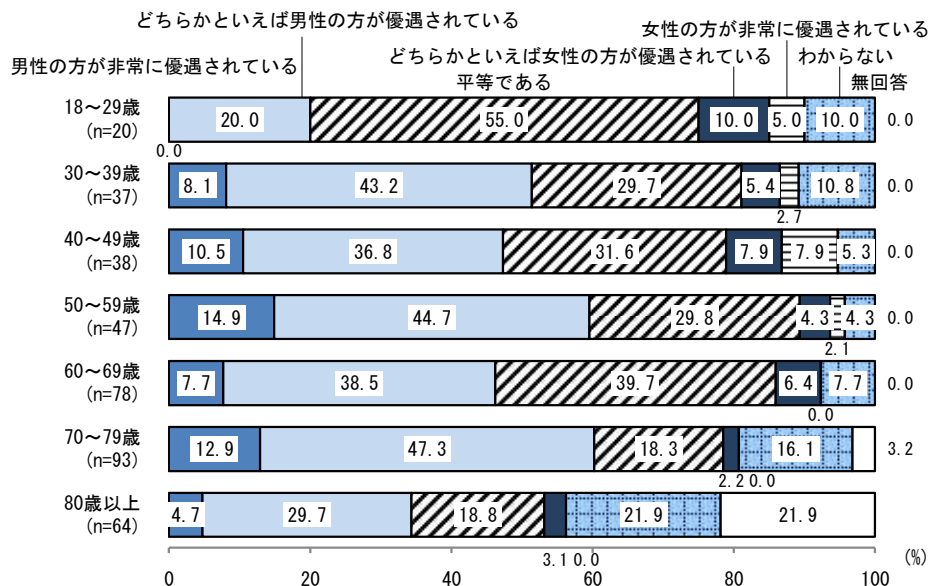
（図2-1-3）

【図2-1-4 年代別 男女平等意識】

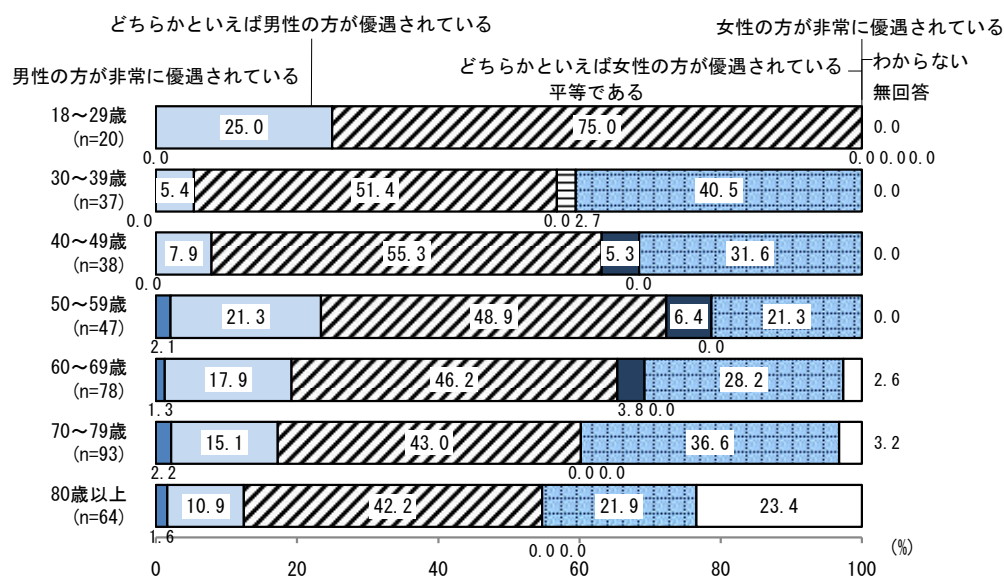
〔1. 家庭生活で〕



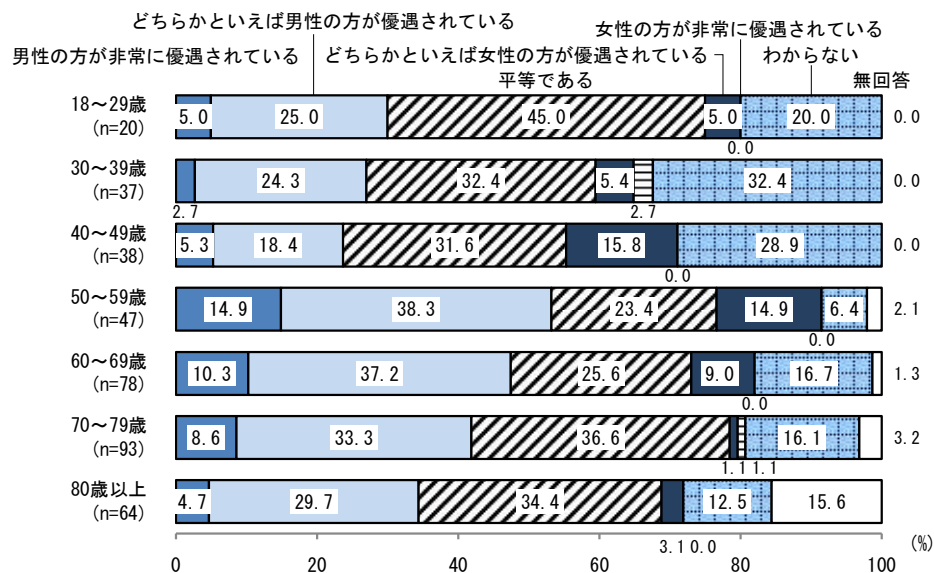
〔2. 職場で〕



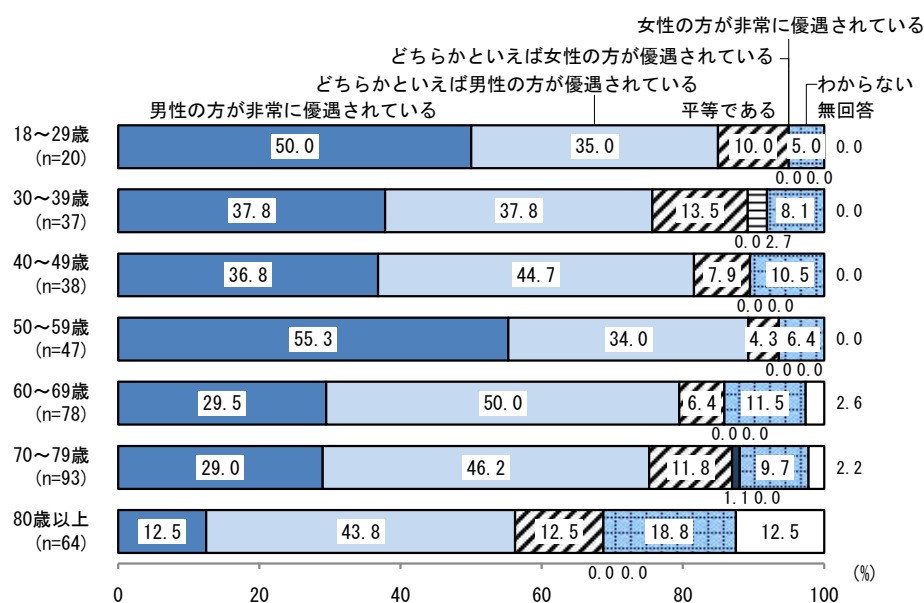
〔3. 学校教育の場で〕



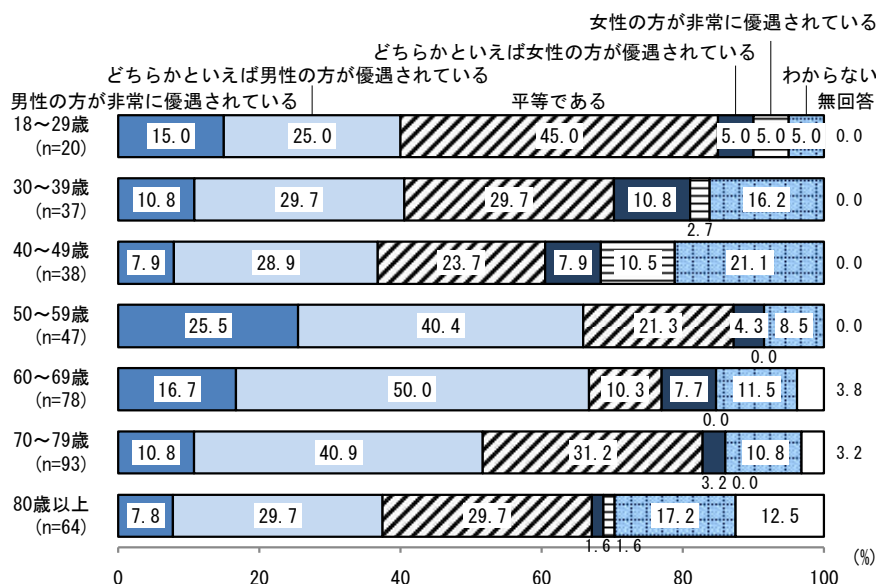
〔4. 自治会など地域活動の場で〕



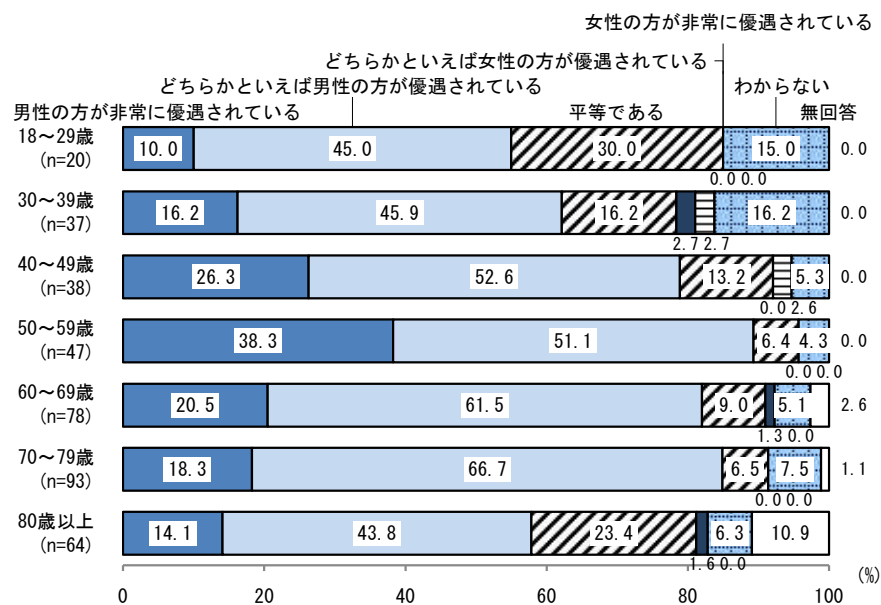
〔5. 政治の場で〕



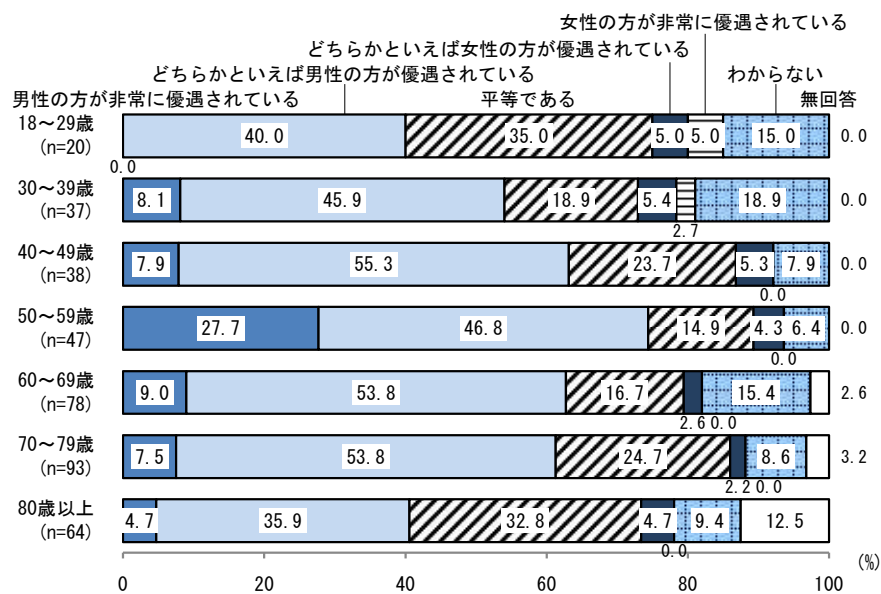
〔6. 法律や制度のうえで〕



〔7. 社会通念・慣習・しきたりなどで〕



〔8. 社会全体のなかで（市民活動を含む）〕



年代別でみると、「家庭生活で」は、『男性の方が優遇されている』が70～79歳で57.0%と最も高く、次いで、60～69歳で56.4%、50～59歳で55.4%となっている。

「職場で」は、『男性の方が優遇されている』が70～79歳で60.2%と最も高く、次いで、50～59歳で59.6%、30～39歳で51.3%となっている。

「学校教育の場で」は、『男性の方が優遇されている』が18～29歳で25.0%と最も高く、次いで、50～59歳で23.4%、60～69歳で19.2%となっている。

「自治会など地域活動の場で」は、『男性の方が優遇されている』が50～59歳で53.2%と最も高く、次いで、60～69歳で47.5%、70～79歳で41.9%となっている。

「政治の場で」は、『男性の方が優遇されている』が50～59歳で89.3%と最も高く、次いで、18～29歳で85.0%、40～49歳で81.5%となっている。

「法律や制度のうえで」は、『男性の方が優遇されている』が60～69歳で66.7%と最も高く、次いで、50～59歳で65.9%、70～79歳で51.7%となっている。

「社会通念・慣習・しきたりなどで」は、『男性の方が優遇されている』が50～59歳で89.4%と最も高く、次いで、70～79歳で85.0%、60～69歳で82.0%となっている。

「社会全体のなかで（市民活動を含む）」は、『男性の方が優遇されている』が50～59歳で74.5%と最も高く、次いで、40～49歳で63.2%、60～69歳で62.8%となっている。（図2-1-4）

【図2-1-5 性別による役割分担意識に対する問題意識別 男女平等意識】

・「男性の方が優遇されている」と思う割合

	(%)							
	家庭生活で	職場で	学校教育の場で	自治会など地域活動の場で	政治の場で	法律や制度のうえで	社会通念・慣習・しきたりなどで	社会全体のなかで（市民活動を含む）
問題だと思う（n=286）	56.3	52.1	18.5	45.1	80.8	58.1	82.2	66.1
問題だと思わない（n=76）	36.9	42.1	10.5	26.3	67.1	34.2	63.1	36.9
わからない（n=14）	21.4	21.4	0.0	7.1	42.8	14.3	35.7	28.6

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うは「社会通念・慣習・しきたりなどで」で82.2%、問題だと思わないとわからないは「政治の場で」で、それぞれ67.1%、42.8%と最も高くなっている。

・「平等である」と思う割合

	(%)							
	家庭生活で	職場で	学校教育の場で	自治会など地域活動の場で	政治の場で	法律や制度のうえで	社会通念・慣習・しきたりなどで	社会全体のなかで（市民活動を含む）
問題だと思う（n=286）	33.6	29.7	47.6	29.4	8.4	23.8	10.5	18.9
問題だと思わない（n=76）	42.1	26.3	55.3	44.7	15.8	30.3	21.1	42.1
わからない（n=14）	42.9	21.4	21.4	14.3	0.0	28.6	14.3	7.1

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うと問題だと思わないは「学校教育の場で」で、それぞれ47.6%、55.3%、わからないは「家庭生活で」で42.9%と最も高くなっている。

・「女性の方が優遇されている」と思う割合

	(%)							
	家庭生活で	職場で	学校教育の場で	自治会など地域活動の場で	政治の場で	法律や制度のうえで	社会通念・慣習・しきたりなどで	社会全体のなかで（市民活動を含む）
問題だと思う（n=286）	2.4	4.5	2.1	8.0	0.0	4.8	0.6	3.1
問題だと思わない（n=76）	14.5	14.5	3.9	5.2	2.6	17.1	3.9	9.2
わからない（n=14）	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うとわからないは「自治会など地域活動の場で」で、それぞれ8.0%、7.1%、問題だと思わないは「法律や制度のうえで」で17.1%と最も高くなっている。

・「わからない」と思う割合

	(%)							
	家庭生活で	職場で	学校教育の場で	自治会など地域活動の場で	政治の場で	法律や制度のうえで	社会通念・慣習・しきたりなどで	社会全体のなかで（市民活動を含む）
問題だと思う（n=286）	5.9	9.4	27.3	14.0	8.4	10.1	4.9	9.1
問題だと思わない（n=76）	6.6	14.5	25.0	22.4	13.2	17.1	10.5	10.5
わからない（n=14）	28.6	42.9	64.3	57.1	42.9	42.9	35.7	50.0

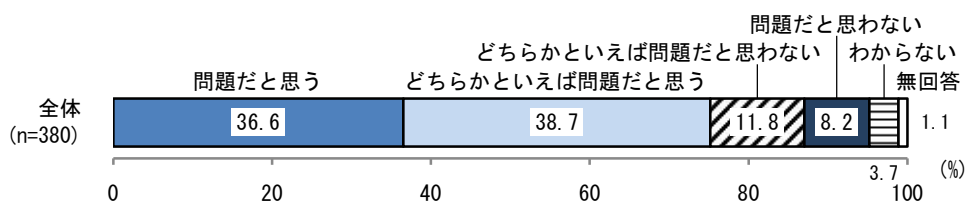
性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、全ての項目で「学校教育の場で」が最も高く、問題だと思うで27.3%、問題だと思わないで25.0%、わからないで64.3%となっている。（図2-1-5）

(2) 性別による役割分担意識に対する考え

問2『男は仕事、女は家庭』など、性別による役割分担意識があることについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(1つ選択)

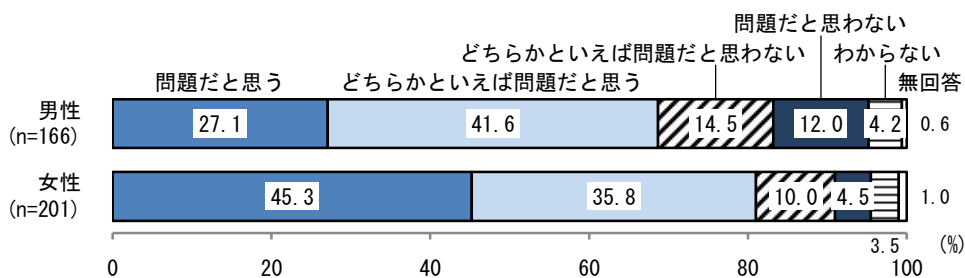
※ここでいう、「性別による役割分担意識」とは、男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」などのように、「男性」、「女性」という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方を言います。

【図2-2 性別による役割分担意識に対する考え】



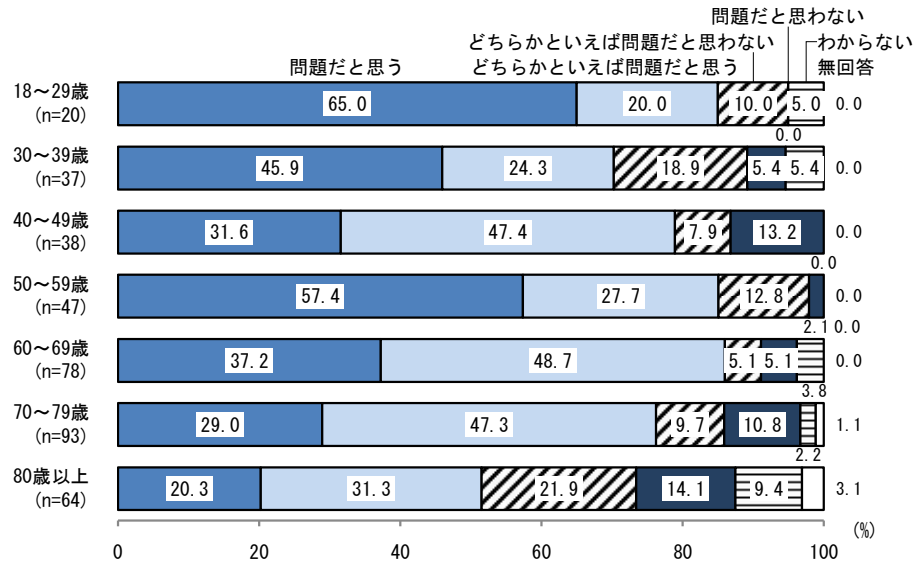
性別による役割分担意識に対する考えについて、「問題だと思う」と「どちらかといえば問題だと思う」を合わせた『問題だと思う』が75.3%、「問題だと思わない」と「どちらかといえば問題だと思わない」を合わせた『問題だと思わない』が20.0%となっている。(図2-2)

【図2-2-1 性別 性別による役割分担意識に対する考え】



性別でみると、『問題だと思う』の割合は女性が81.1%、男性が68.7%となっており、女性の方が12.4ポイント高い割合になっている。(図2-2-1)

【図2-2-2 年代別 性別による役割分担意識に対する考え】



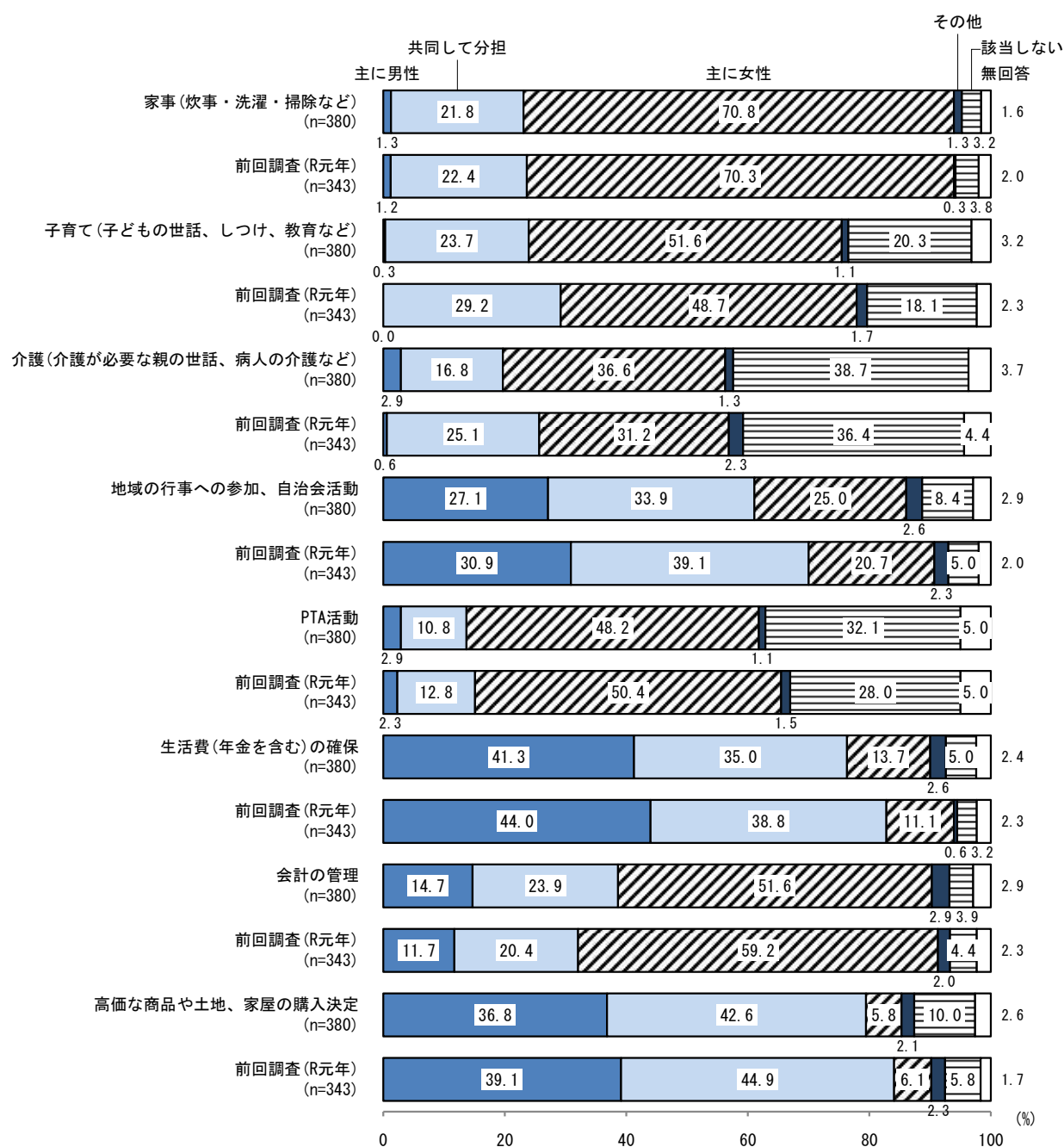
年代別でみると、すべての年代で『問題だと思う』が最も高く、特に60～69歳で85.9%となっている。(図2-2-2)

3. 家庭生活・子育てについて

(1) 家庭内での役割

問3 あなたの家庭では、(1)～(8)のそれぞれについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。(それぞれ1つ選択)

【図3-1-1 経年比較 家庭内での役割】



家庭内での役割について、「主に男性」が、「生活費（年金を含む）の確保」で41.3%と最も高く、次いで、「高価な商品や土地、家屋の購入決定」で36.8%、「地域の行事への参加、自治会活動」で27.1%となっている。

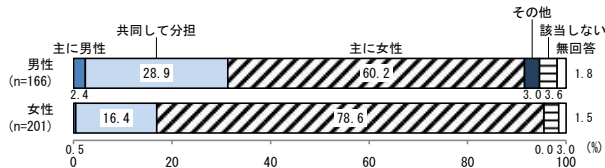
「共同して分担」が、「高価な商品や土地、家屋の購入決定」で42.6%と最も高く、次いで、「生活費（年金を含む）の確保」で35.0%、「地域の行事への参加、自治会活動」で33.9%となっている。

一方で「主に女性」が、「家事（炊事・洗濯・掃除など）」で70.8%と最も高く、次いで、「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」、「会計の管理」でそれぞれ51.6%、「PTA活動」で48.2%となっている。

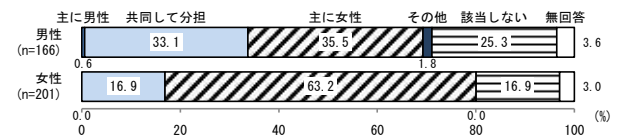
経年比較でみると、「介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）」で「共同して分担」が、今回調査で16.8%、前回調査で25.1%となっており、前回に比べて8.3ポイント低くなっている。「会計の管理」で「主に女性」が、今回調査で51.6%、前回調査で59.2%となっており、前回に比べて7.6ポイント低くなっている。「地域の行事への参加、自治会活動」で「主に男性」が、今回調査で27.1%、前回調査で30.9%となっており、前回に比べて3.8ポイント低くなっている。
(図3-1-1)

【図3-1-2 性別 家庭内での役割】

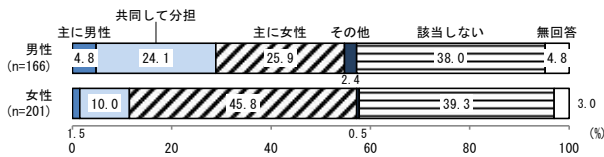
〔1. 家事（炊事・洗濯・掃除など）〕



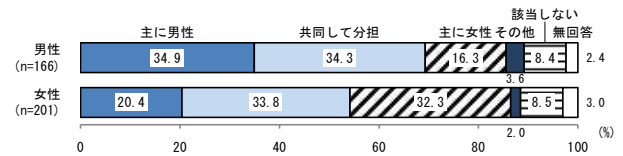
〔2. 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）〕



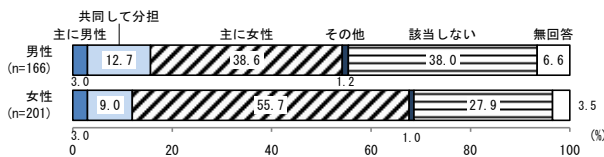
〔3. 介護（介護が必要な親の世話、
病人の介護など）〕



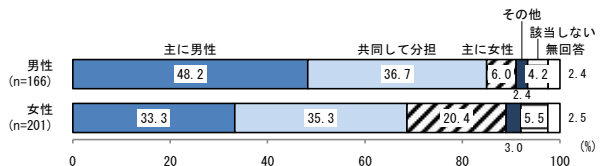
〔4. 地域の行事への参加、自治会活動〕



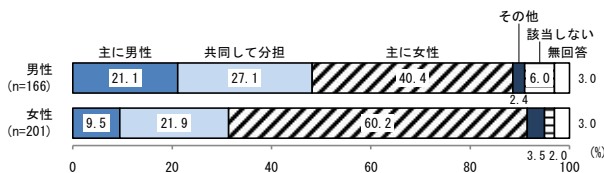
〔5. P T A活動〕



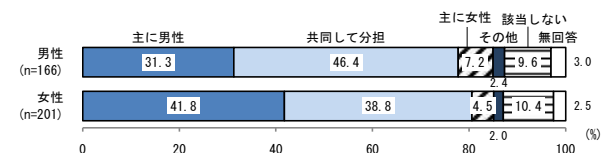
〔6. 生活費（年金を含む）の確保〕



〔7. 会計の管理〕



〔8. 高価な商品や土地、家屋の購入決定〕



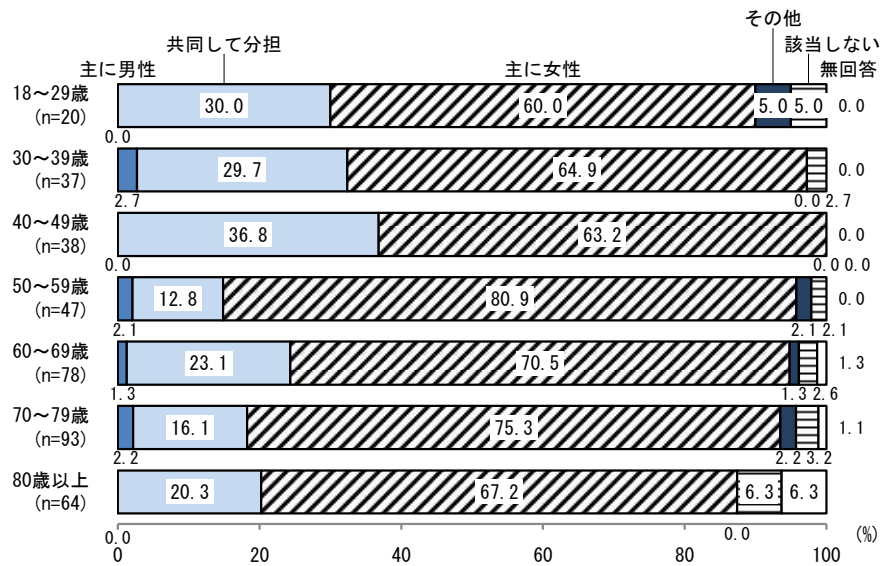
性別でみると、「主に男性」の割合は、「生活費（年金を含む）の確保」で男性が48.2%、女性が33.3%となっており、男性の方が14.9ポイント、「地域の行事への参加、自治会活動」で男性が34.9%、女性が20.4%となっており、男性の方が14.5ポイント高い割合になっている。

「共同して分担」の割合は、「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」で男性が33.1%、女性が16.9%となっており、男性の方が16.2ポイント、「介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）」で男性が24.1%、女性が10.0%となっており、男性の方が14.1ポイント高い割合になっている。

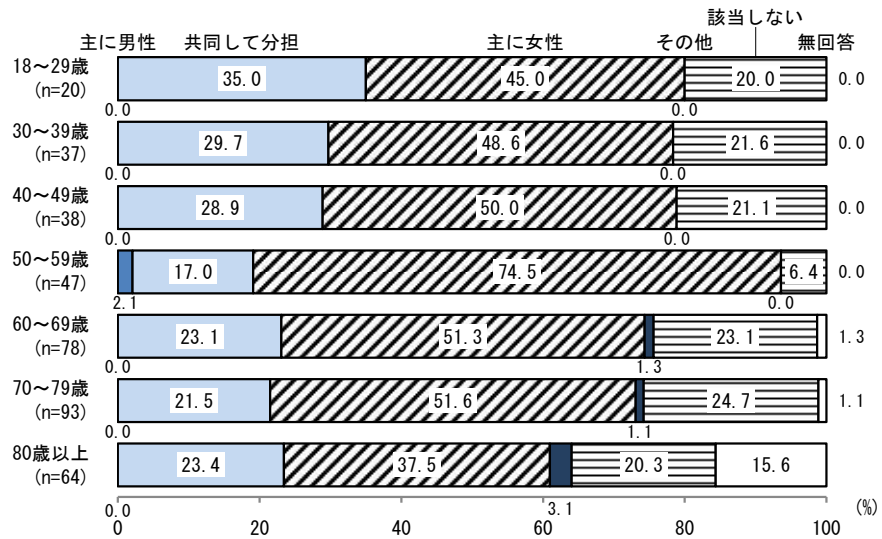
「主に女性」の割合は、「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」で女性が63.2%、男性が35.5%となっており、女性の方が27.7ポイント、「介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）」で女性が45.8%、男性が25.9%となっており、女性の方が19.9ポイント高い割合になっている。（図3-1-2）

【図3-1-3 年代別 家庭内での役割】

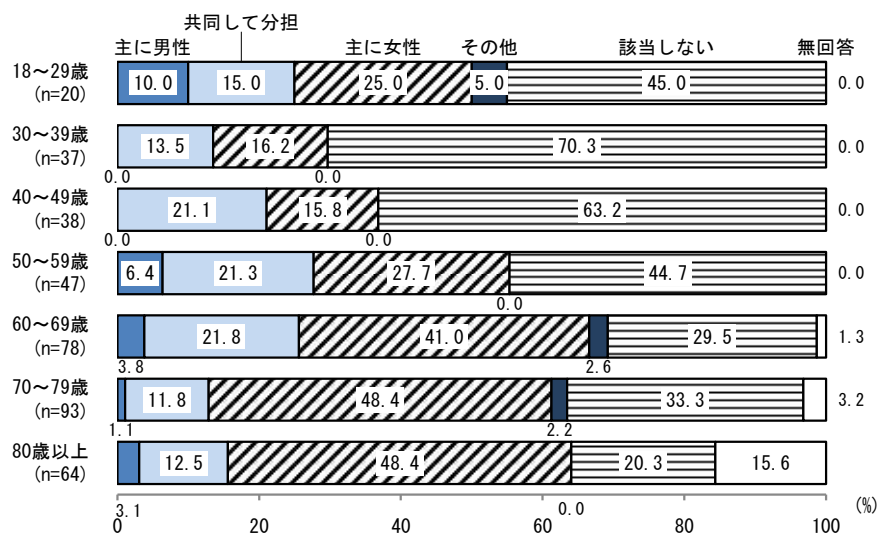
〔1. 家事（炊事・洗濯・掃除など）〕



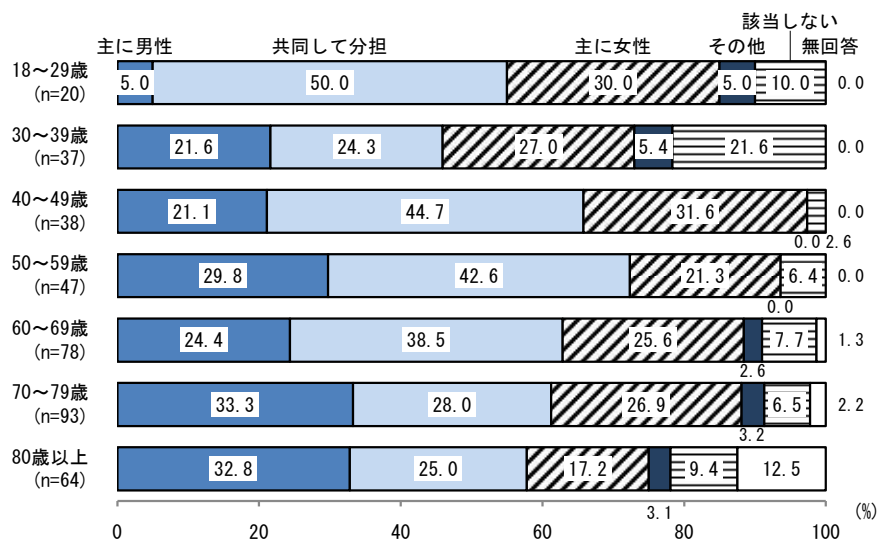
〔2. 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）〕



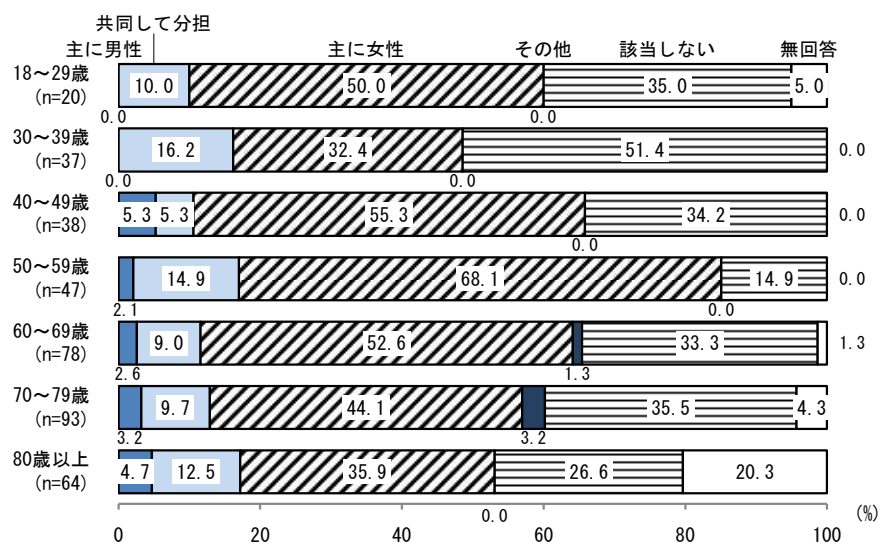
〔 3. 介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）〕



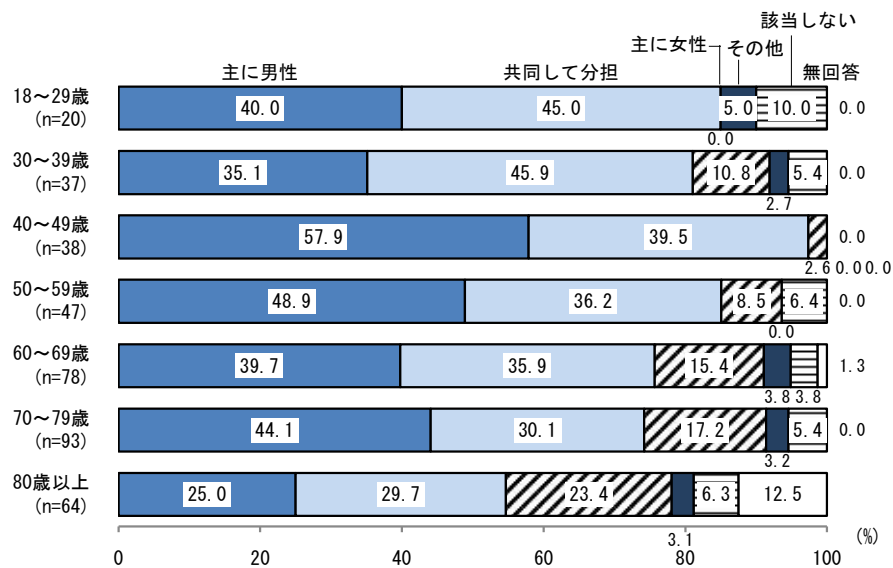
〔 4. 地域の行事への参加、自治会活動〕



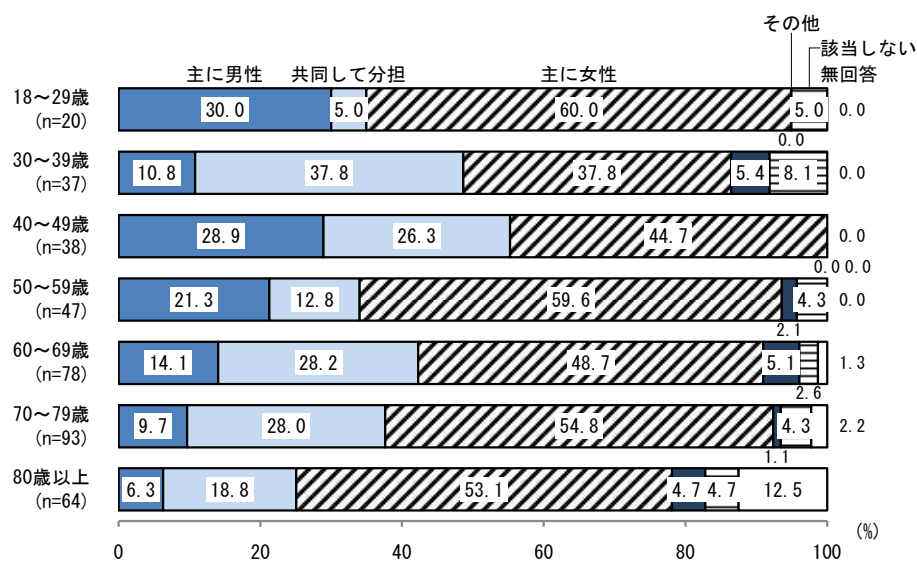
〔5. P T A活動〕



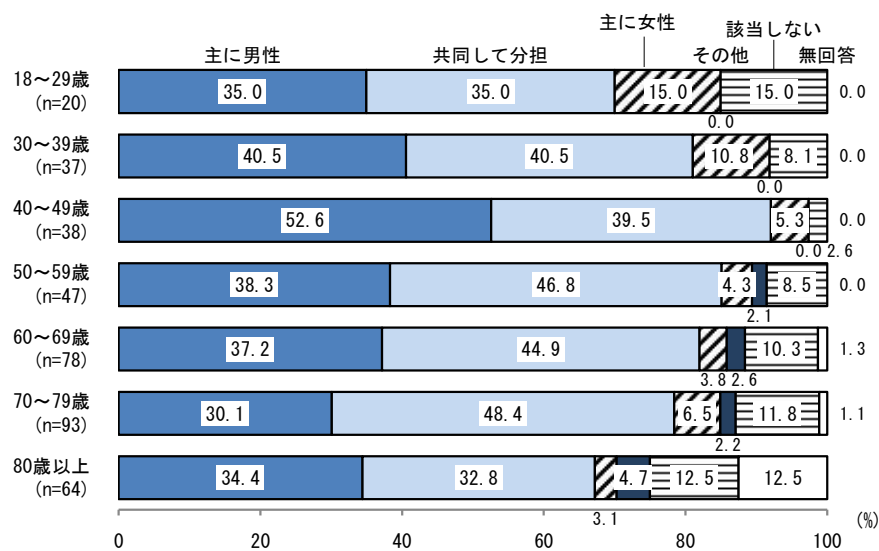
〔6. 生活費（年金を含む）の確保〕



〔 7. 会計の管理〕



〔 8. 高価な商品や土地、家屋の購入決定〕



年代別でみると、「家事（炊事・洗濯・掃除など）」で「主に女性」が50～59歳で80.9%と最も高く、次いで、70～79歳で75.3%、60～69歳で70.5%となっている。

「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」で「主に女性」が50～59歳で74.5%と最も高く、次いで、70～79歳で51.6%、60～69歳で51.3%となっている。

「介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）」で「主に女性」が70～79歳、80歳以上でそれぞれ48.4%と最も高く、次いで、60～69歳で41.0%となっている。

「地域の行事への参加、自治会活動」で「共同して分担」が18～29歳で50.0%と最も高く、次いで、40～49歳で44.7%、50～59歳で42.6%となっている。

「PTA活動」で「主に女性」が50～59歳で68.1%と最も高く、次いで、40～49歳で55.3%、60～69歳で52.6%となっている。

「生活費（年金を含む）の確保」で「主に男性」が40～49歳で57.9%と最も高く、次いで、50～59歳で48.9%、70～79歳で44.1%となっている。

「会計の管理」で「主に女性」が18～29歳で60.0%と最も高く、次いで、50～59歳で59.6%、70～79歳で54.8%となっている。

「高価な商品や土地、家屋の購入決定」で「共同して分担」が70～79歳で48.4%と最も高く、次いで、50～59歳で46.8%、60～69歳で44.9%となっている。（図3-1-3）

【図3-1-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別 家庭内での役割】

・「主に男性」だと思う割合

	家事 (炊事・洗濯・掃除など)	子育て (子どもの世話、しつけ、 教育など)	介護 (介護が必要な親の世話、 病人の介護など)	地域の 行事への参加、自治会活動	P T A 活動	生活費 (年金を含む)の確保	会計の 管理	(%) 高価な 商品や土地、 家屋の購入決定
問題だと思う (n=286)	1.0	0.3	2.8	28.0	3.8	41.3	15.0	36.0
問題だと思わない (n=76)	1.3	0.0	3.9	25.0	0.0	44.7	13.2	40.8
わからない (n=14)	7.1	0.0	0.0	21.4	0.0	28.6	21.4	35.7

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うと問題だと思わないは「生活費(年金を含む)の確保」で、それぞれ41.3%、44.7%、わからないは「高価な商品や土地、家屋の購入決定」で35.7%と最も高くなっている。

・「共同して分担」だと思う割合

	家事 (炊事・洗濯・掃除など)	子育て (子どもの世話、しつけ、 教育など)	介護 (介護が必要な親の世話、 病人の介護など)	地域の 行事への参加、自治会活動	P T A 活動	生活費 (年金を含む)の確保	会計の 管理	(%) 高価な 商品や土地、 家屋の購入決定
問題だと思う (n=286)	22.4	23.4	14.7	31.1	8.7	35.7	21.0	45.5
問題だと思わない (n=76)	18.4	26.3	25.0	46.1	19.7	32.9	34.2	39.5
わからない (n=14)	35.7	21.4	21.4	28.6	7.1	42.9	35.7	14.3

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うは「高価な商品や土地、家屋の購入決定」で45.5%、問題だと思わないは「地域の行事への参加、自治会活動」で46.1%、わからないは「生活費(年金を含む)の確保」で42.9%と最も高くなっている。

・「主に女性」 だと思う割合

(%)

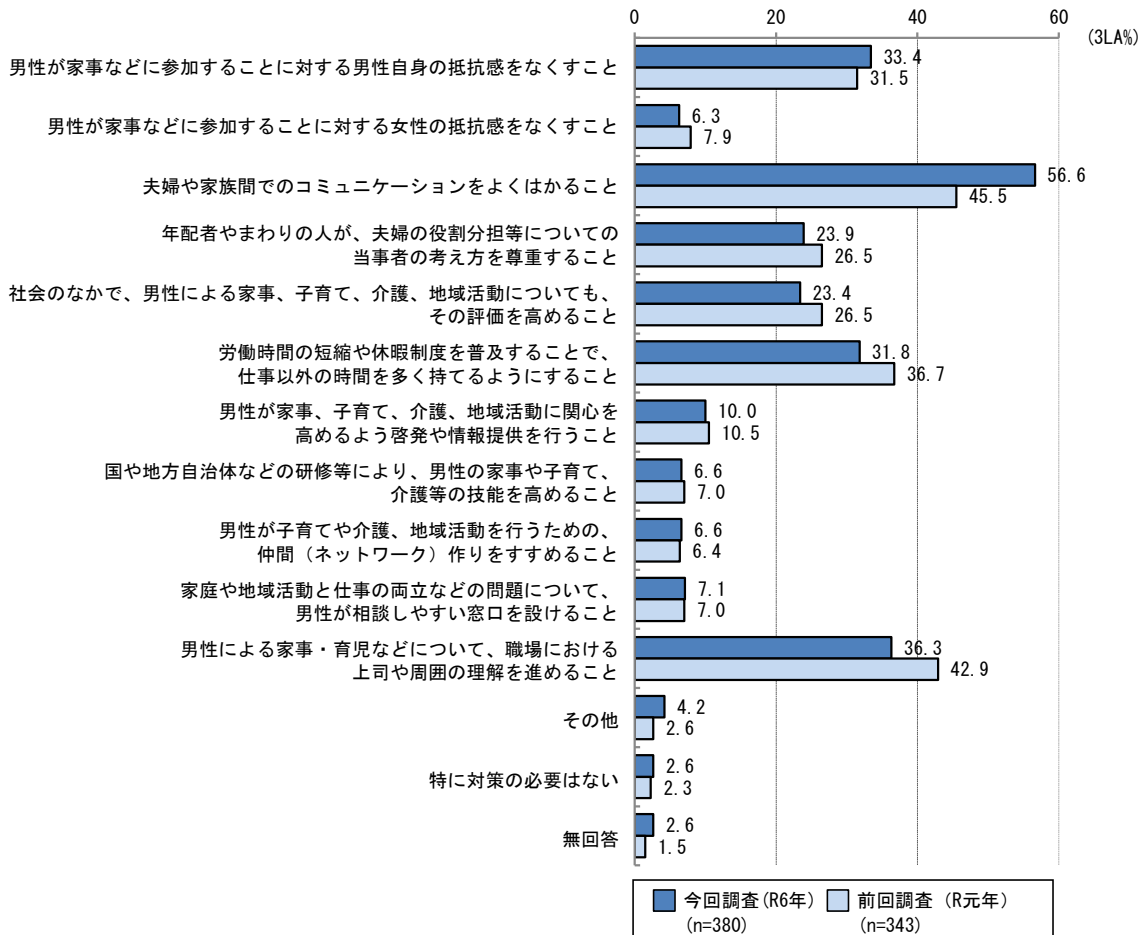
	家事（炊事・洗濯・掃除など）	子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）	介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）	地域の行事への参加、自治会活動	P T A 活動	生活費（年金を含む）の確保	会計の管理	高価な商品や土地、家屋の購入決定
問題だと思う（n=286）	72.0	53.5	37.8	29.0	50.7	14.3	54.5	6.3
問題だと思わない（n=76）	73.7	51.3	35.5	15.8	44.7	11.8	46.1	3.9
わからない（n=14）	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	7.1	21.4	0.0

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、全ての項目で「家事(炊事・洗濯・掃除など)」が最も高く、問題だと思うで72.0%、問題だと思わないで73.7%、わからないで28.6%となっている。(図3-1-4)

(2) 男女ともに家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと

問4 あなたは、今後、男女ともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内選択)

【図3-2-1 経年比較 男女ともに家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと】



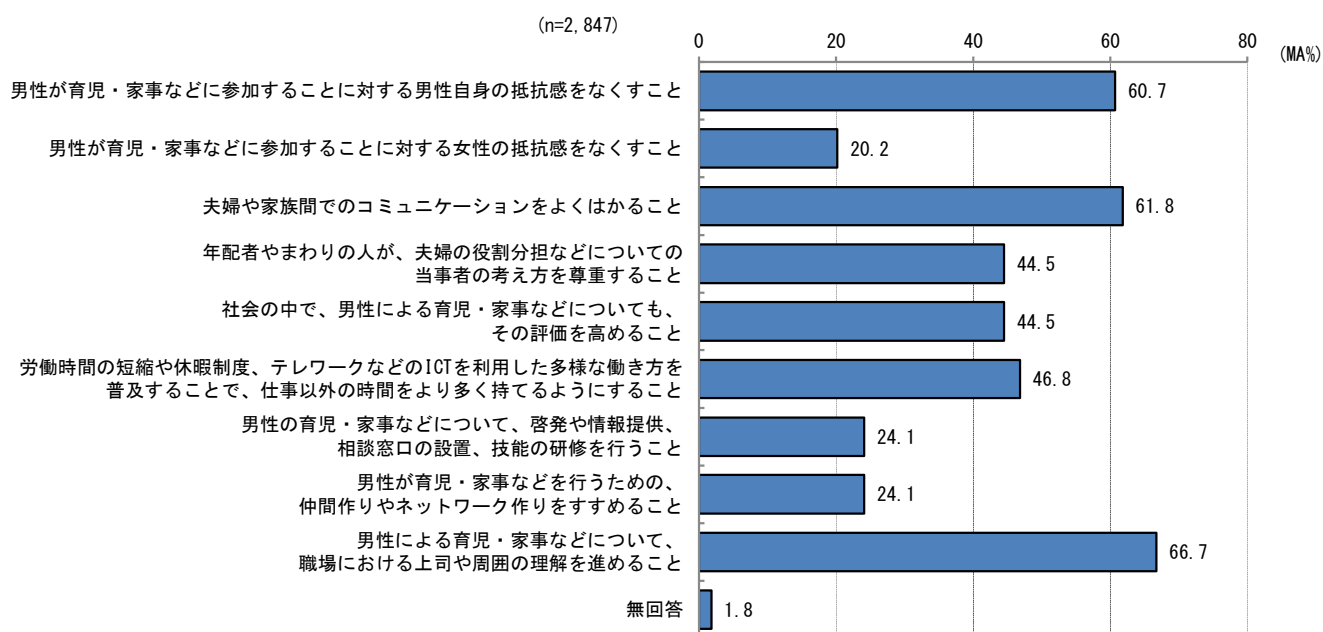
男女ともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が56.6%と最も高く、次いで、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が36.3%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が33.4%、「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」が31.8%、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」が23.9%となっている。

経年比較でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が、今回調査で56.6%、前回調査で45.5%となっており、前回に比べて11.1ポイント高くなっている。

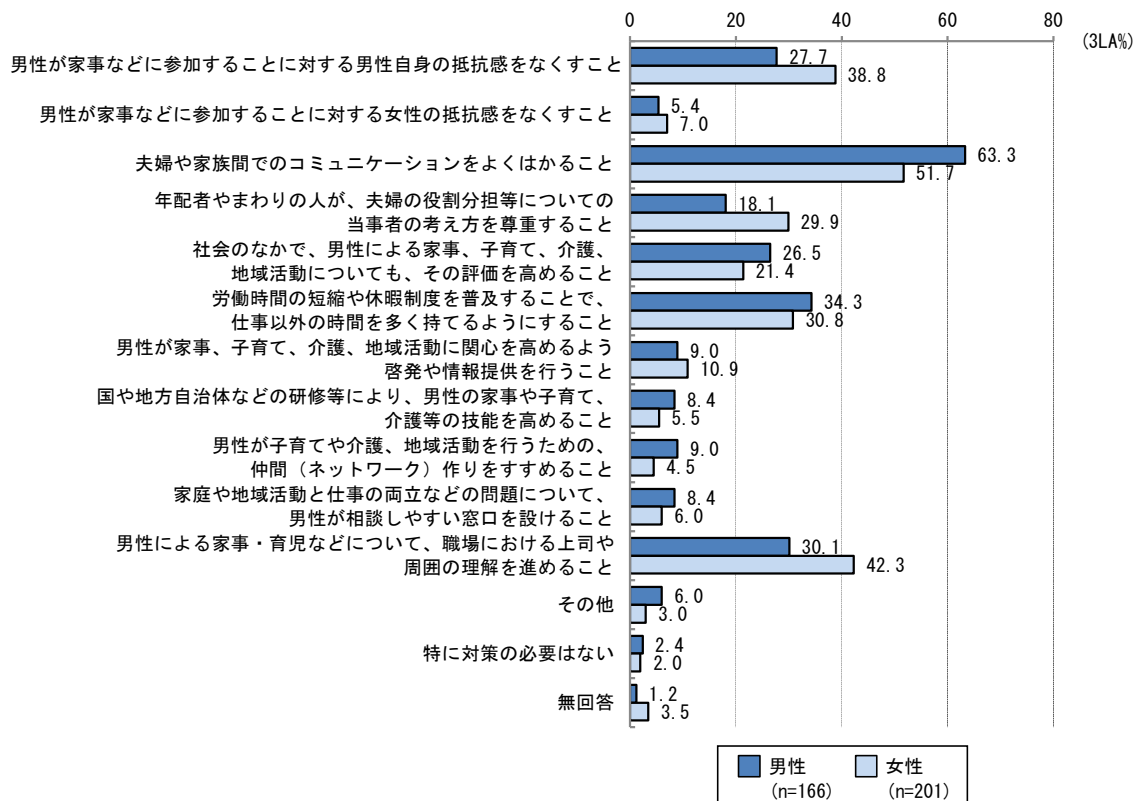
一方で、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が、今回調査で36.3%、前回調査で42.9%となっており、前回に比べて6.6ポイント低くなっている。(図3-2-1)

その他の意見内容は、「学校で教育する」、「民間企業における男女格差の解消」となっています。

【図3-2-2 全国 男女ともに家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと】



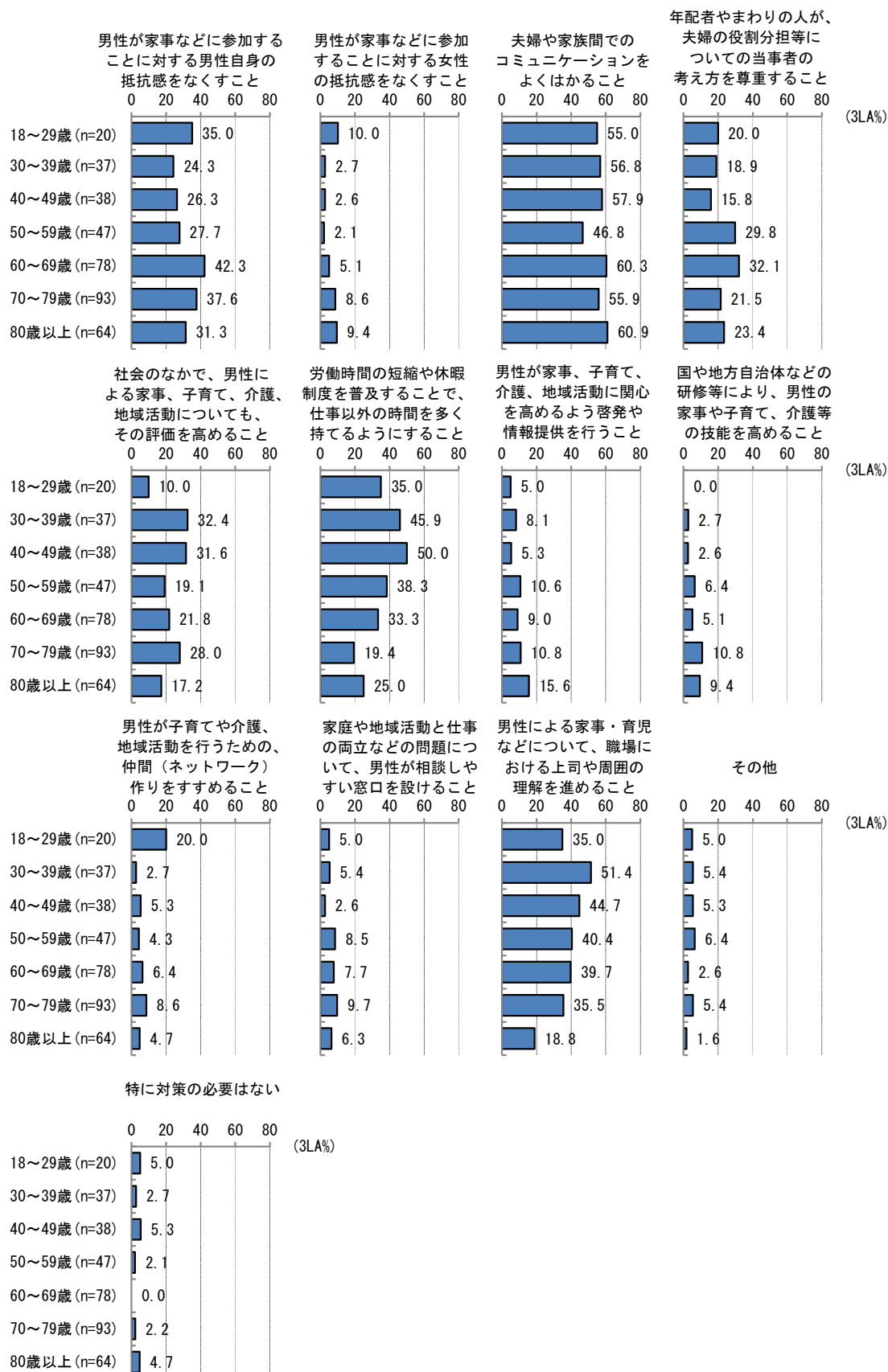
【図3-2-3 性別 男女ともに家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと】



性別でみると、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合は女性が42.3%、男性が30.1%となっており、女性の方が12.2ポイント、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」の割合は女性が29.9%、男性が18.1%となっており、女性の方が11.8ポイント、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合は女性が38.8%、男性が27.7%となっており、女性の方が11.1ポイント高い割合になっている。

一方で、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合は男性が63.3%、女性が51.7%となっており、男性の方が11.6ポイント、「社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」の割合は男性が26.5%、女性が21.4%となっており、男性の方が5.1ポイント、「男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること」の割合は男性が9.0%、女性が4.5%となっており、男性の方が4.5ポイント高い割合になっている。（図3-2-3）

【図3-2-4 年代別 男女ともに家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと】



年代別でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が80歳以上で60.9%と最も高く、次いで、60～69歳で60.3%、40～49歳で57.9%となっている。（図3-2-4）

【図3-2-5 性別による役割分担意識に対する問題意識別

男女ともに家事、子育て等に積極的に参加していくために必要なこと】

	男性が家事などの参加することに対する抵抗感をなくすこと	女性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての方を尊重すること	介護、地域活動についても、その評価を高めること	社会のなかで、男性による家事、子育て、労働時間の短縮や休暇制度を普及すること、仕事以外の時間を多く持つようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	その他	特に対策の必要はない	無回答
問題だと思う (n=286)	37.4	6.6	55.2	25.2	25.2	34.3	11.5	6.3	6.3	7.3	41.3	3.5	0.7	1.0
問題だと思わない (n=76)	21.1	5.3	63.2	21.1	21.1	27.6	6.6	7.9	7.9	7.9	22.4	7.9	7.9	2.6
わからない (n=14)	28.6	7.1	64.3	21.4	7.1	14.3	0.0	7.1	7.1	0.0	21.4	0.0	7.1	14.3

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、全ての項目で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高く、問題だと思うで55.2%、問題だと思わないで63.2%、わからないで64.3%となっている。（図3-2-5）

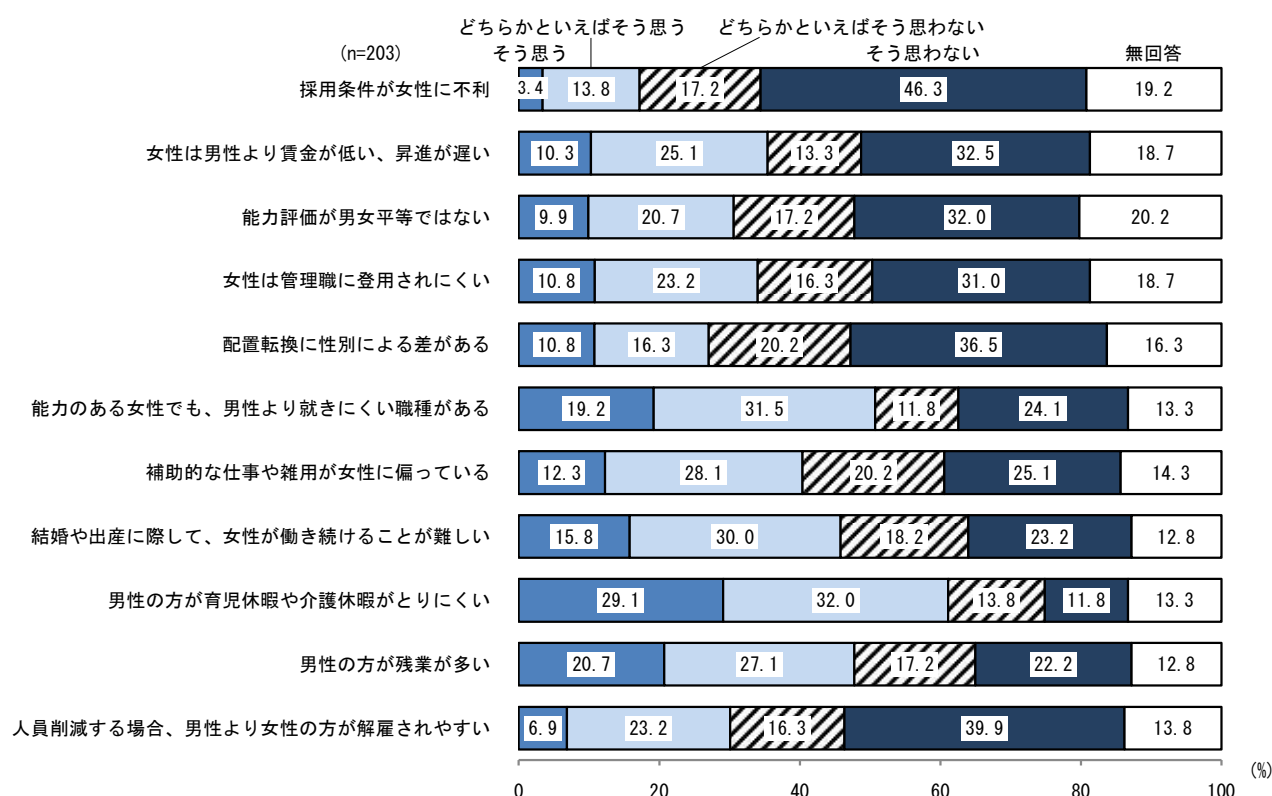
4. 仕事について

(1) 職場環境

【「女性のみの職場」、「男性のみの職場」以外に勤めている人（パート・アルバイトなどを含む）におたずねします。】

問5 あなたの職場では、次のようなことがありますか。（それぞれ1つ選択）

【図4-1 職場環境】



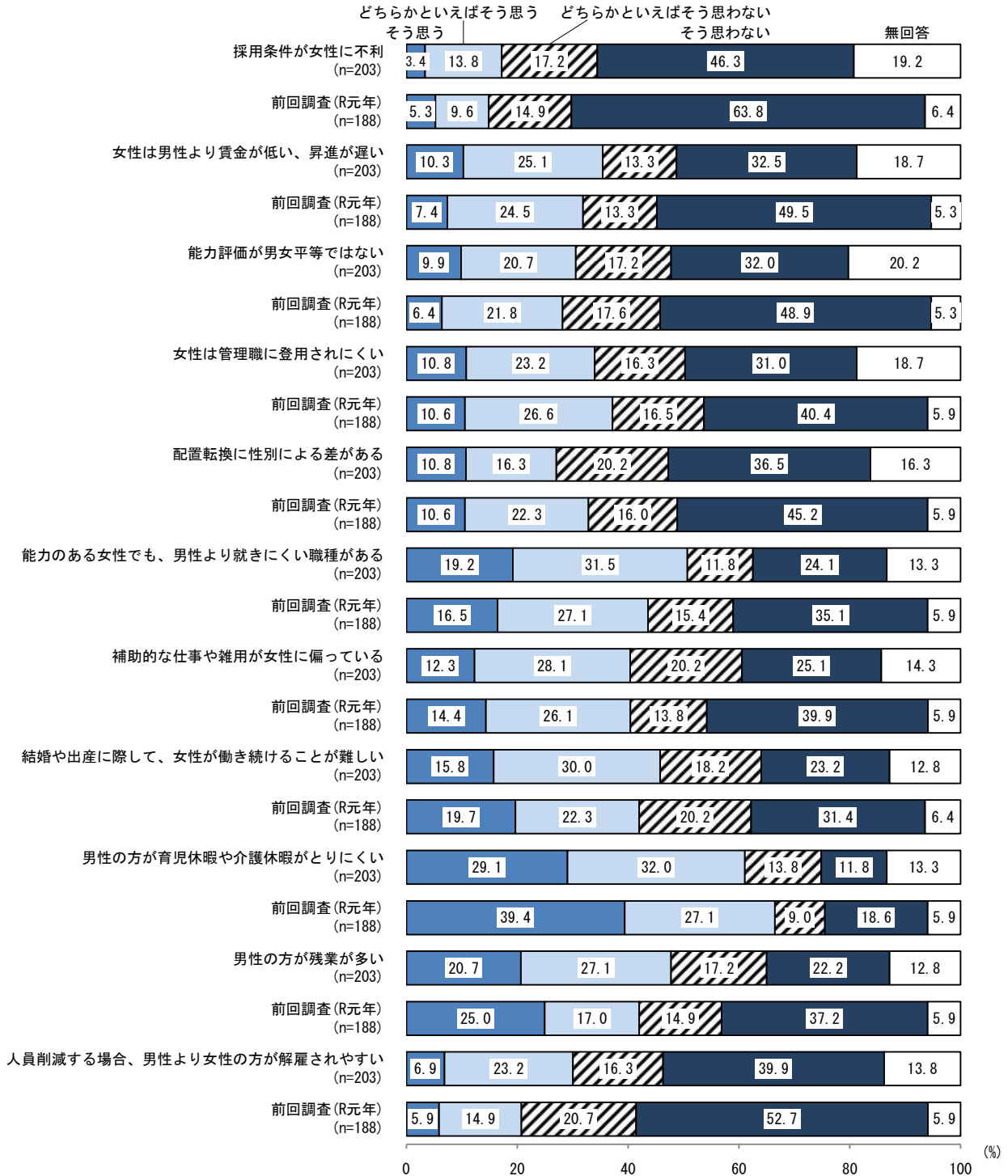
※職業で、「自営業、自由業」「正社員・正職員」「非正規社員・非正規職員」「役員」のいずれかを回答した人を集計対象とする。

※「無回答」には、「女性のみの職場」および「男性のみの職場」の人も含まれる。

どのような人権侵害だったかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が、「男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい」で61.1%と最も高く、次いで、「能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある」で50.7%、「男性の方が残業が多い」で47.8%となっている。

一方で「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』が、「採用条件が女性に不利」で63.5%と最も高く、次いで、「配置転換に性別による差がある」が56.7%、「人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい」が56.2%となっている。（図4-1）

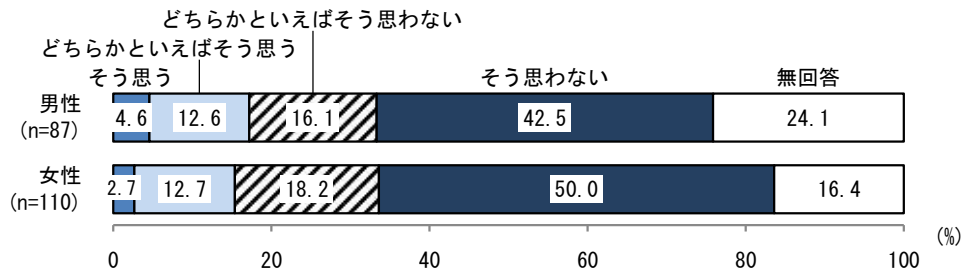
【図4-1-1 経年比較 職場環境】



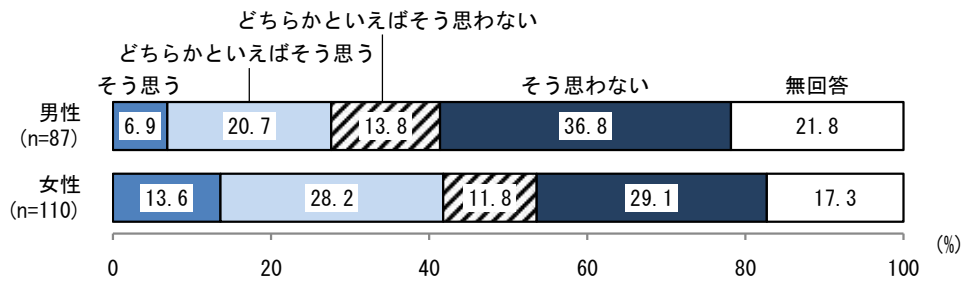
経年比較でみると、「能力評価が男女平等ではない」で『そう思わない』が、今回調査で49.2%、前回調査で66.5%となっており、前回に比べて17.3ポイント、「人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい」で『そう思わない』が、今回調査で56.2%、前回調査で73.4%となっており、前回に比べて17.2ポイント、「女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い」で『そう思わない』が、今回調査で45.8%、前回調査で62.8%となっており、前回に比べて17.0ポイント低くなっている。(図4-1-1)

【図4-1-2 性別 職場環境】

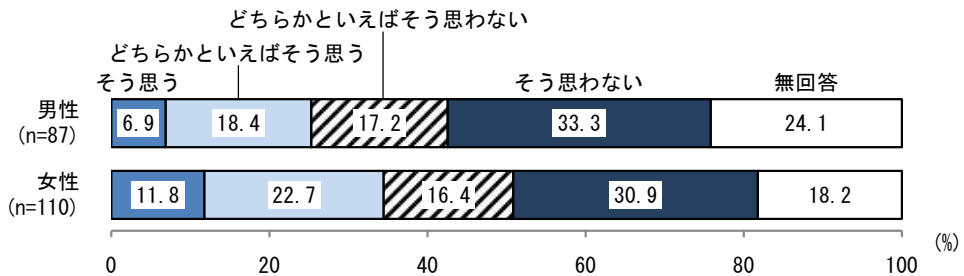
〔1. 採用条件が女性に不利〕



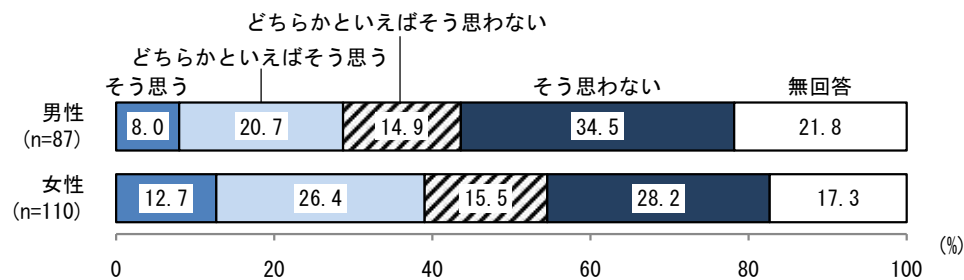
〔2. 女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い〕



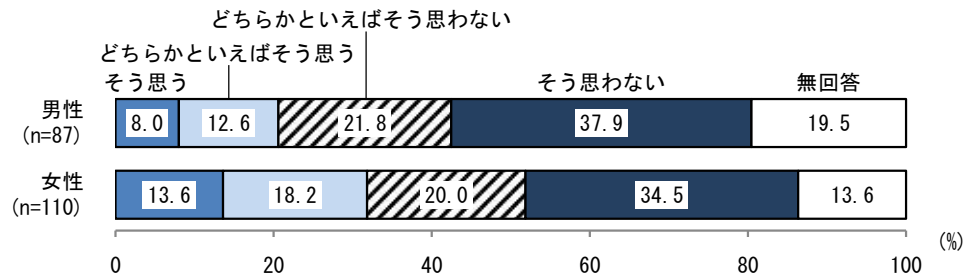
〔3. 能力評価が男女平等ではない〕



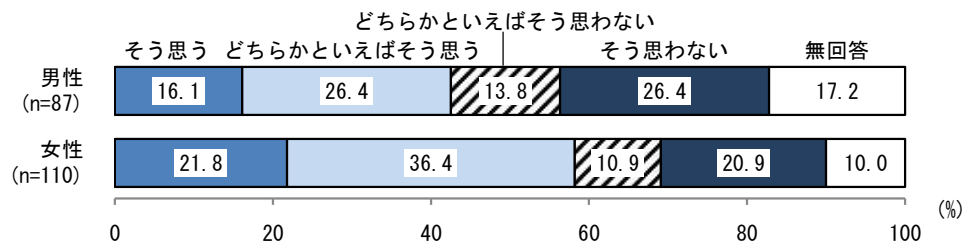
〔4. 女性は管理職に登用されにくい〕



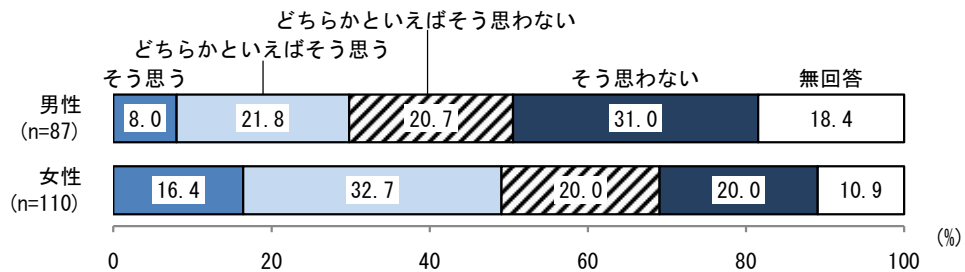
〔5. 配置転換に性別による差がある〕



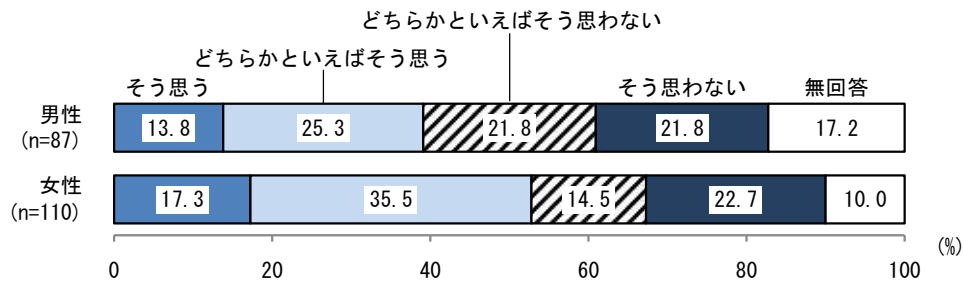
〔6. 能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある〕



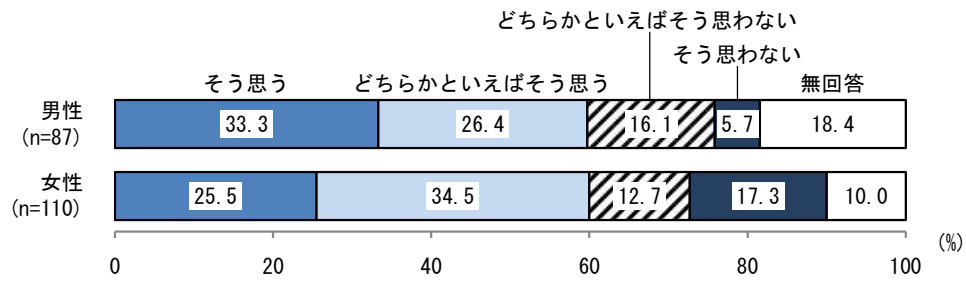
〔7. 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている〕



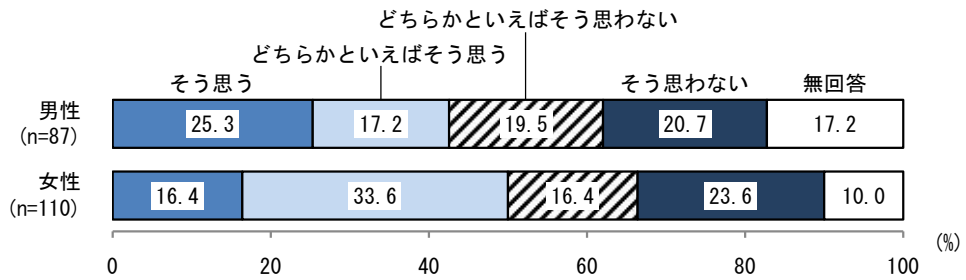
〔8. 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい〕



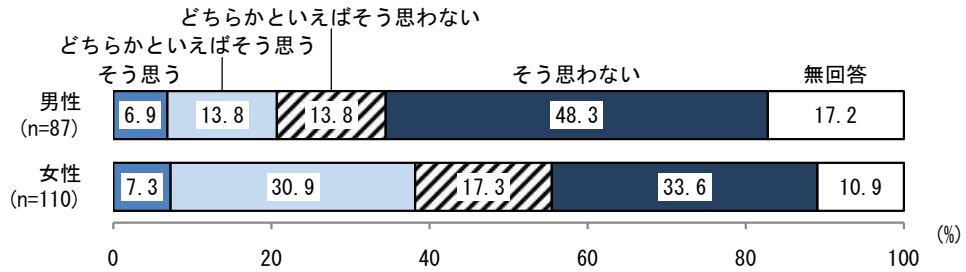
〔9. 男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい〕



〔10. 男性の方が残業が多い〕



〔11. 人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい〕



性別でみると、「採用条件が女性に不利」で『そう思う』の割合は男性が17.2%、女性が15.4%となっており、男性の方が1.8ポイント高い割合になっている。

「女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い」で『そう思う』の割合は女性が41.8%、男性が27.6%となっており、女性の方が14.2ポイント高い割合になっている。

「能力評価が男女平等ではない」で『そう思う』の割合は女性が34.5%、男性が25.3%となっており、女性の方が9.2ポイント高い割合になっている。

「女性は管理職に登用されにくい」で『そう思う』の割合は女性が39.1%、男性が28.7%となっており、女性の方が10.4ポイント高い割合になっている。

「配置転換に性別による差がある」で『そう思う』の割合は女性が31.8%、男性が20.6%となっており、女性の方が11.2ポイント高い割合になっている。

「能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある」で『そう思う』の割合は女性が58.2%、男性が42.5%となっており、女性の方が15.7ポイント高い割合になっている。

「補助的な仕事や雑用が女性に偏っている」で『そう思う』の割合は女性が49.1%、男性が29.8%となっており、女性の方が19.3ポイント高い割合になっている。

「結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい」で『そう思う』の割合は女性が52.8%、男性が39.1%となっており、女性の方が13.7ポイント高い割合になっている。

「男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい」で『そう思う』の割合は女性が60.0%、男性が59.7%となっており、女性の方が0.3ポイント高い割合になっている。

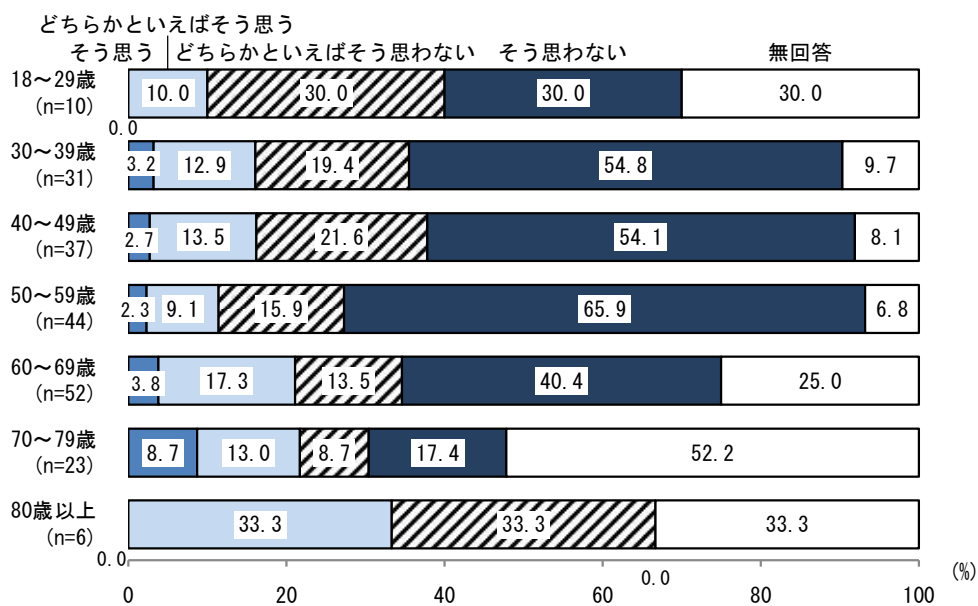
「男性の方が残業が多い」で『そう思う』の割合は女性が50.0%、男性が42.5%となっており、女性の方が7.5ポイント高い割合になっている。

「人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい」で『そう思う』の割合は女性が38.2%、男性が20.7%となっており、女性の方が17.5ポイント高い割合になっている。

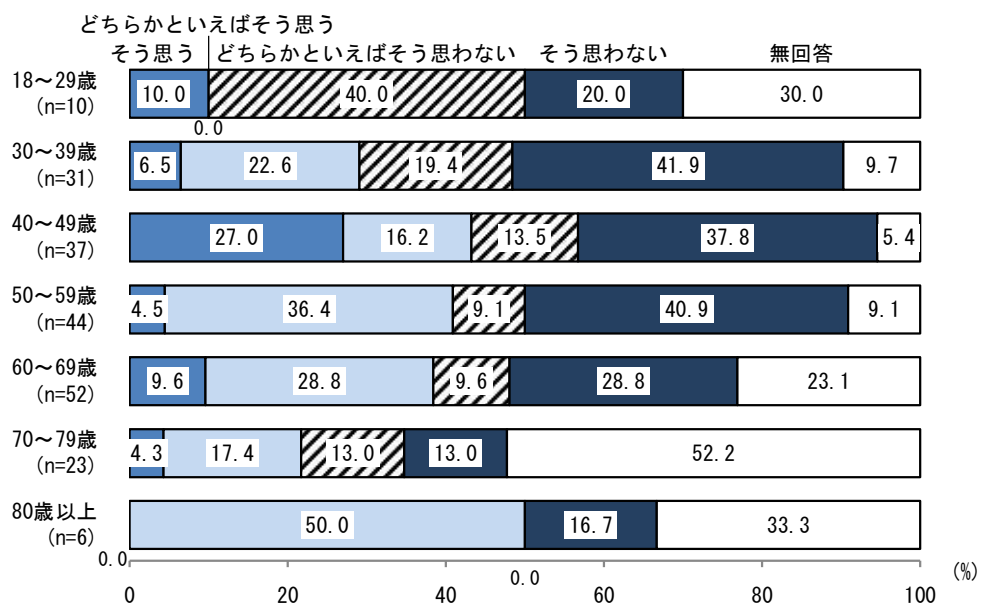
(図4-1-2)

【図4-1-3 年代別 職場環境】

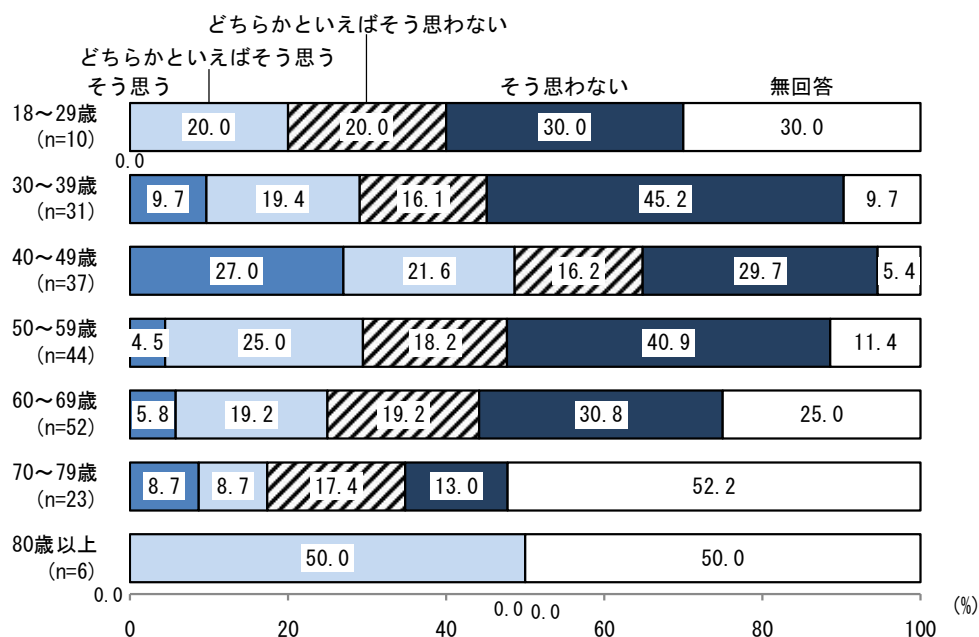
〔1. 採用条件が女性に不利〕



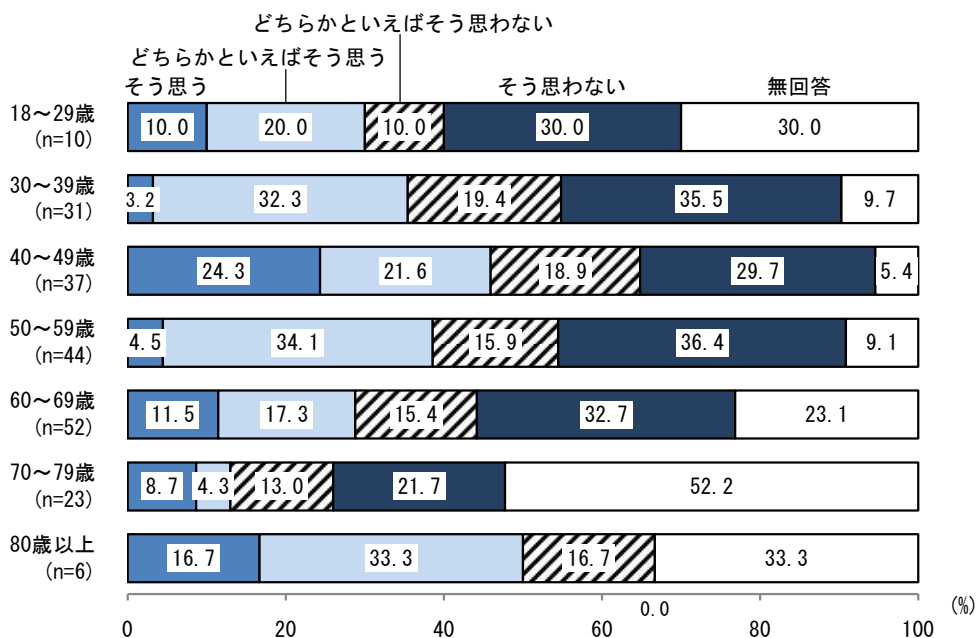
〔2. 女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い〕



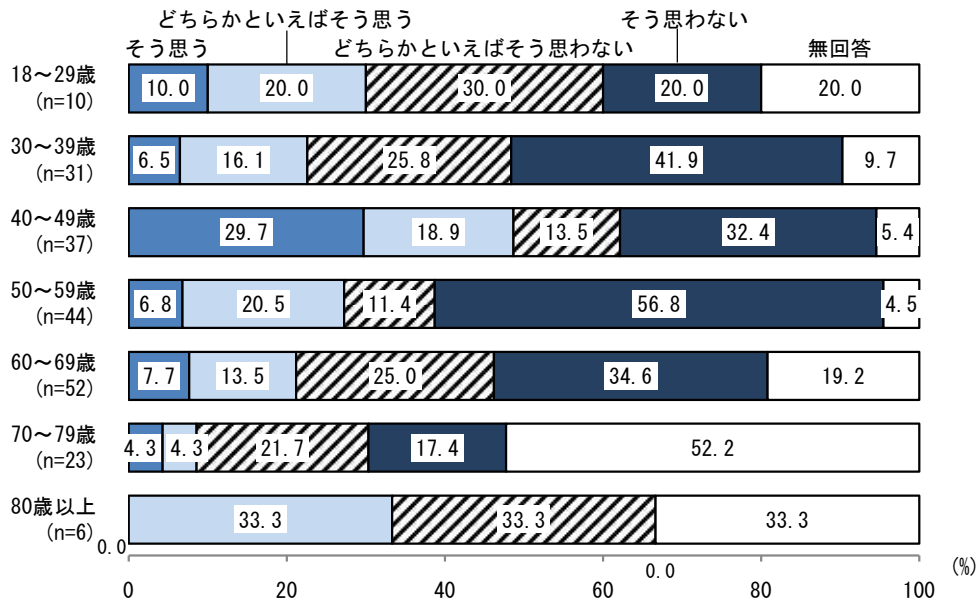
〔3. 能力評価が男女平等ではない〕



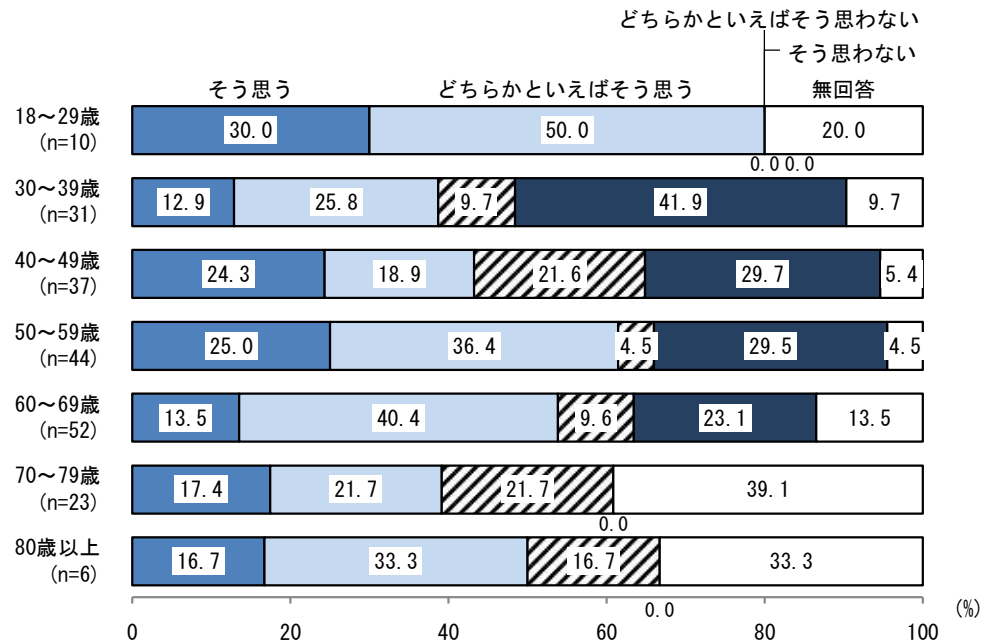
〔4. 女性は管理職に登用されにくい〕



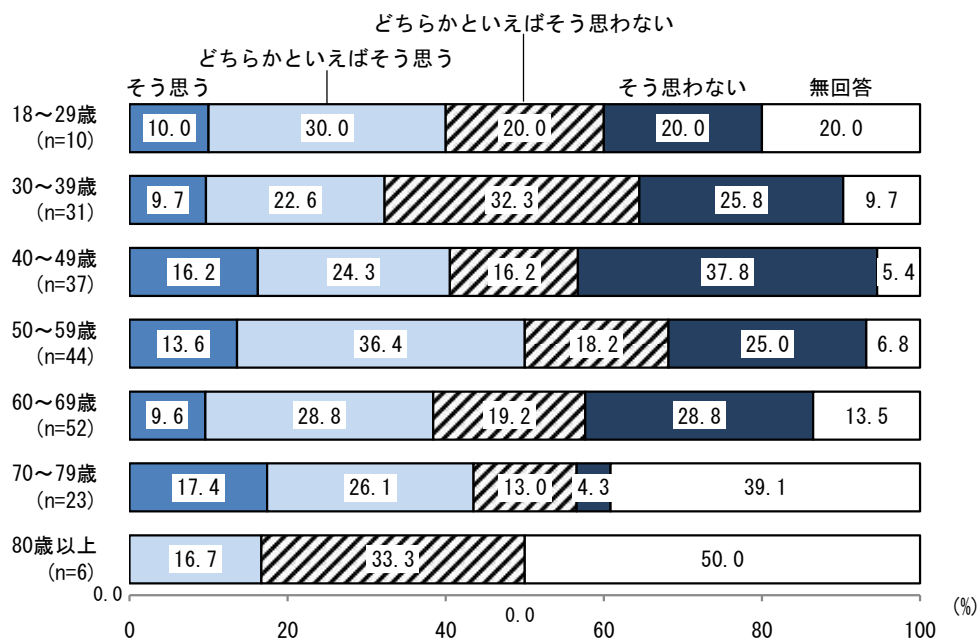
〔5. 配置転換に性別による差がある〕



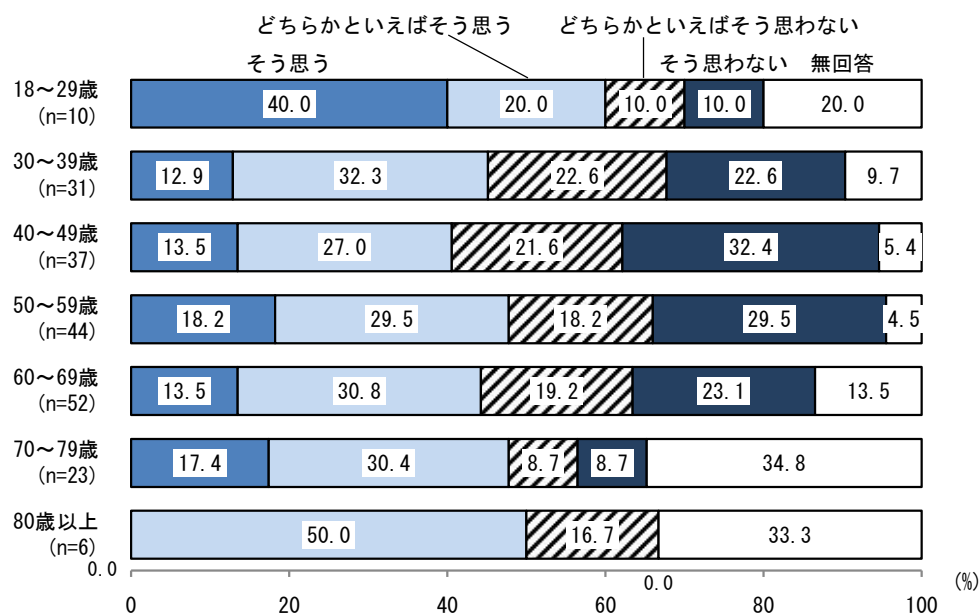
〔6. 能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある〕



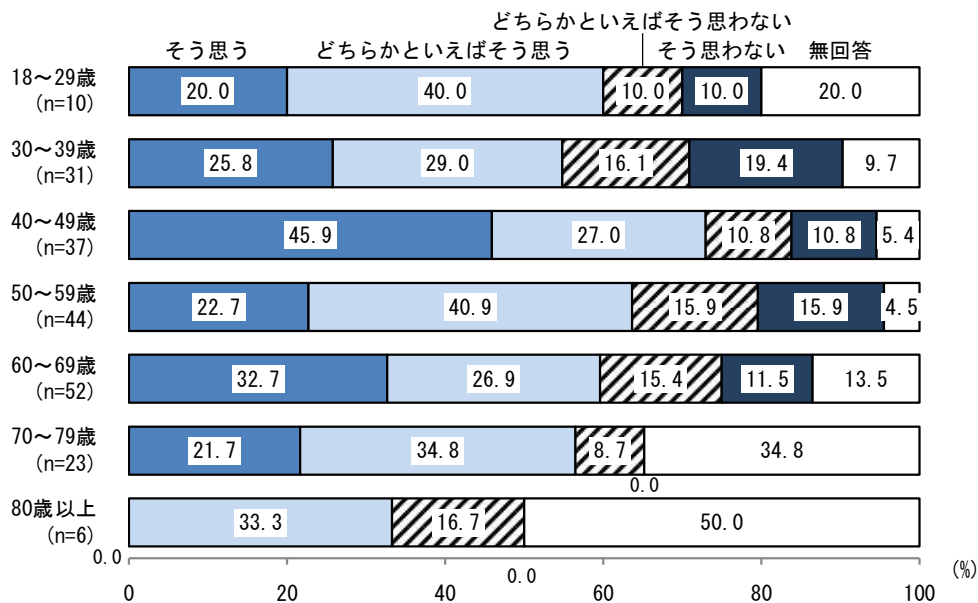
〔7. 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている〕



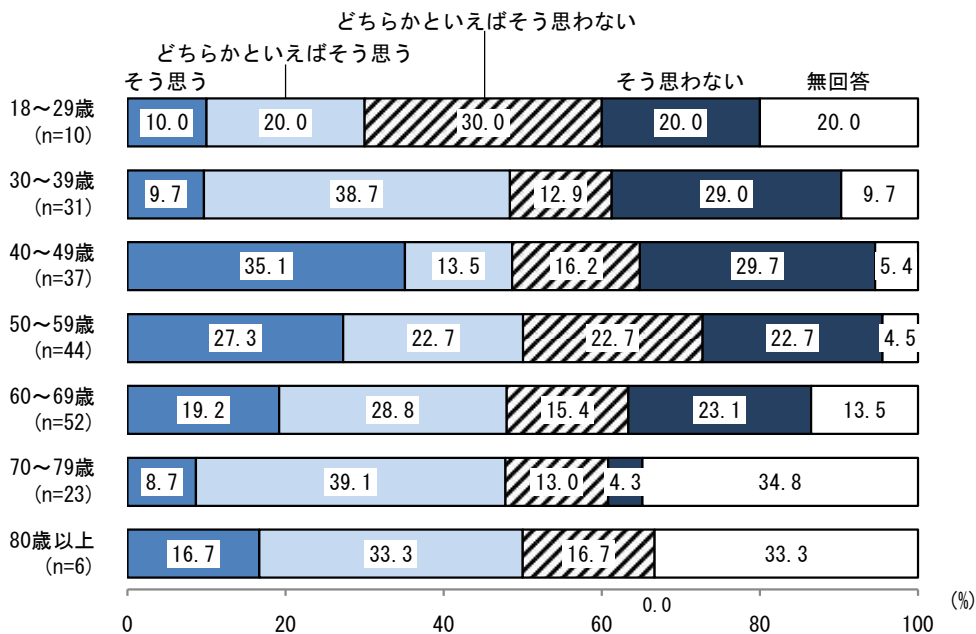
〔8. 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい〕



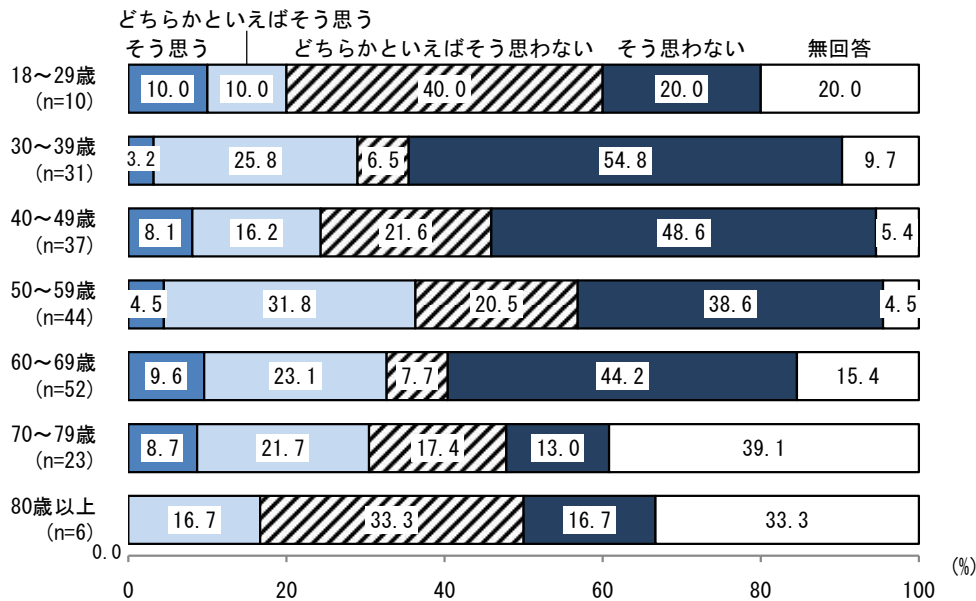
〔9. 男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい〕



〔10. 男性の方が残業が多い〕



〔11. 人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい〕



年代別では、「18～29歳」と「80歳以上」が10人以下と母数が少ないので省いてみると、「採用条件が女性に不利」で『思う』が70～79歳で21.7%と最も高く、次いで、60～69歳で21.1%、40～49歳で16.2%となっている。

「女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い」で『思う』が40～49歳で43.2%と最も高く、次いで、50～59歳で40.9%、60～69歳で38.4%となっている。

「能力評価が男女平等ではない」で『思う』が40～49歳で48.6%と最も高く、次いで、50～59歳で29.5%、30～39歳で29.1%となっている。

「女性は管理職に登用されにくい」で『思う』が40～49歳で45.9%と最も高く、次いで、50～59歳で38.6%、30～39歳で35.5%となっている。

「配置転換に性別による差がある」で『思う』が40～49歳で48.6%と最も高く、次いで、50～59歳で27.3%、30～39歳で22.6%となっている。

「能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある」で『思う』が50～59歳で61.4%と最も高く、次いで、60～69歳で53.9%、40～49歳で43.2%となっている。

「補助的な仕事や雑用が女性に偏っている」で『思う』が50～59歳で50.0%と最も高く、次いで、70～79歳で43.5%、40～49歳で40.5%となっている。

「結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい」で『思う』が70～79歳で47.8%と最も高く、次いで、50～59歳で47.7%、30～39歳で45.2%となっている。

「男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい」で『思う』が40～49歳で72.9%と最も高く、次いで、50～59歳で63.6%、60～69歳で59.6%となっている。

「男性の方が残業が多い」で『思う』が50～59歳で50.0%と最も高く、次いで、40～49歳で48.6%、30～39歳で48.4%となっている。

「人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい」で『思う』が50～59歳で36.3%と最も高く、次いで、60～69歳で32.7%、70～79歳で30.4%となっている。(図4-1-3)

【図4-1-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別 職場環境（そう思う割合）】

(%)

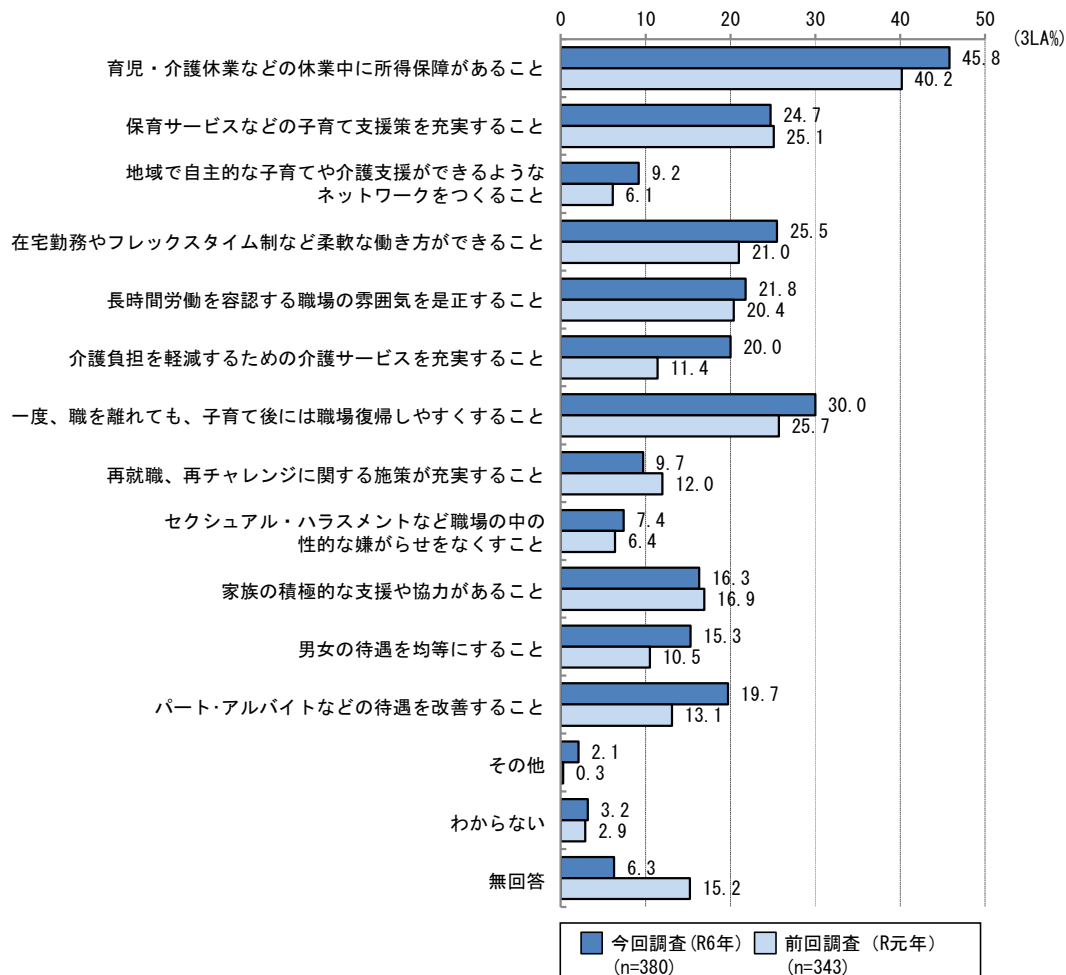
	採用条件が女性に不利	昇進は男性より賃金が低い、	能力評価が男女平等ではない	女性は管理職に登用されにくい	配置転換に性別による差がある	就能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある	補助的な仕事や雑用が女性に偏っている	結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい	男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい	男性の方が残業が多い	人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい
問題だと思う (n=203)	17.2	36.7	31.4	35.0	26.7	49.8	41.4	46.2	58.6	44.9	30.8
問題だと思わない (n=169)	20.7	31.0	31.0	31.0	31.0	58.6	41.4	44.8	79.3	65.5	31.0
わからない (n=29)	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うと問題だと思わないは「男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい」で、それぞれ58.6%、79.3%、わからないは「能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある」「結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい」「男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい」「男性の方が残業が多い」で50.0%と最も高くなっている。(図4-1-4)

(2) 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと

問6 あなたは、男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内選択)

【図4-2-1 経年比較 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと】

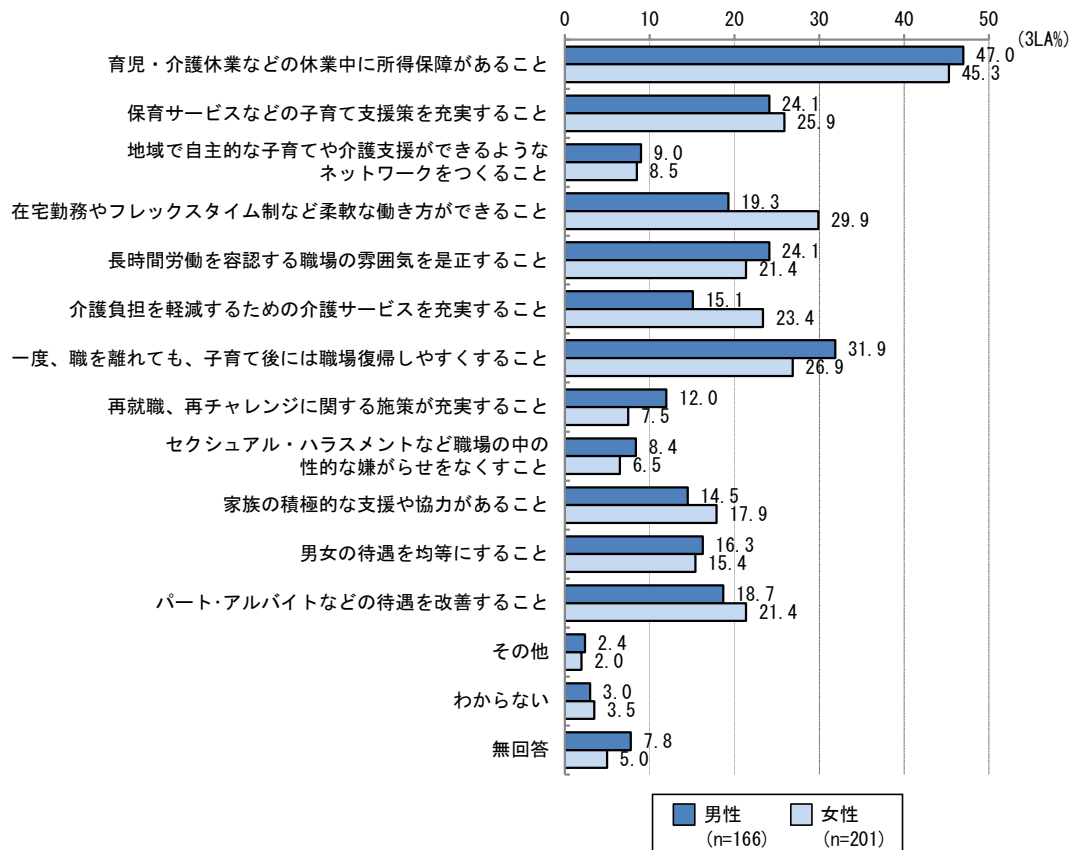


男女がともに働きやすい環境をつくるために必要だと思うことについて、「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」が45.8%と最も高く、次いで、「一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること」が30.0%、「在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること」が25.5%、「保育サービスなどの子育て支援策を充実すること」が24.7%、「長時間労働を容認する職場の雰囲気を是正すること」が21.8%となっている。

経年比較でみると、「介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること」が、今回調査で20.0%、前回調査で11.4%となっており、前回に比べて8.6ポイント、「パート・アルバイトなどの待遇を改善すること」が、今回調査で19.7%、前回調査で13.1%となっており、前回に比べて6.6ポイント、「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」が、今回調査で45.8%、前回調査で40.2%となっており、前回に比べて5.6ポイント高くなっている。(図4-2-1)

その他の主な意見内容は、「所得税の壁を取り除く」となっています。

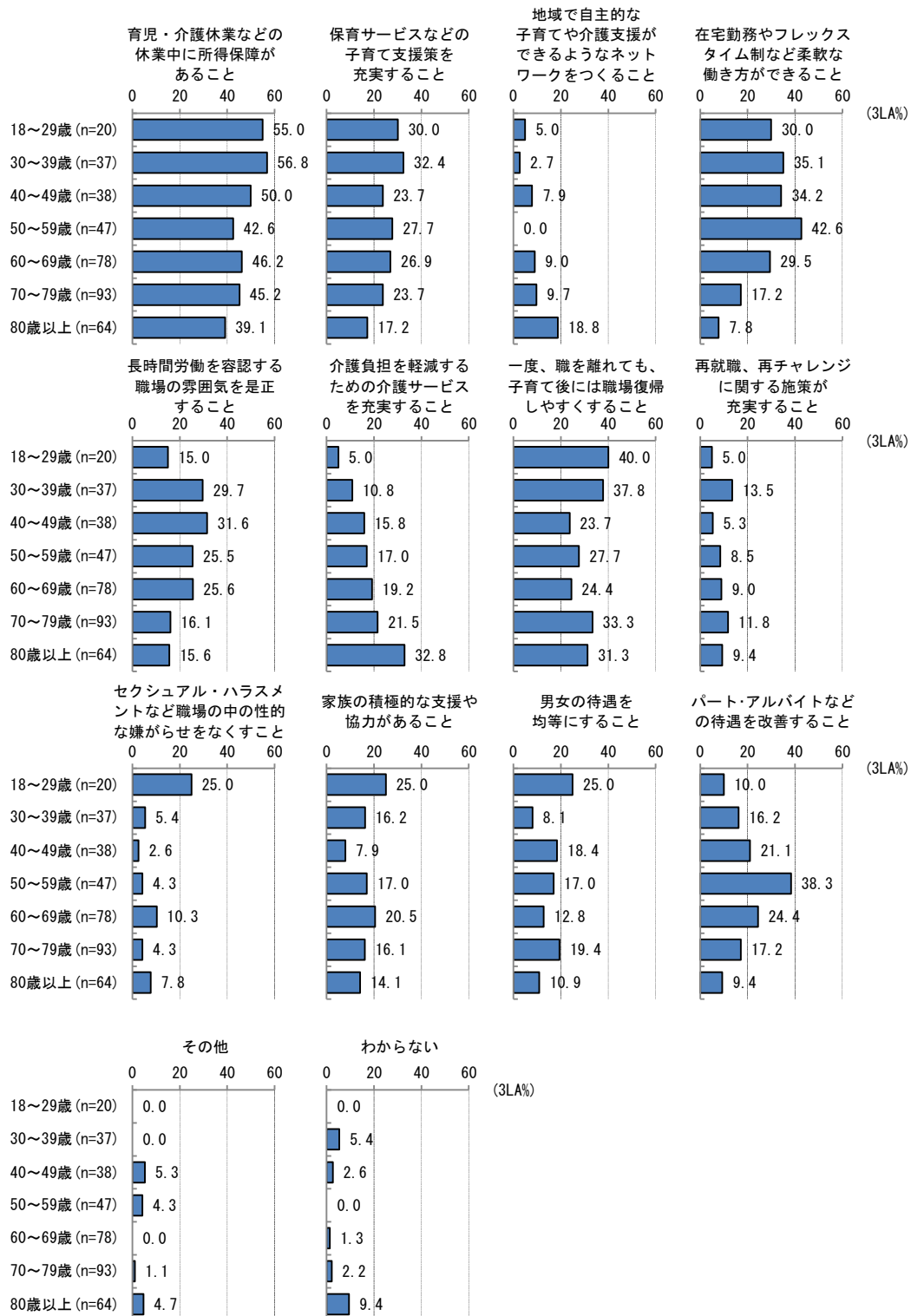
【図4-2-2 性別 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと】



性別でみると、「在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること」の割合は女性が29.9%、男性が19.3%となっており、女性の方が10.6ポイント、「介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること」の割合は女性が23.4%、男性が15.1%となっており、女性の方が8.3ポイント、「家族の積極的な支援や協力があること」の割合は女性が17.9%、男性が14.5%となっており、女性の方が3.4ポイント高い割合になっている。

一方で、「一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること」の割合は男性が31.9%、女性が26.9%となっており、男性の方が5.0ポイント、「再就職、再チャレンジに関する施策が充実すること」の割合は男性が12.0%、女性が7.5%となっており、男性の方が4.5ポイント、「長時間労働を容認する職場の雰囲気を是正すること」の割合は男性が24.1%、女性が21.4%となっており、男性の方が2.7ポイント高い割合になっている。(図4-2-2)

【図4-2-3 年代別 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと】



年代別でみると、「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」が30～39歳で56.8%と最も高く、次いで、18～29歳で55.0%、40～49歳で50.0%となっている。

「介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること」の割合は80歳以上で32.8%と高く、次いで、70～79歳で21.5%、60～69歳で19.2%と年代が上がるにつれ、割合が高くなっている。(図4-2-3)

【図4-2-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別
男女がともに働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと】

(%)

	育児・介護休業などの休業中に 所得保障があること	保育サービスなどの 子育て支援策を充実すること	地域で自主的な子育てや ネットワークをつくること	在宅勤務やフレックスタイム制 など柔軟な働き方ができること	長時間労働を容認する職場の 雰囲気をは正すること	介護負担を軽減するための 介護サービスを充実すること	一度、職を離れても、子育て 後には職場復帰しやすくすること	再就職、再チャレンジに関する 施策が充実すること	職場の中の性的な嫌がらせを なくすること	セクシュアル・ハラスメントなど 職場の中の性的な嫌がらせを なくすること	家族の積極的な支援や協力が あること	男女の待遇を均等にすること	パート・アルバイトなどの 待遇を改善すること	その他	わからない	無回答
問題だと思う (n=286)	50.0	24.8	8.7	28.7	23.4	20.3	32.2	10.5	7.7	15.7	17.1	21.3	0.7	0.3	5.6	
問題だと思わない (n=76)	35.5	25.0	10.5	17.1	19.7	18.4	26.3	7.9	5.3	18.4	11.8	15.8	6.6	7.9	7.9	
わからない (n=14)	28.6	28.6	7.1	14.3	7.1	21.4	14.3	7.1	7.1	21.4	0.0	7.1	7.1	28.6	7.1	

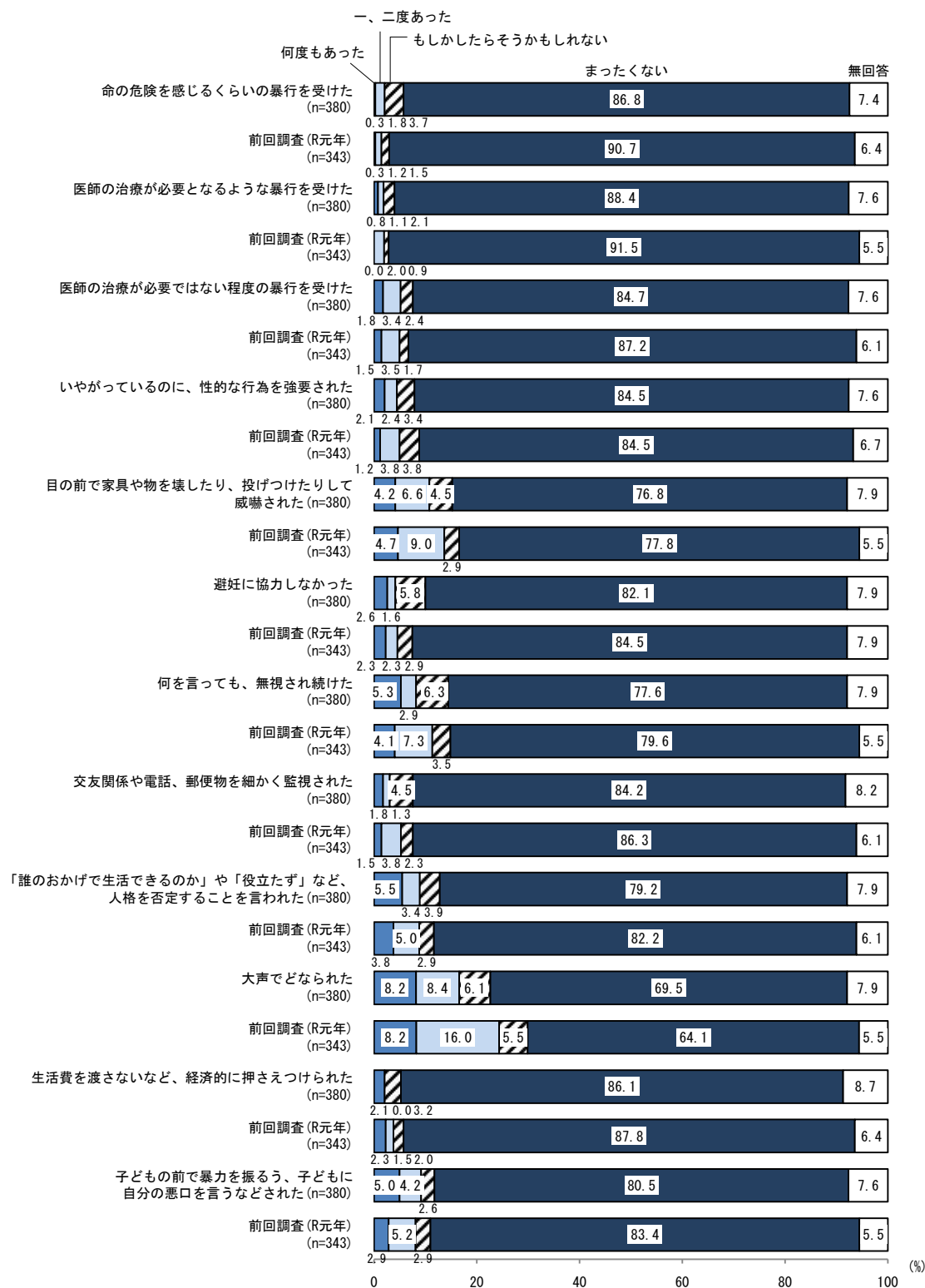
性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うと問題だと思わないは「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」で、それぞれ50.0%、35.5%、わからない「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」「保育サービスなどの子育て支援策を充実すること」「わからない」で28.6%と最も高くなっている。(図4-2-4)

5. 配偶者・恋人等からの暴力について

(1) 暴力を受けた経験の有無

問7 あなたはこれまでに、あなたの配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。（それぞれ1つ選択）

【図5-1-1 経年比較 暴力を受けた経験の有無】



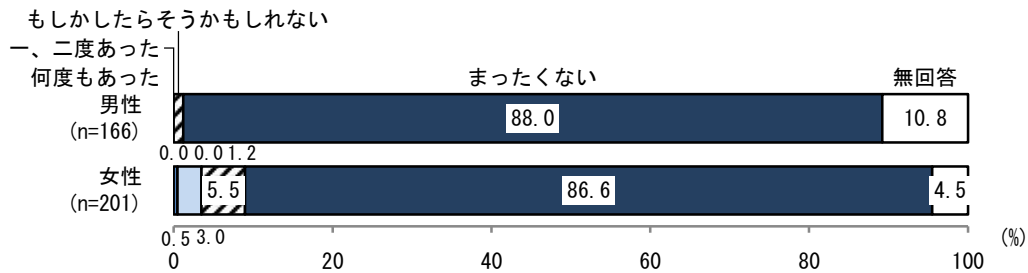
暴力を受けた経験の有無について、「何度もあった」と「一、二度あった」と「もしかしたらそうかもしれない」を合わせた『経験あり』が、「大声でどなられた」で22.7%と最も高く、次いで、「目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された」で15.3%、「何を言っても、無視され続けた」で14.5%となっている。

一方で、「まったくない（＝経験なし）」が、「医師の治療が必要となるような暴行を受けた」で88.4%と最も高く、次いで、「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」で86.8%、「生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた」で86.1%となっている。

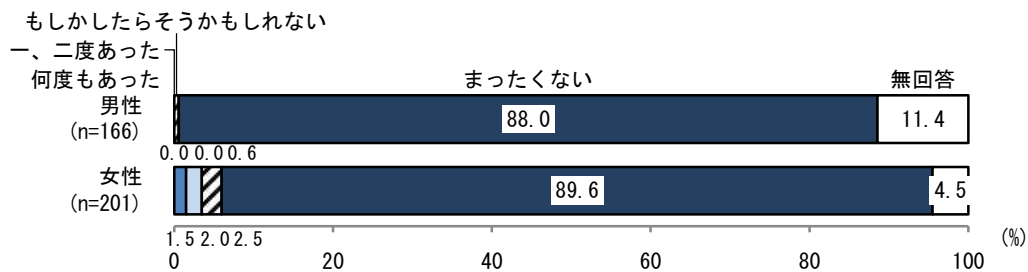
経年比較でみると、「大声でどなられた」で『経験あり』が、今回調査で22.7%、前回調査で29.7%となっており、前回に比べて7.0ポイント低くなっている。（図5-1-1）

【図5-1-2 性別 暴力を受けた経験の有無】

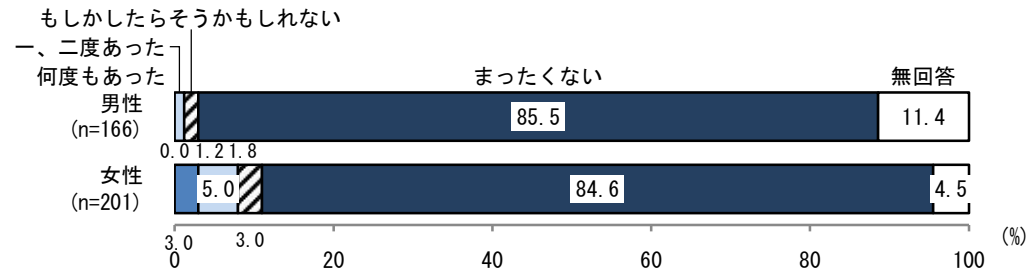
〔1. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた〕



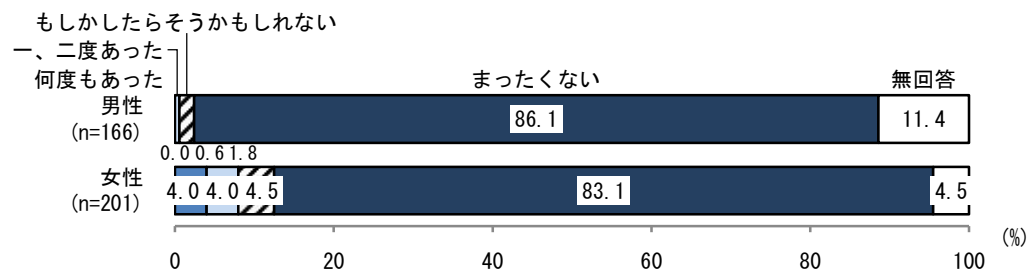
〔2. 医師の治療が必要となるような暴行を受けた〕



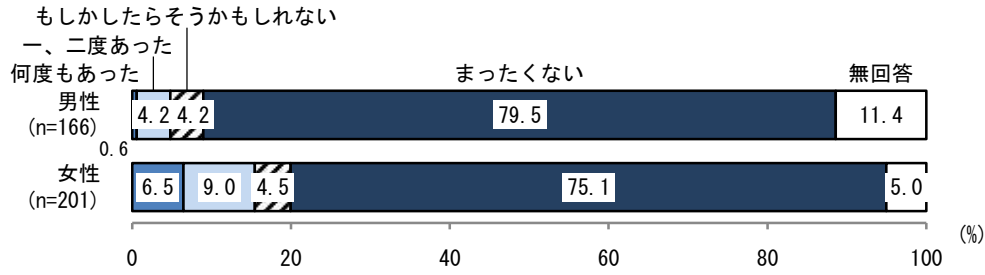
〔3. 医師の治療が必要ではない程度の暴行を受けた〕



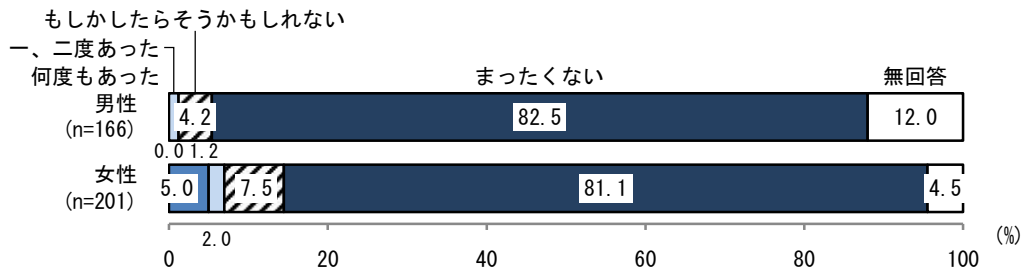
〔4. いやがっているのに、性的な行為を強要された〕



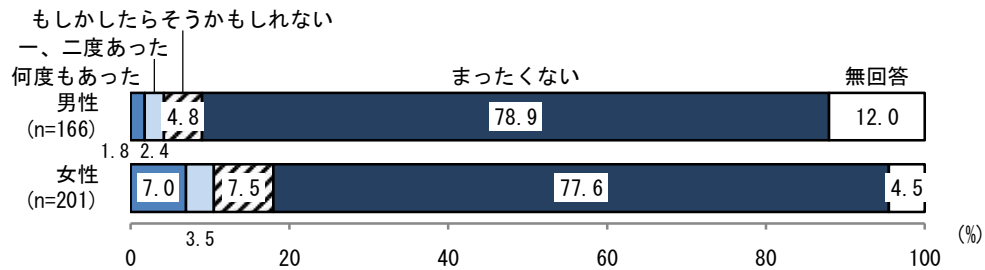
〔5. 目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された〕



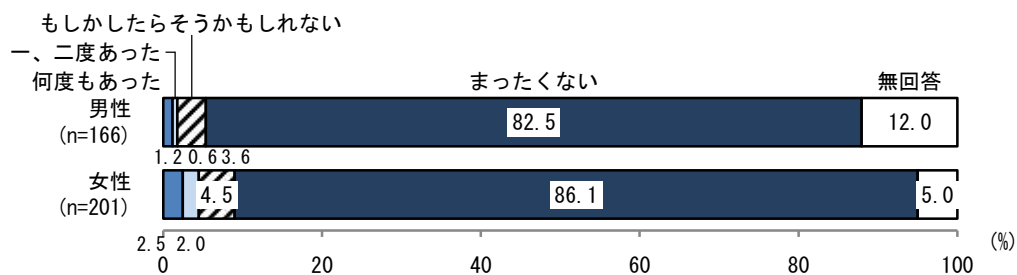
〔6. 避妊に協力しなかった〕



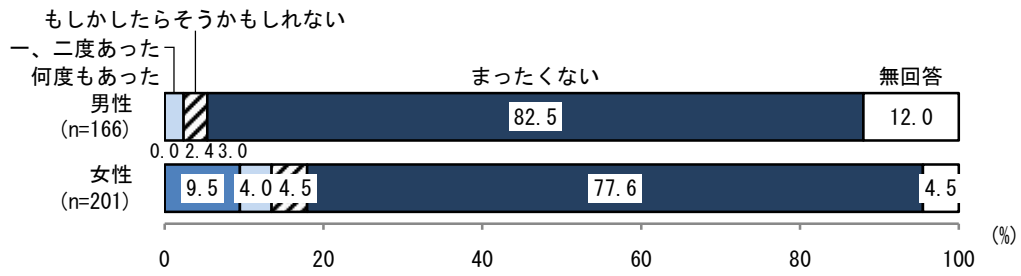
〔7. 何を言っても、無視され続けた〕



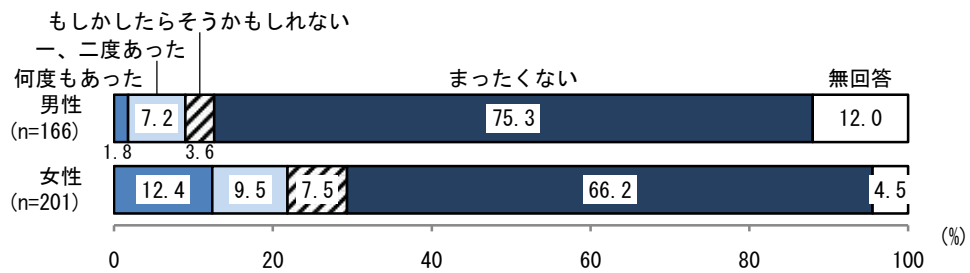
〔8. 交友関係や電話、郵便物を細かく監視された〕



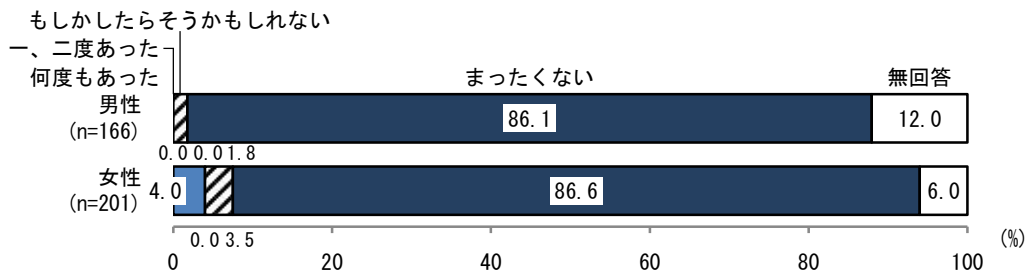
〔9. 「誰のおかげで生活できるのか」や「役立たず」など、人格を否定することを言われた〕



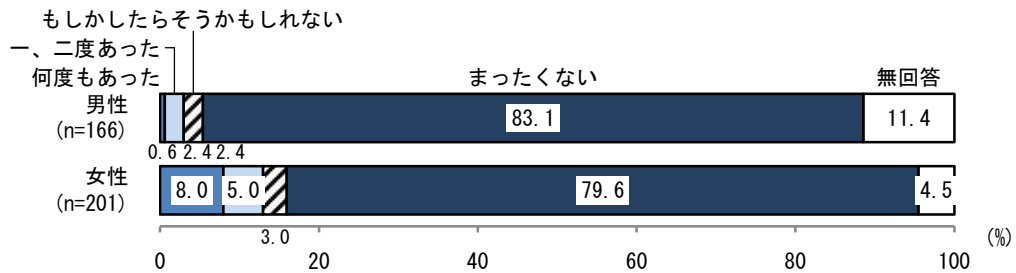
〔10. 大声でどなられた〕



〔11. 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた〕



〔12. 子どもの前で暴力を振るう、子どもに自分の悪口を言うなどされた〕



性別でみると、「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」で『経験あり』の割合は女性が9.0%、男性が1.2%となっており、女性の方が7.8ポイント高い割合になっている。

「医師の治療が必要となるような暴行を受けた」で『経験あり』の割合は女性が6.0%、男性が0.6%となっており、女性の方が5.4ポイント高い割合になっている。

「医師の治療が必要ではない程度の暴行を受けた」で『経験あり』の割合は女性が11.0%、男性が3.0%となっており、女性の方が8.0ポイント高い割合になっている。

「いやがっているのに、性的な行為を強要された」で『経験あり』の割合は女性が12.5%、男性が2.4%となっており、女性の方が10.1ポイント高い割合になっている。

「目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された」で『経験あり』の割合は女性が20.0%、男性が9.0%となっており、女性の方が11.0ポイント高い割合になっている。

「避妊に協力しなかった」で『経験あり』の割合は女性が14.5%、男性が5.4%となっており、女性の方が9.1ポイント高い割合になっている。

「何を言っても、無視され続けた」で『経験あり』の割合は女性が18.0%、男性が9.0%となっており、女性の方が9.0ポイント高い割合になっている。

「交友関係や電話、郵便物を細かく監視された」で『経験あり』の割合は女性が9.0%、男性が5.4%となっており、女性の方が3.6ポイント高い割合になっている。

「誰のおかげで生活できるのか」や「役立たず」など、人格を否定することを言われた」で『経験あり』の割合は女性が18.0%、男性が5.4%となっており、女性の方が12.6ポイント高い割合になっている。

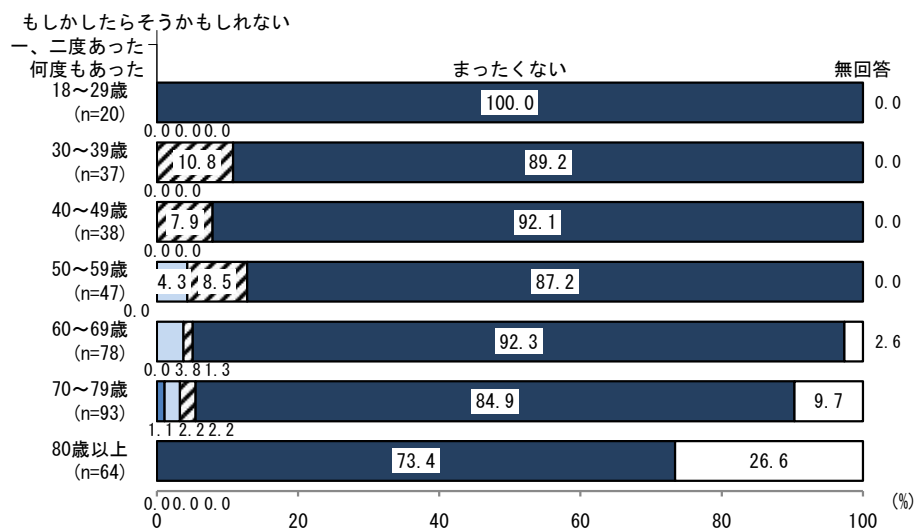
「大声でどなられた」で『経験あり』の割合は女性が29.4%、男性が12.6%となっており、女性の方が16.8ポイント高い割合になっている。

「生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた」で『経験あり』の割合は女性が7.5%、男性が1.8%となっており、女性の方が5.7ポイント高い割合になっている。

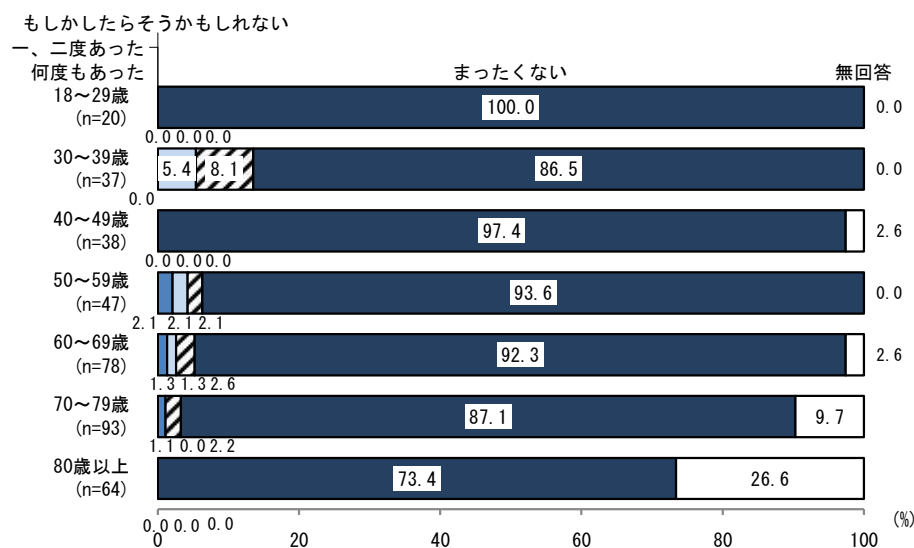
「子どもの前で暴力を振るう、子どもに自分の悪口を言うなどされた」で『経験あり』の割合は女性が16.0%、男性が5.4%となっており、女性の方が10.6ポイント高い割合になっている。
(図5-1-2)

【図5-1-3 年代別 暴力を受けた経験の有無】

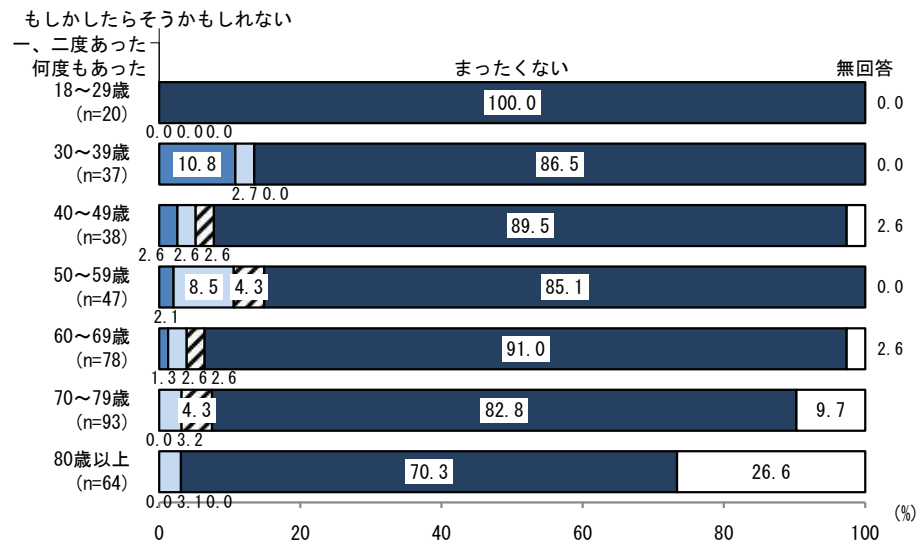
〔1. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた〕



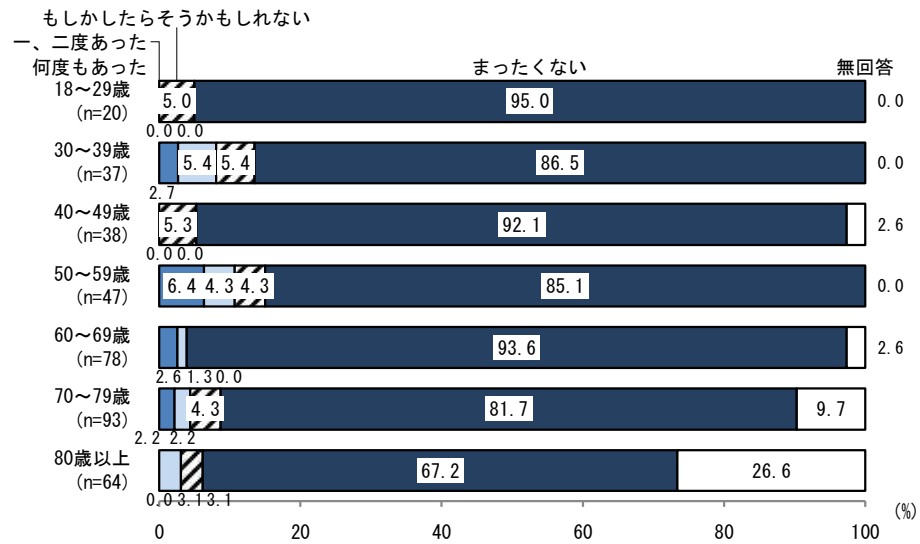
〔2. 医師の治療が必要となるような暴行を受けた〕



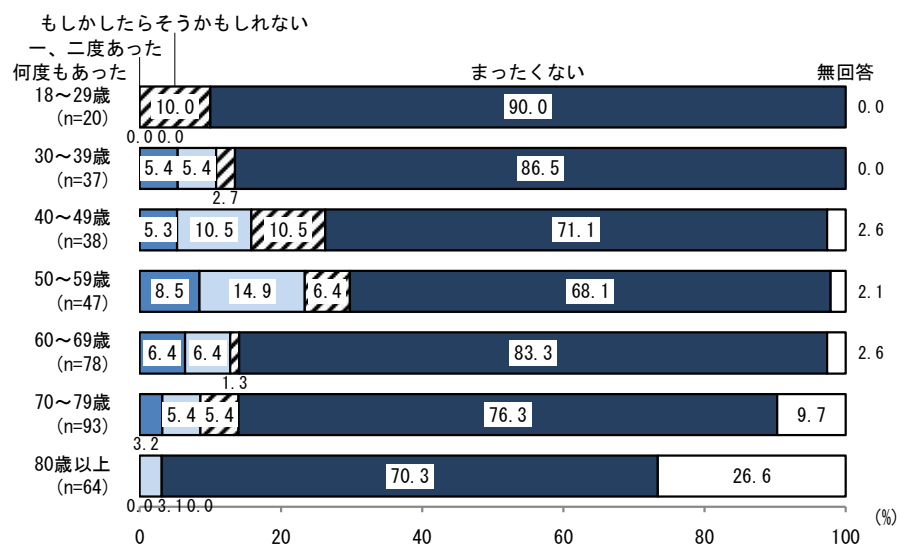
〔3. 医師の治療が必要ではない程度の暴行を受けた〕



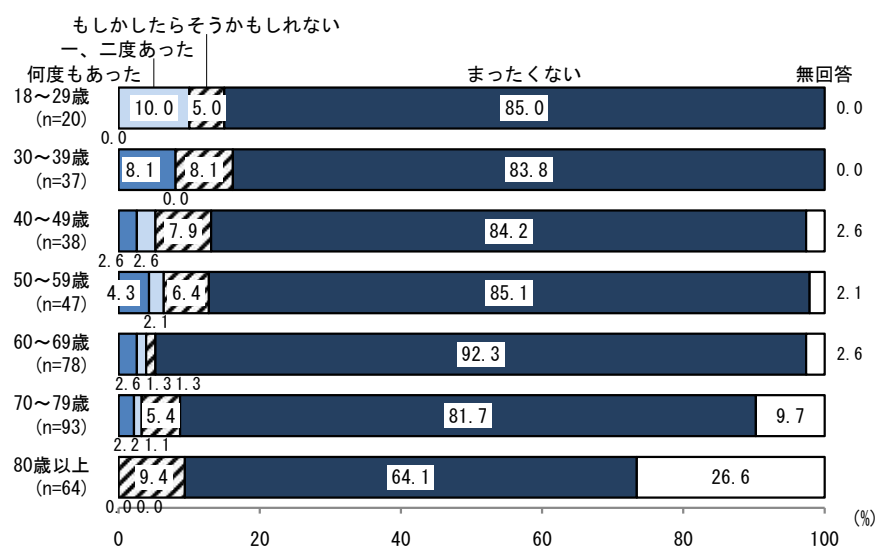
〔4. いやがっているのに、性的な行為を強要された〕



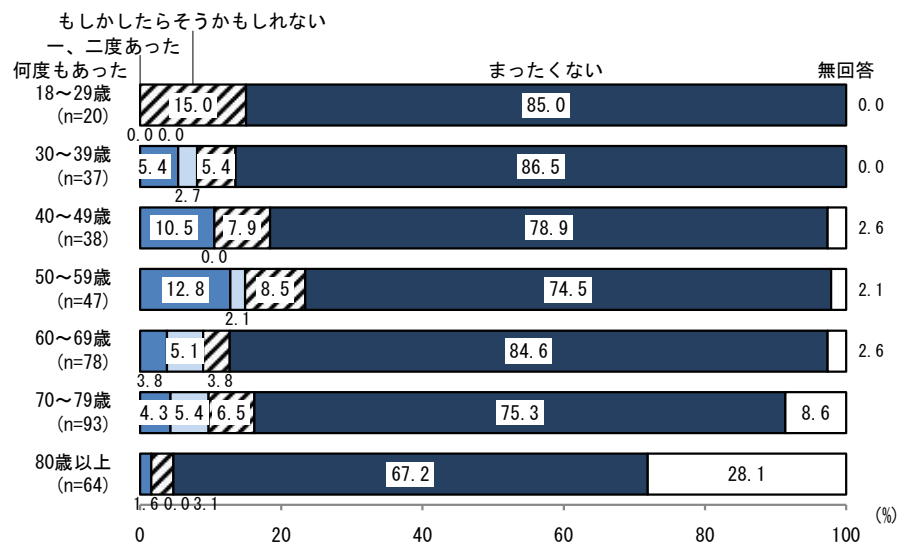
〔5. 目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された〕



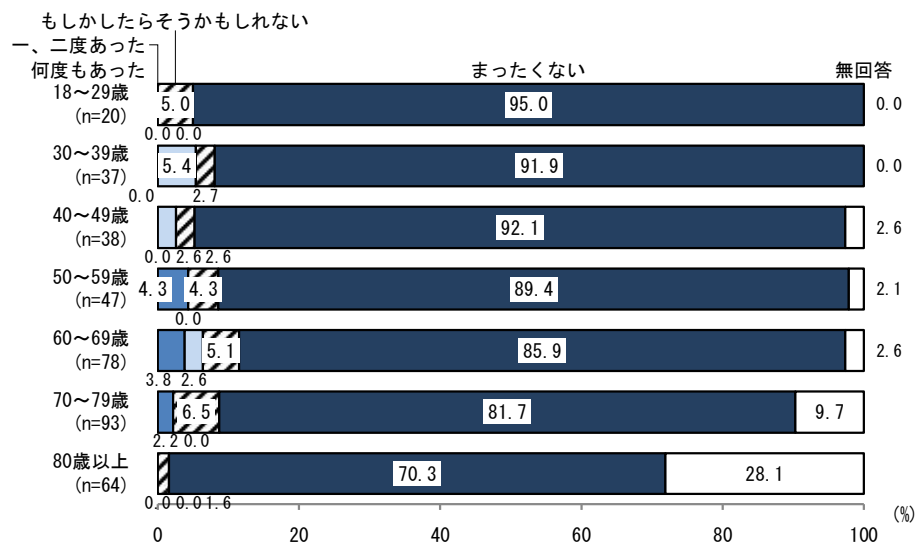
〔6. 避妊に協力しなかった〕



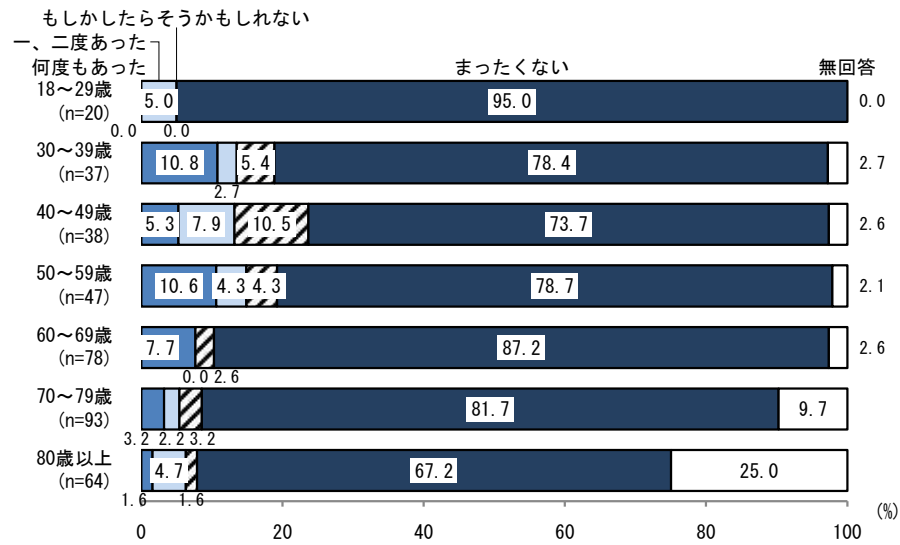
〔7. 何を言っても、無視され続けた〕



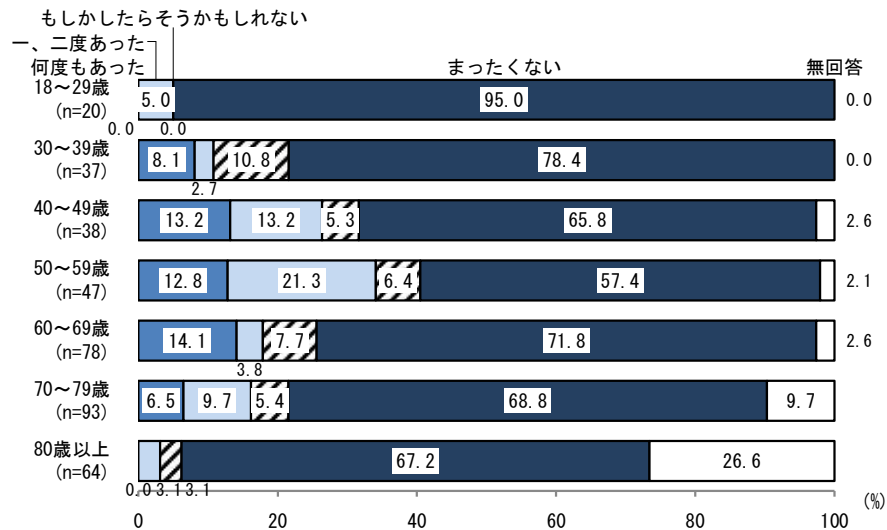
〔8. 交友関係や電話、郵便物を細かく監視された〕



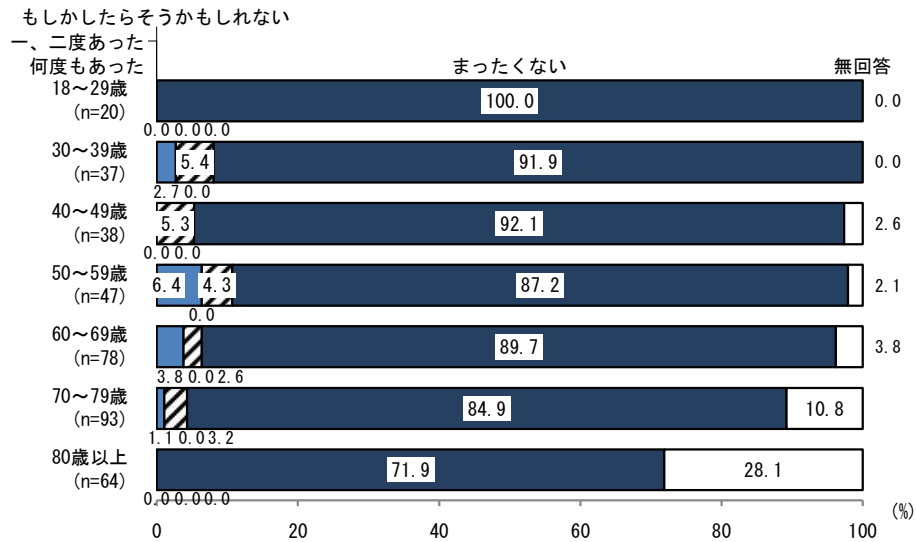
〔9. 「誰のおかげで生活できるのか」や「役立たず」など、人格を否定することを言われた〕



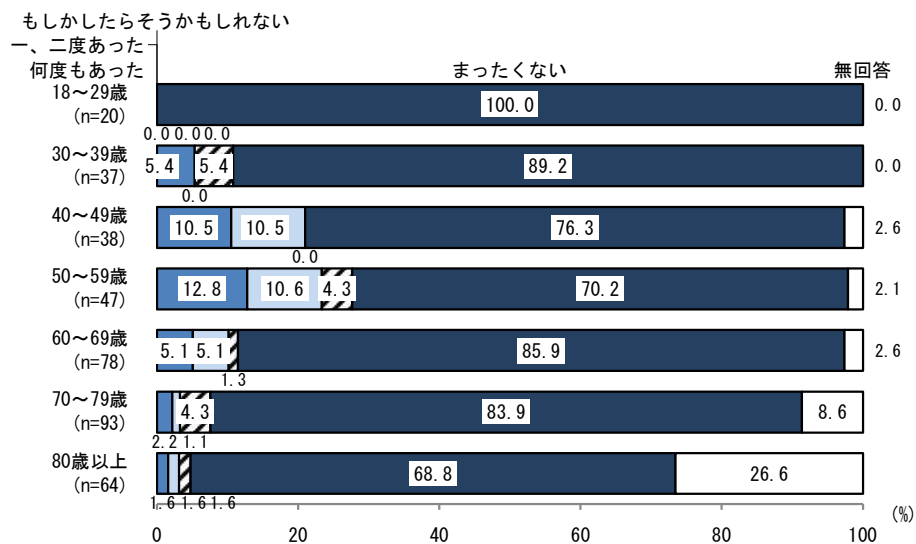
〔10. 大声でどなられた〕



〔11. 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた〕



〔12. 子どもの前で暴力を振るう、子どもに自分の悪口を言うなどされた〕



年代別でみると、「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」で『経験あり』が50～59歳で12.8%と最も高く、次いで、30～39歳で10.8%、40～49歳で7.9%となっている。

「医師の治療が必要となるような暴行を受けた」で『経験あり』が30～39歳で13.5%と最も高く、次いで、50～59歳で6.3%、60～69歳で5.2%となっている。

「医師の治療が必要ではない程度の暴行を受けた」で『経験あり』が50～59歳で14.9%と最も高く、次いで、30～39歳で13.5%、40～49歳で7.8%となっている。

「いやがっているのに、性的な行為を強要された」で『経験あり』が50～59歳で15.0%と最も高く、次いで、30～39歳で13.5%、70～79歳で8.7%となっている。

「目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された」で『経験あり』が50～59歳で29.8%と最も高く、次いで、40～49歳で26.3%、60～69歳で14.1%となっている。

「避妊に協力しなかった」で『経験あり』が30～39歳で16.2%と最も高く、次いで、18～29歳で15.0%、40～49歳で13.1%となっている。

「何を言っても、無視され続けた」で『経験あり』が50～59歳で23.4%と最も高く、次いで、40～49歳で18.4%、70～79歳で16.2%となっている。

「交友関係や電話、郵便物を細かく監視された」で『経験あり』が60～69歳で11.5%と最も高く、次いで、70～79歳で8.7%、50～59歳で8.6%となっている。

「誰のおかげで生活できるのか」や「役立たず」など、人格を否定することを言われた」で『経験あり』が40～49歳で23.7%と最も高く、次いで、50～59歳で19.2%、30～39歳で18.9%となっている。

「大声でどなられた」で『経験あり』が50～59歳で40.5%と最も高く、次いで、40～49歳で31.7%、60～69歳で25.6%となっている。

「生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた」で『経験あり』が50～59歳で10.7%と最も高く、次いで、30～39歳で8.1%、60～69歳で6.4%となっている。

「子どもの前で暴力を振るう、子どもに自分の悪口を言うなどされた」で『経験あり』が50～59歳で27.7%と最も高く、次いで、40～49歳で21.0%、60～69歳で11.5%となっている。

(図 5-1-3)

【図5-1-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別

暴力を受けた経験の有無（経験ありの割合）】

	命の危険を感じ るくらいの 暴力を受けた	医師の治療が 必要となるよ うな暴力を受 けた	医師の治療が 必要ではない 程度の暴力 を受けた	いやがっ つてい るのに、 性的な 行為を 強要さ れた	目の前 で家具 や物を 壊した り、投 げつけ たりし て威嚇 された	避妊に 協力し なかつ た	何を言 っても 、無視 され続 けた	交友関 係や電 話、郵 便物を 細かく 監視さ れた	「誰のお かげで生 活できる のか」や 「役立た ず」など 、人格を 否定す ることを 言われた	大声で どなら れた	生活費を 渡さない など、 経済的に 押さえつ けられた	子ども の前で暴 力を振る う、子ど もに自 分の悪口 を言うな どされた
問題だと思う (n=286)	6.9	4.8	8.4	9.4	17.1	11.1	17.0	8.3	14.7	26.9	5.9	13.6
問題だと思わない (n=76)	2.6	1.3	6.5	3.9	10.5	7.9	6.5	5.3	9.1	11.8	3.9	7.8
わからない (n=14)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うと問題だと思わないは「大声でどなられた」で、それぞれ26.9%、11.8%、わからないは「目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された」「何を言っても、無視され続けた」「交友関係や電話、郵便物を細かく監視された」で7.1%と最も高くなっている。(図5-1-4)

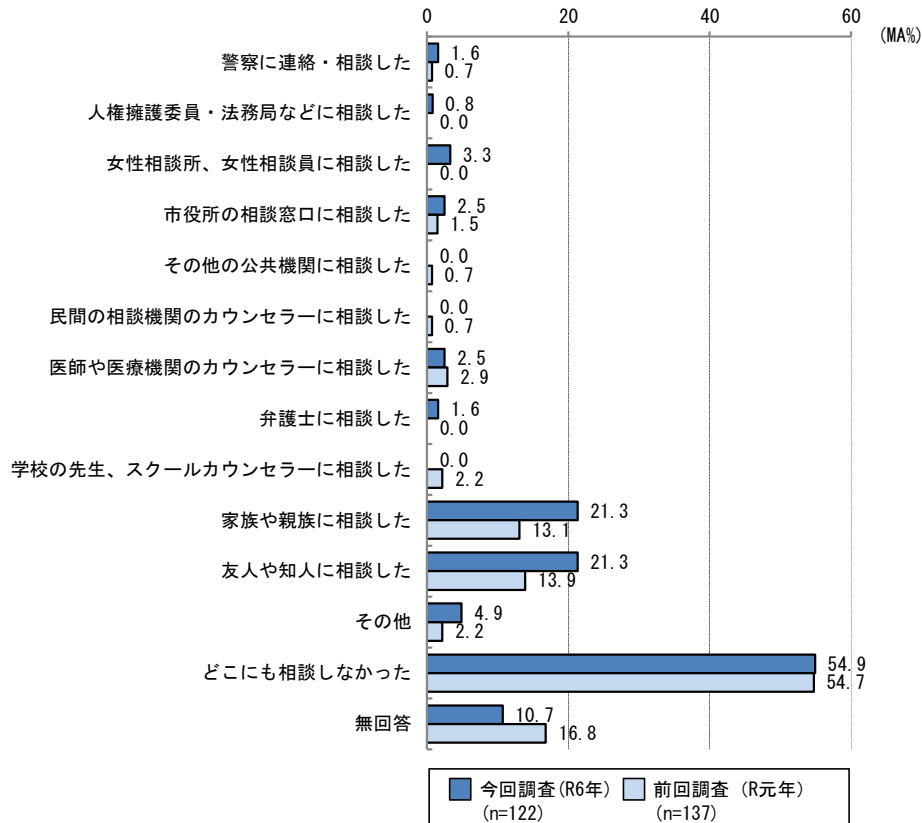
(2) 相談経験の有無

【問7で「何度もあった」「一、二度あった」「もしかしたらそうかもしれない」を1つでも回答した人におたずねします。】

問8 あなたは、その行為について、誰かにうちあげたり相談したりしましたか。

(あてはまるものをすべて選択)

【図5-2-1 経年比較 相談経験の有無】

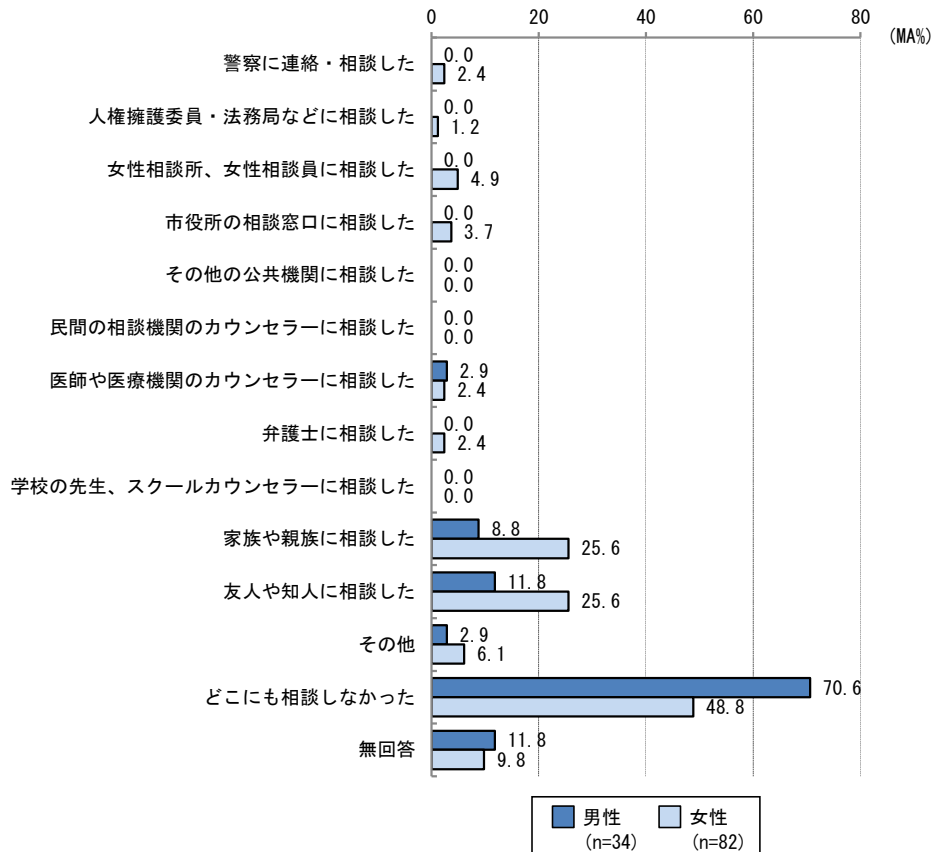


相談経験の有無について、「どこにも相談しなかった」が54.9%と最も高く、次いで、「家族や親族に相談した」と「友人や知人に相談した」がそれぞれ21.3%、「女性相談所、女性相談員に相談した」が3.3%、「市役所の相談窓口相談した」と「医師や医療機関のカウンセラーに相談した」がそれぞれ2.5%、「警察に連絡・相談した」と「弁護士に相談した」がそれぞれ1.6%、「人権擁護委員・法務局などに相談した」が0.8%となっている。

経年比較でみると、「家族や親族に相談した」が、今回調査で21.3%、前回調査で13.1%となっており、前回に比べて8.2ポイント、「友人や知人に相談した」が、今回調査で21.3%、前回調査で13.9%となっており、前回に比べて7.4ポイント高くなっている。(図5-2-1)

その他の主な意見内容は、「離婚調停委員」、「ネットの知り合い」となっています。

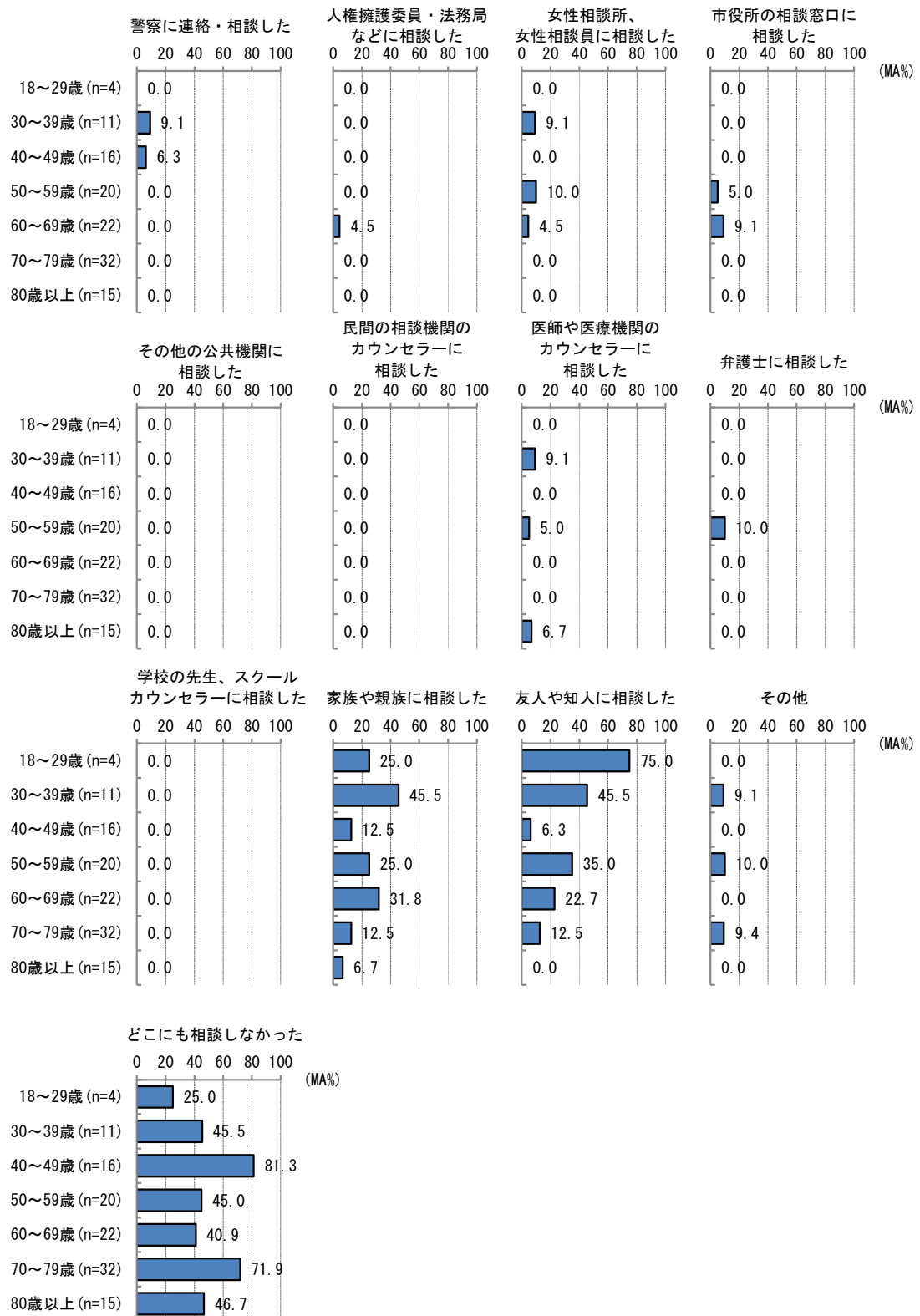
【図5-2-2 性別 相談経験の有無】



性別でみると、「家族や親族に相談した」の割合は女性が25.6%、男性が8.8%となっており、女性の方が16.8ポイント、「友人や知人に相談した」の割合は女性が25.6%、男性が11.8%となっており、女性の方が13.8ポイント高い割合になっている。

一方で、「どこにも相談しなかった」の割合は男性が70.6%、女性が48.8%となっており、男性の方が21.8ポイント高い割合になっている。(図5-2-2)

【図5-2-3 年代別 相談経験の有無】



年代別でみると、「どこにも相談しなかった」が40～49歳で81.3%と最も高く、次いで、70～79歳で71.9%、80歳以上で46.7%となっている。(図5-2-3)

【図5-2-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別 相談経験の有無】

(%)

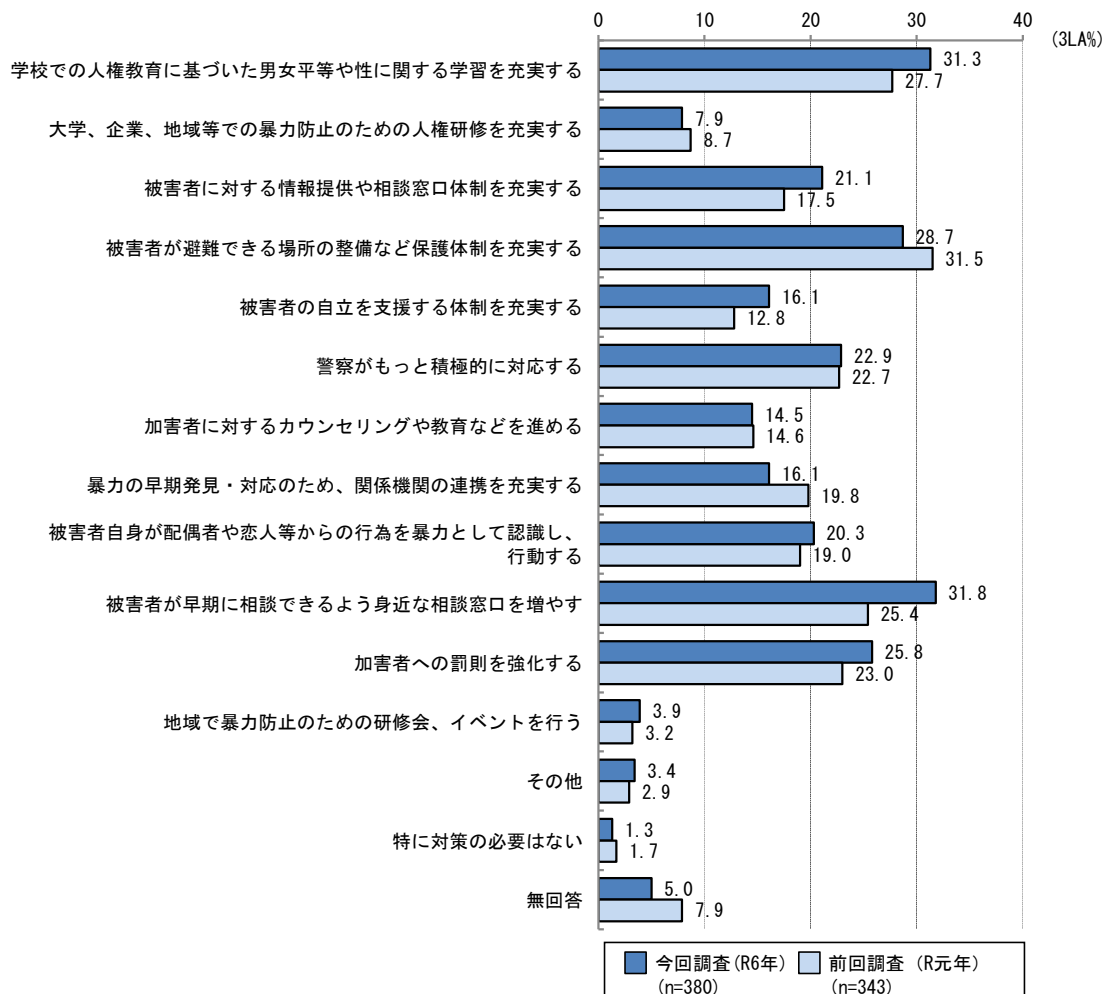
	警察に連絡・相談した	人権擁護委員・法務局などに相談した	女性相談所、女性相談員に相談した	市役所の相談窓口相談した	その他の公共機関に相談した	民間の相談機関のカウンセラーに相談した	医師や医療機関のカウンセラーに相談した	弁護士に相談した	学校の先生、スクールカウンセラーに相談した	家族や親族に相談した	友人や知人に相談した	その他	どこにも相談しなかった	無回答
問題だと思う (n=102)	1.0	1.0	3.9	2.9	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	24.5	24.5	5.9	52.0	9.8
問題だと思わない (n=19)	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	68.4	15.8
わからない (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、全ての項目で「どこにも相談しなかった」が最も高く、問題だと思うで52.0%、問題だと思わないで68.4%、わからないで100.0%となっている。(図5-2-4)

(3) 配偶者等からの暴力をなくすために必要だと思うこと

問9 あなたは、配偶者や恋人等からの暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内選択)

【図5-3-1 経年比較 配偶者等からの暴力をなくすために必要だと思うこと】



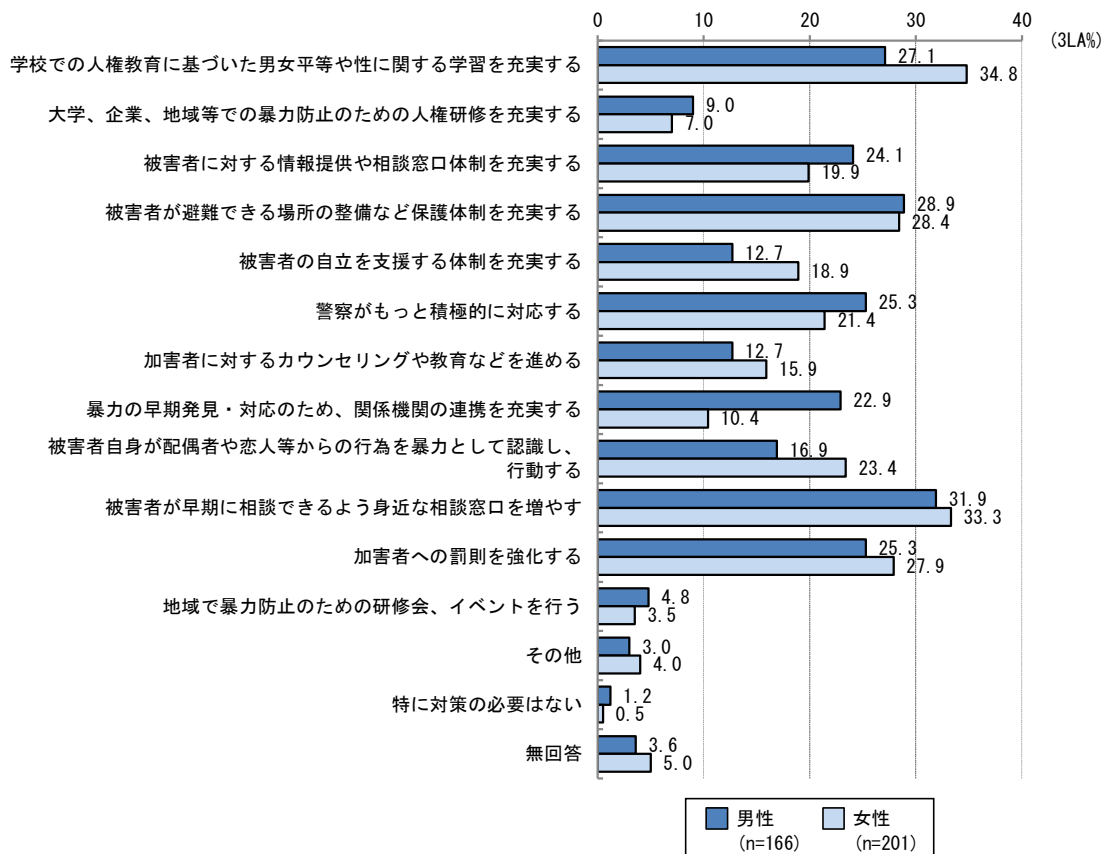
配偶者等からの暴力をなくすために必要だと思うことについて、「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」が31.8%と最も高く、次いで、「学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する」が31.3%、「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」が28.7%、「加害者への罰則を強化する」が25.8%、「警察がもっと積極的に対応する」が22.9%となっている。

経年比較でみると、「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」が今回調査で31.8%、前回調査で25.4%となっており、前回に比べて6.4ポイント高くなっている。

(図5-3-1)

その他の主な意見内容は、「本人の意識の問題」、「離婚にまつわる様々な手続きを容易にする」となっています。

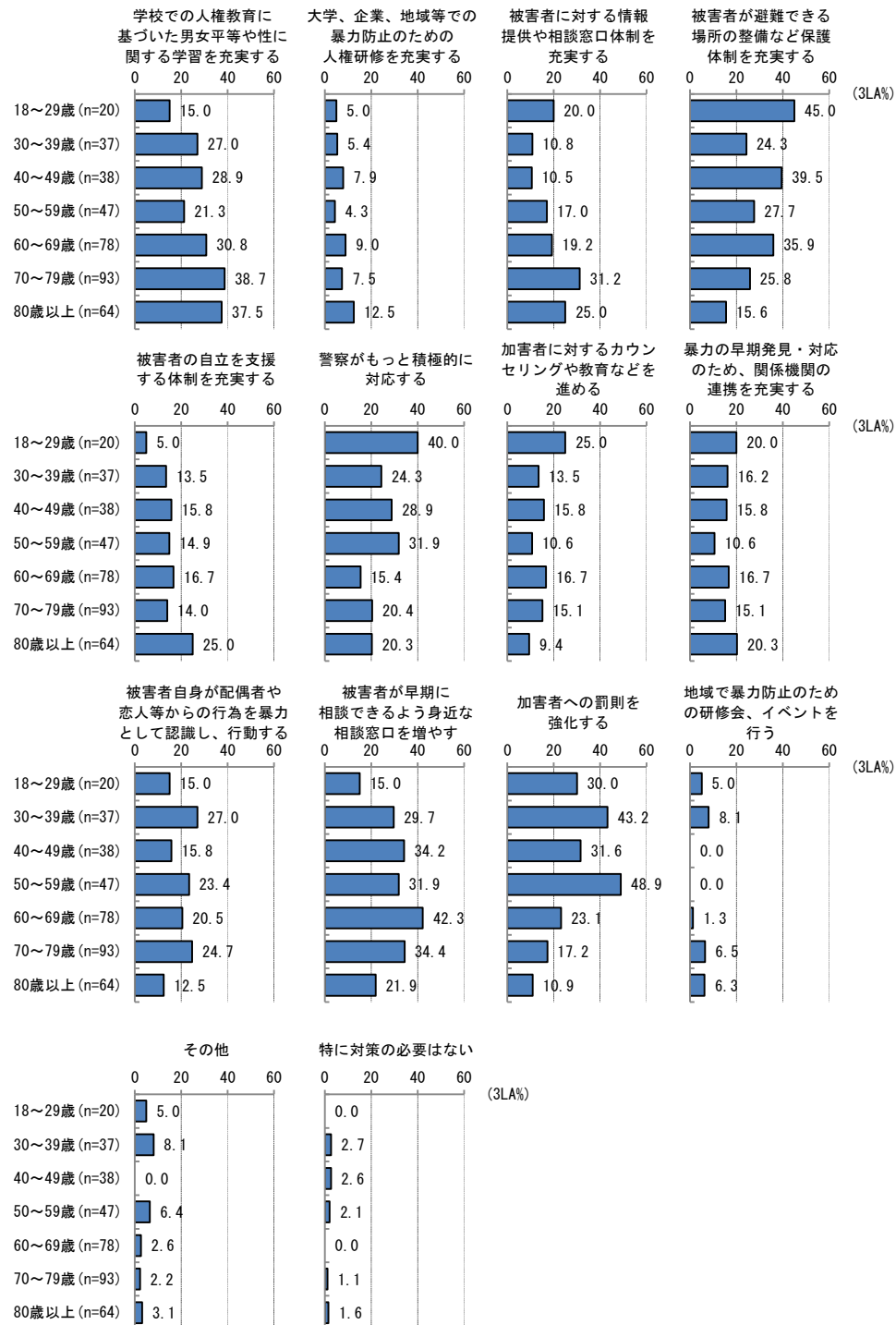
【図5-3-2 性別 配偶者等からの暴力をなくすために必要だと思うこと】



性別でみると、「学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する」の割合は女性が34.8%、男性が27.1%となっており、女性の方が7.7ポイント、「被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する」の割合は女性が23.4%、男性が16.9%となっており、女性の方が6.5ポイント、「被害者の自立を支援する体制を充実する」の割合は女性が18.9%、男性が12.7%となっており、女性の方が6.2ポイント高い割合になっている。

一方で、「暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する」の割合は男性が22.9%、女性が10.4%となっており、男性の方が12.5ポイント、「被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する」の割合は男性が24.1%、女性が19.9%となっており、男性の方が4.2ポイント、「警察がもっと積極的に対応する」の割合は男性が25.3%、女性が21.4%となっており、男性の方が3.9ポイント高い割合になっている。（図5-3-2）

【図5-3-3 年代別 配偶者等からの暴力をなくすために必要だと思うこと】



年代別でみると、「学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する」が70～79歳で38.7%と最も高く、次いで、80歳以上で37.5%、60～69歳で30.8%となっている。

「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」が18～29歳で45.0%と最も高く、次いで、40～49歳で39.5%、60～69歳で35.9%となっている。

「加害者への罰則を強化する」が50～59歳で48.9%と最も高く、次いで、30～39歳で43.2%、40～49歳で31.6%となっている。(図5-3-3)

【図5-3-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別
配偶者等からの暴力をなくすために必要だと思うこと】

(%)

	無回答	特に対策の必要はない	その他	地域で暴力防止のための研修会、イベントを行う	加害者への罰則を強化する	被害者が早期に相談できるような身近な相談窓口を増やす	被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する	暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する	加害者に対するカウンセリングや教育などを進める	警察がもっと積極的に対応する	被害者の自立を支援する体制を充実する	被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する	被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する	大学、企業、地域等での暴力防止のための人権研修を充実する	学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する
問題だと思う (n=286)	2.8	0.3	3.1	2.8	26.9	34.6	22.4	17.1	15.7	23.1	16.1	31.8	22.7	7.7	31.8
問題だと思わない (n=76)	6.6	3.9	3.9	9.2	25.0	26.3	15.8	14.5	7.9	22.4	19.7	17.1	15.8	10.5	31.6
わからない (n=14)	28.6	7.1	0.0	0.0	7.1	14.3	7.1	7.1	28.6	28.6	0.0	35.7	21.4	0.0	28.6

性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うは「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」で34.6%、問題だと思わないは「学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する」で31.6%、わからないは「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」で35.7%と最も高くなっている。(図5-3-4)

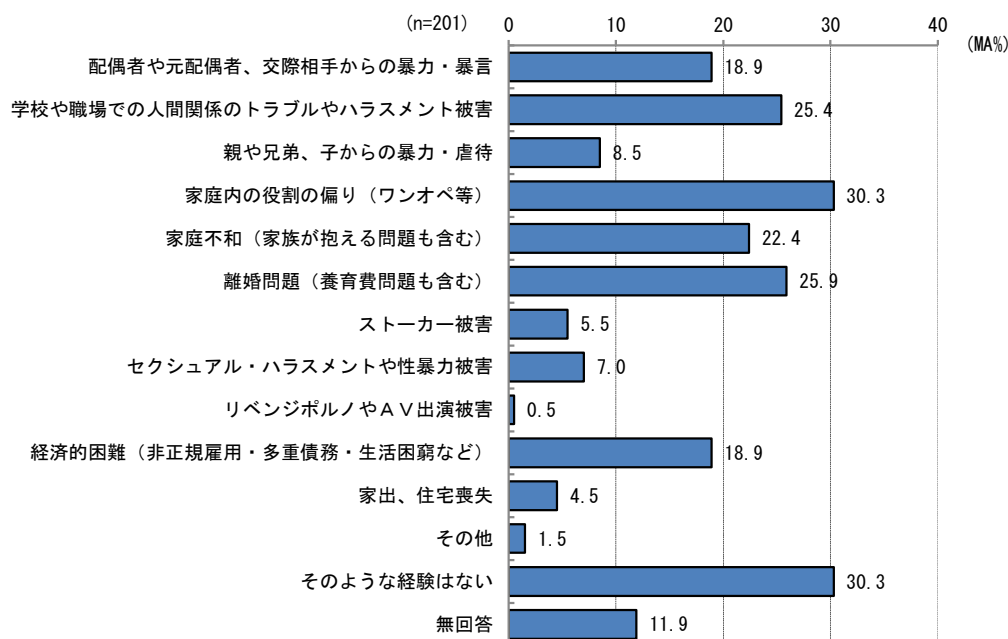
6. 日常生活又は社会生活における困難な問題を抱える女性について

(1) 困難な問題を抱える女性

【女性におたずねします。】

問10 あなた又は、あなたの周囲にいる女性が以下のような困難な問題を経験したことや、見聞きしたことがありますか。(あてはまるものをすべて選択)

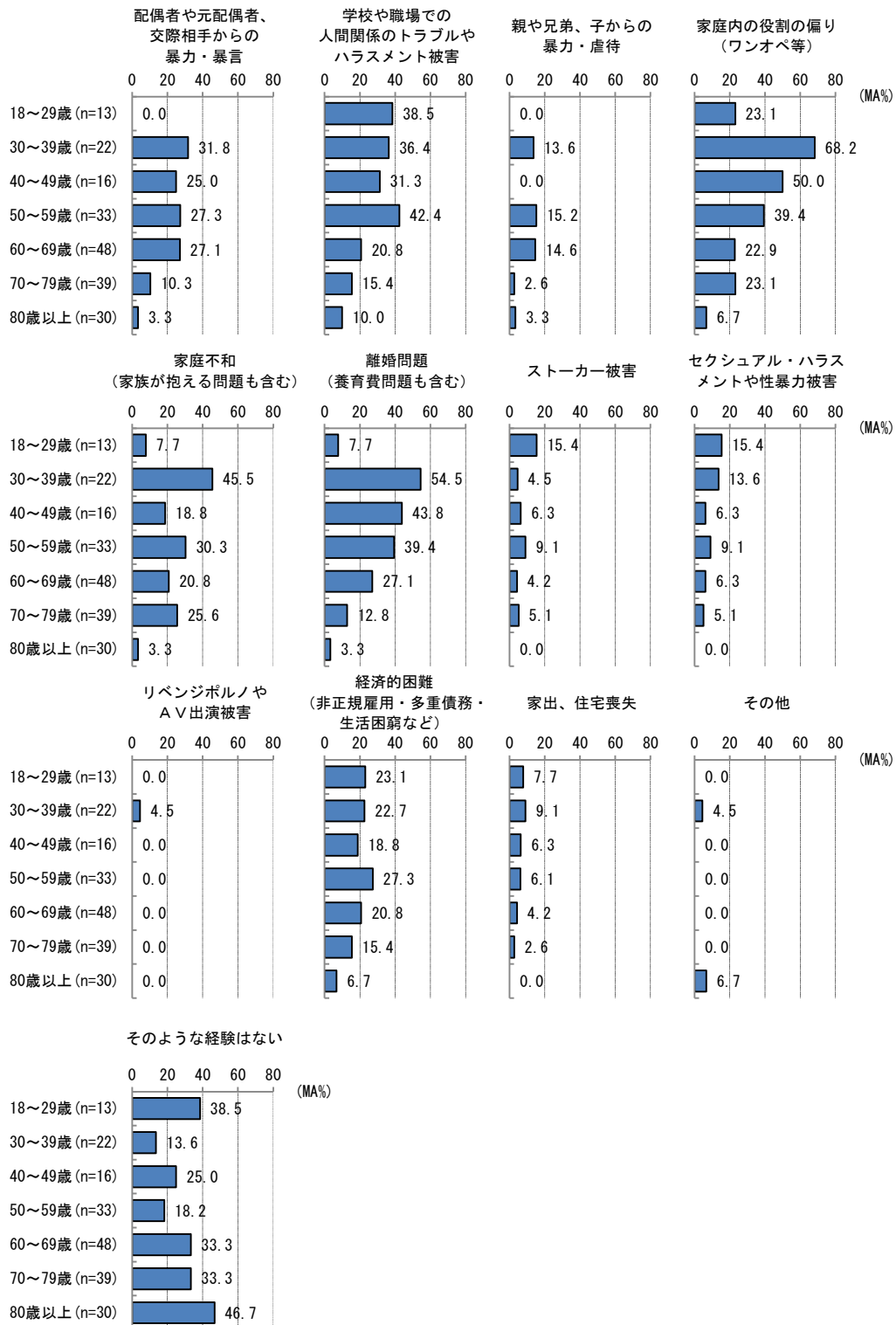
【図6-1 困難な問題を抱える女性】



あなた又は、あなたの周囲にいる女性が困難な問題を経験したことや見聞きしたことがあるかについて、「家庭内の役割の偏り (ワンオペ等)」が30.3%と最も高く、次いで、「離婚問題 (養育費問題も含む)」が25.9%、「学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害」が25.4%、「家庭不和 (家族が抱える問題も含む)」が22.4%、「配偶者や元配偶者、交際相手からの暴力・暴言」と「経済的困難 (非正規雇用・多重債務・生活困窮など)」がそれぞれ18.9%となっている。(図6-1)

その他の主な意見内容は、「配偶者による精神的苦痛」となっています。

【図6-1-1 年代別 困難な問題を抱える女性】



年代別でみると、「家庭内の役割の偏り（ワンオペ等）」が30～39歳で68.2%と最も高く、次いで、40～49歳で50.0%、50～59歳で39.4%となっている。

一方で、「そのような経験はない」が80歳以上で46.7%と最も高く、次いで、18～29歳で38.5%となっている。（図6-1-1）

【図6-1-2 性別による役割分担意識に対する問題意識別 困難な問題を抱える女性】

	配偶者や元配偶者、 交際相手からの暴力・暴言	学校や職場での人間関係の トラブルやハラスメント被害	親や兄弟、子からの暴力・虐待	家庭内の役割の偏り (ワンオペ等)	家庭不和 (家族が抱える問題も含む)	離婚問題(養育費問題も含む)	ストーカー被害	セクシュアル・ハラスメントや 性暴力被害	リベンジポルノやAV出演被害	経済的困難(非正規雇用・ 多重債務・生活困窮など)	家出、住宅喪失	その他	そのような経験はない	(%) 無回答
問題だと思う (n=163)	21.5	27.6	10.4	35.0	26.4	28.8	6.7	8.6	0.6	21.5	4.9	1.8	27.6	8.0
問題だと思わない (n=29)	6.9	17.2	0.0	13.8	6.9	13.8	0.0	0.0	0.0	6.9	3.4	0.0	44.8	27.6
わからない (n=7)	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	28.6

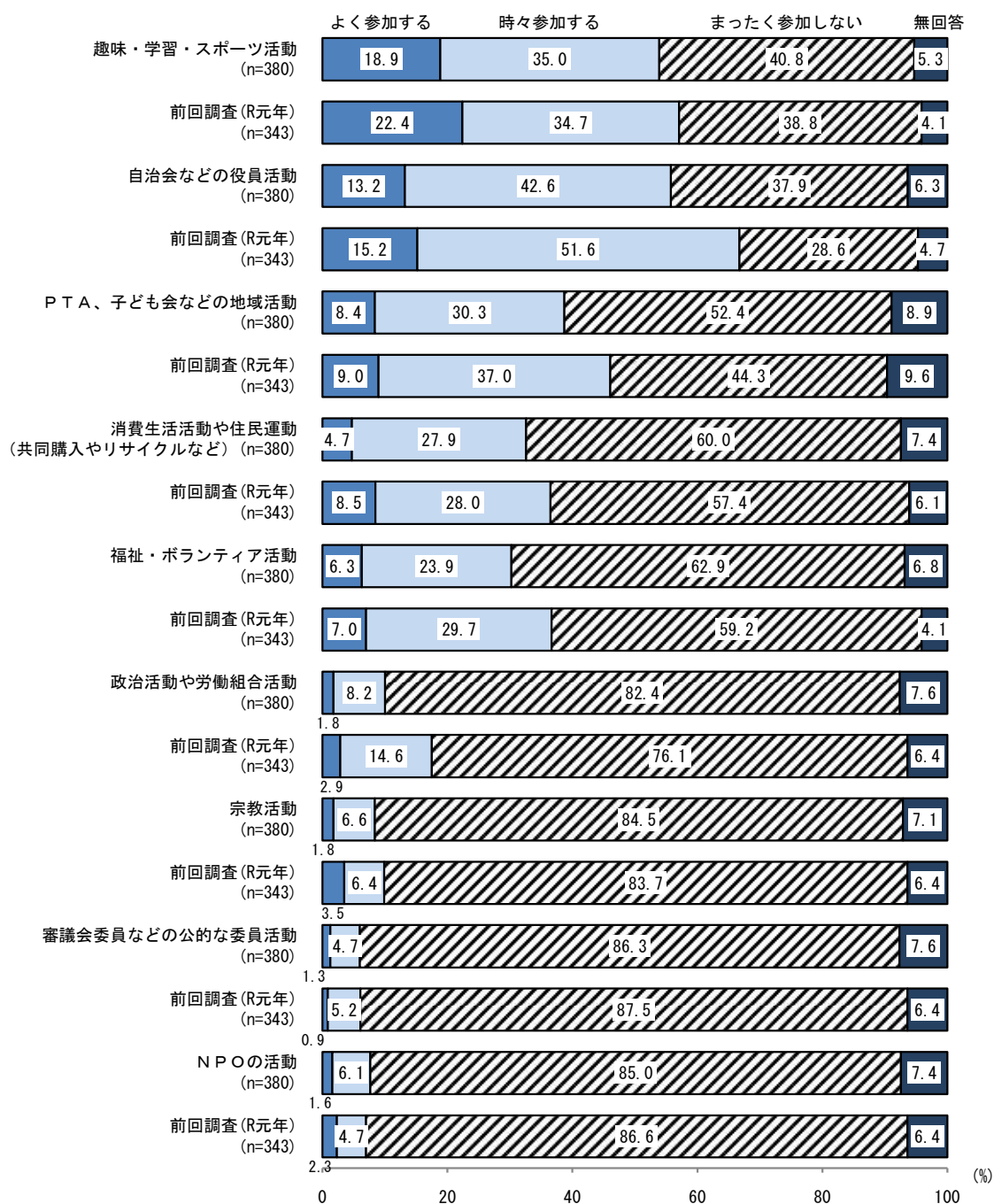
性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うは「家庭内の役割の偏り（ワンオペ等）」で35.0%、問題だと思わないとわからないは「そのような経験はない」で、それぞれ44.8%、28.6%と最も高くなっている。（図6-1-2）

7. 社会活動への参加について

(1) 社会活動への参加状況

問11 あなたは、次のような活動に参加していますか。(それぞれ1つ選択)

【図7-1-1 経年比較 社会活動への参加状況】



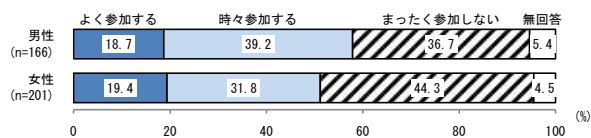
社会活動への参加状況について、「よく参加する」と「時々参加する」を合わせた『参加する』が、「自治会などの役員活動」で55.8%と最も高く、次いで、「趣味・学習・スポーツ活動」で53.9%、「PTA、子ども会などの地域活動」で38.7%となっている。

一方で、「まったく参加しない(=『参加しない』)」が、「審議会委員などの公的な委員活動」で86.3%と最も高く、次いで、「NPOの活動」で85.0%、「宗教活動」で84.5%となっている。

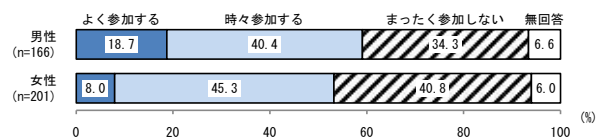
経年比較でみると、「自治会などの役員活動」が、今回調査で55.8%、前回調査で66.8%となっており、前回に比べて11.0ポイント、「政治活動や労働組合活動」が、今回調査で10.0%、前回調査で17.5%となっており、前回に比べて7.5ポイント、「PTA、子ども会などの地域活動」が、今回調査で38.7%、前回調査で46.0%となっており、前回に比べて7.3ポイント、「福祉・ボランティア活動」が、今回調査で30.2%、前回調査で36.7%となっており、前回に比べて6.5ポイント低くなっている。(図7-1-1)

【図7-1-2 性別 社会活動への参加状況】

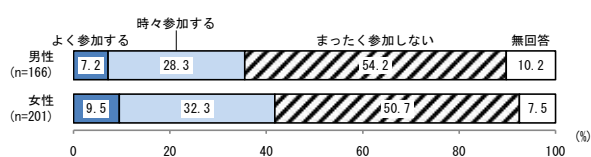
〔1. 趣味・学習・スポーツ活動〕



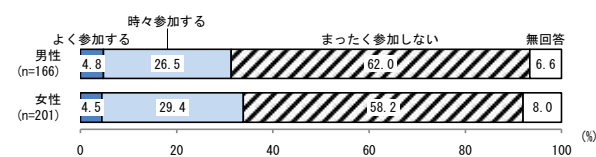
〔2. 自治会などの役員活動〕



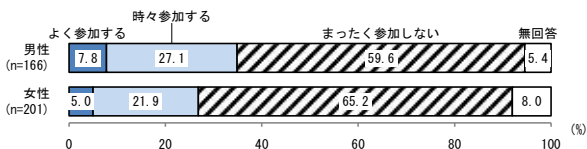
〔3. PTA、子ども会などの地域活動〕



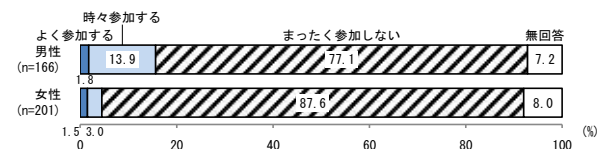
〔4. 消費生活活動や住民運動
(共同購入やリサイクルなど)〕



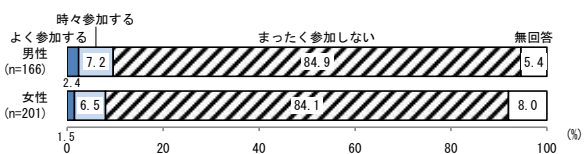
〔5. 福祉・ボランティア活動〕



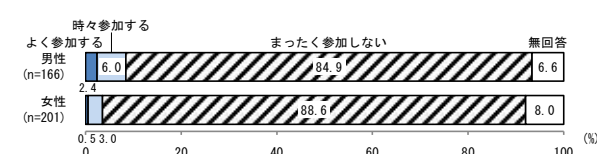
〔6. 政治活動や労働組合活動〕



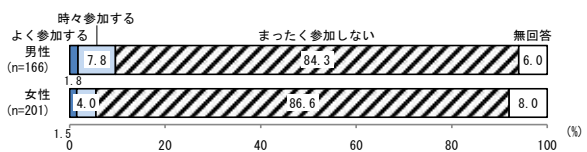
〔7. 宗教活動〕



〔8. 審議会委員などの公的な委員活動〕



〔9. NPOの活動〕



性別でみると、「趣味・学習・スポーツ活動」で『参加する』の割合は男性が57.9%、女性が51.2%となっており、男性の方が6.7ポイント高い割合になっている。

「自治会などの役員活動」で『参加する』の割合は男性が59.1%、女性が53.3%となっており、男性の方が5.8ポイント高い割合になっている。

「PTA、子ども会などの地域活動」で『参加する』の割合は女性が41.8%、男性が35.5%となっており、女性の方が6.3ポイント高い割合になっている。

「消費生活活動や住民運動（共同購入やりサイクルなど）」で『参加する』の割合は女性が33.9%、男性が31.3%となっており、女性の方が2.6ポイント高い割合になっている。

「福祉・ボランティア活動」で『参加する』の割合は男性が34.9%、女性が26.9%となっており、男性の方が8.0ポイント高い割合になっている。

「政治活動や労働組合活動」で『参加する』の割合は男性が15.7%、女性が4.5%となっており、男性の方が11.2ポイント高い割合になっている。

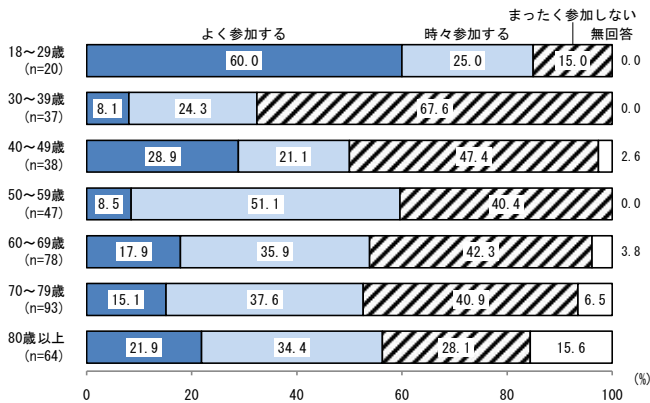
「宗教活動」で『参加する』の割合は男性が9.6%、女性が8.0%となっており、男性の方が1.6ポイント高い割合になっている。

「審議会委員などの公的な委員活動」で『参加する』の割合は男性が8.4%、女性が3.5%となっており、男性の方が4.9ポイント高い割合になっている。

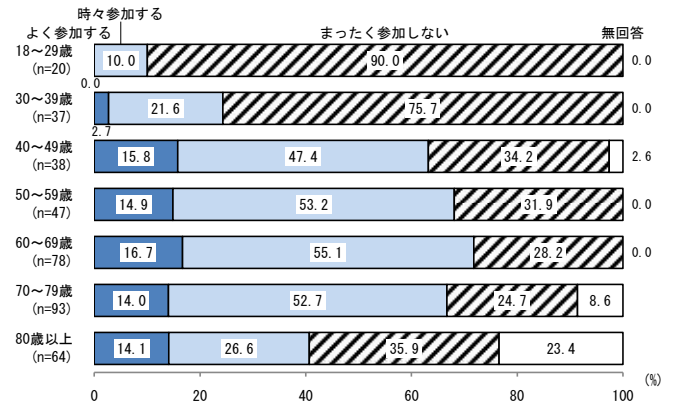
「NPOの活動」で『参加する』の割合は男性が9.6%、女性が5.5%となっており、男性の方が4.1ポイント高い割合になっている。（図7-1-2）

【図7-1-3 年代別 社会活動への参加状況】

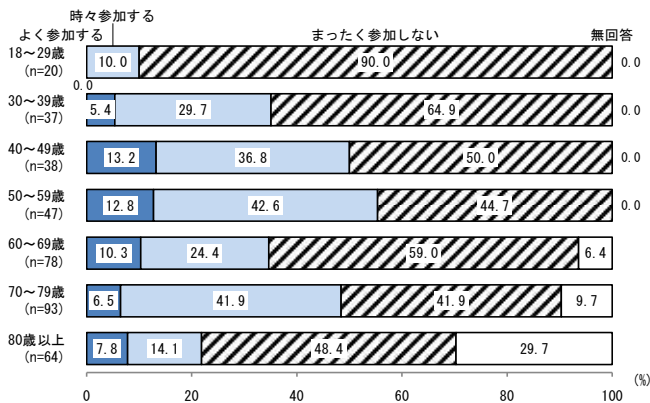
〔1. 趣味・学習・スポーツ活動〕



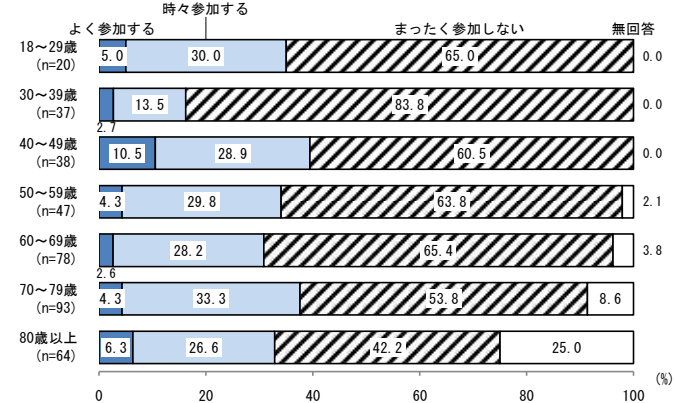
〔2. 自治会などの役員活動〕



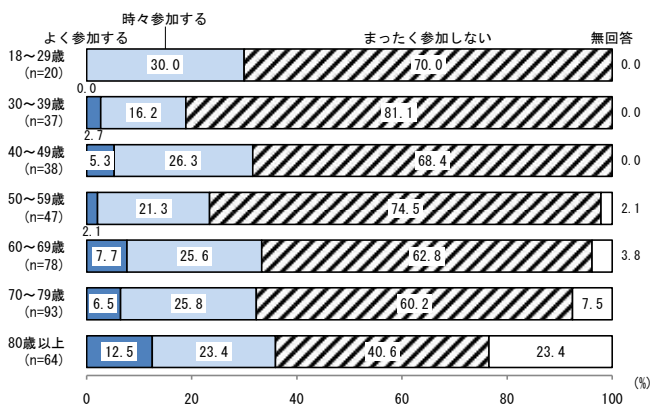
〔3. PTA、子ども会などの地域活動〕



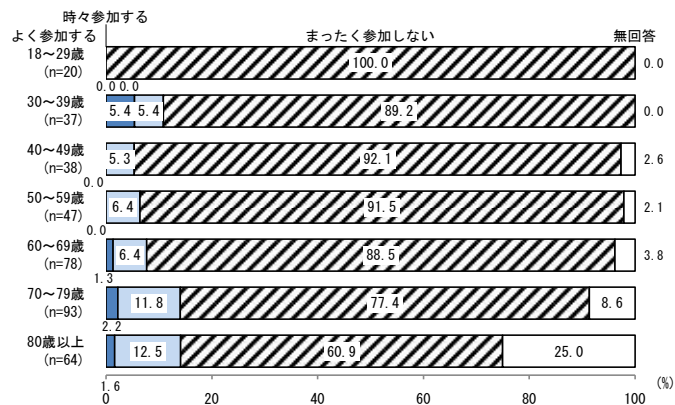
〔4. 消費生活活動や住民運動
(共同購入やリサイクルなど)〕



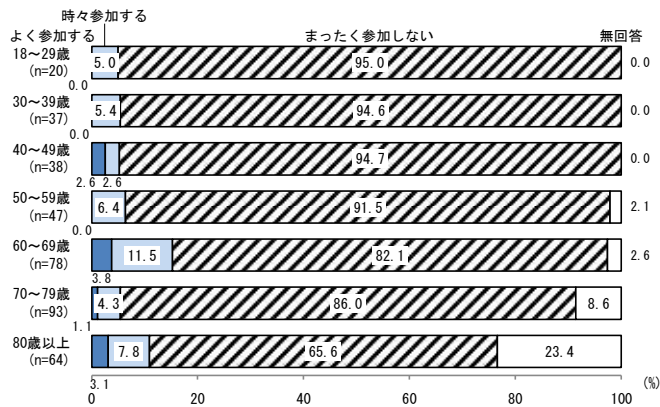
〔5. 福祉・ボランティア活動〕



〔6. 政治活動や労働組合活動〕



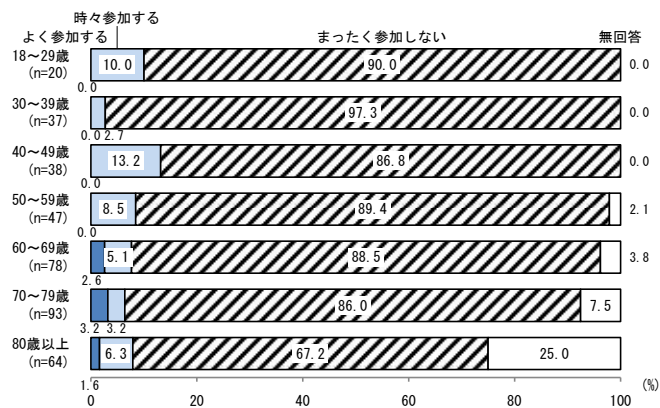
〔 7. 宗教活動 〕



〔 8. 審議会委員などの公的な委員活動 〕



〔 9. NPOの活動 〕



年代別でみると、「趣味・学習・スポーツ活動」で『参加する』が18～29歳で85.0%と最も高く、次いで、50～59歳で59.6%、80歳以上で56.3%となっている。

「自治会などの役員活動」で『参加する』が60～69歳で71.8%と最も高く、次いで、50～59歳で68.1%、70～79歳で66.7%となっている。

「PTA、子ども会などの地域活動」で『参加する』が50～59歳で55.4%と最も高く、次いで、40～49歳で50.0%、70～79歳で48.4%となっている。

「消費生活活動や住民運動（共同購入やリサイクルなど）」で『参加する』が40～49歳で39.4%と最も高く、次いで、70～79歳で37.6%、18～29歳で35.0%となっている。

「福祉・ボランティア活動」で『参加する』が80歳以上で35.9%と最も高く、次いで、60～69歳で33.3%、70～79歳で32.3%となっている。

「政治活動や労働組合活動」で『参加する』が80歳以上で14.1%と最も高く、次いで、70～79歳で14.0%、30～39歳で10.8%となっている。

「宗教活動」で『参加する』が60～69歳で15.3%と最も高く、次いで、80歳以上で10.9%、50～59歳で6.4%となっている。

「審議会委員などの公的な委員活動」で『参加する』が80歳以上で10.9%と最も高く、次いで、70～79歳で8.7%、60～69歳で7.7%となっている。

「NPOの活動」で『参加する』が40～49歳で13.2%と最も高く、次いで、18～29歳で10.0%、50～59歳で8.5%となっている。（図7-1-3）

【図7-1-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別
社会活動への参加状況（参加したことがある割合）】

(%)

	趣味・学 習・ス ポ ー ツ 活 動	自 治 会 な ど の 役 員 活 動	P T A 、 子 ど も 会 な ど の 地 域 活 動	消 費 生 活 活 動 や 住 民 運 動 （ 共 同 購 入 や リ サ イ ク ル な ど ）	福 祉 ・ ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	政 治 活 動 や 労 働 組 合 活 動	宗 教 活 動	審 議 会 委 員 な ど の 公 的 な 委 員 活 動	N P O の 活 動
問題だと思う（n=286）	57.4	60.9	41.3	35.0	32.5	10.5	9.4	6.6	7.6
問題だと思わない（n=76）	48.6	44.8	34.2	30.3	29.0	9.2	3.9	5.2	9.2
わからない（n=14）	21.4	21.4	14.3	7.1	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

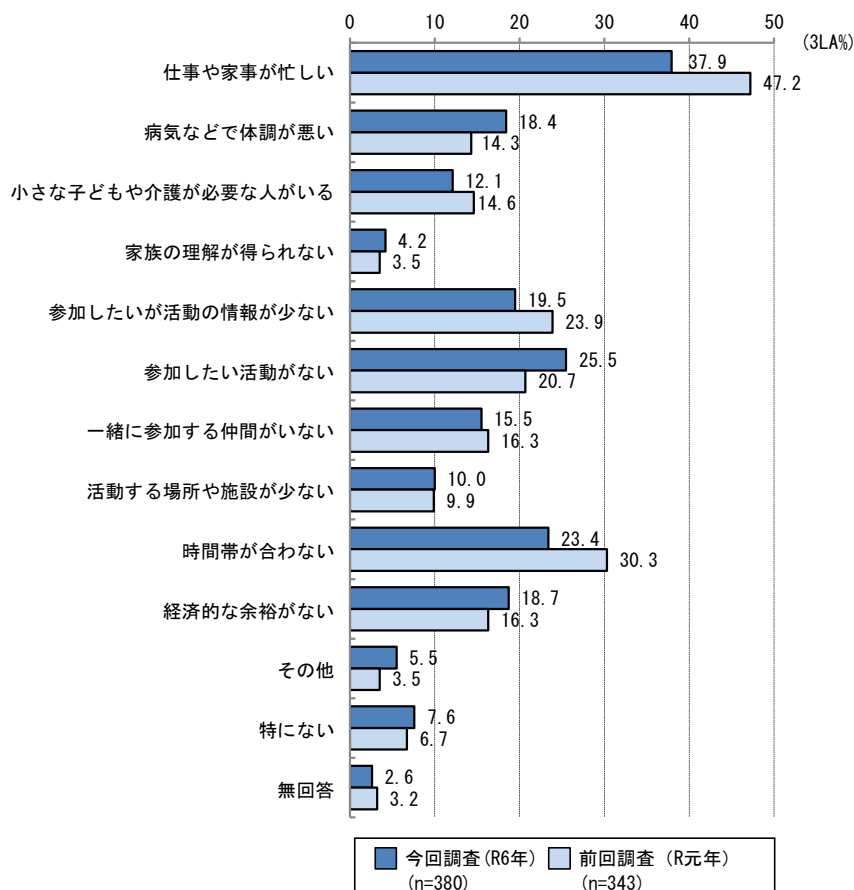
性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うは「自治会などの役員活動」で60.9%、問題だと思わないは「趣味・学習・スポーツ活動」で48.6%、わからないは「趣味・学習・スポーツ活動」「自治会などの役員活動」で21.4%と最も高くなっている。

（図7-1-4）

(2) 社会活動への参加に支障になること

問12 あなたが、社会的な活動に参加しようと思うとき、支障となることはどのようなことですか。(3つ以内選択)

【図7-2-1 経年比較 社会活動への参加に支障になること】

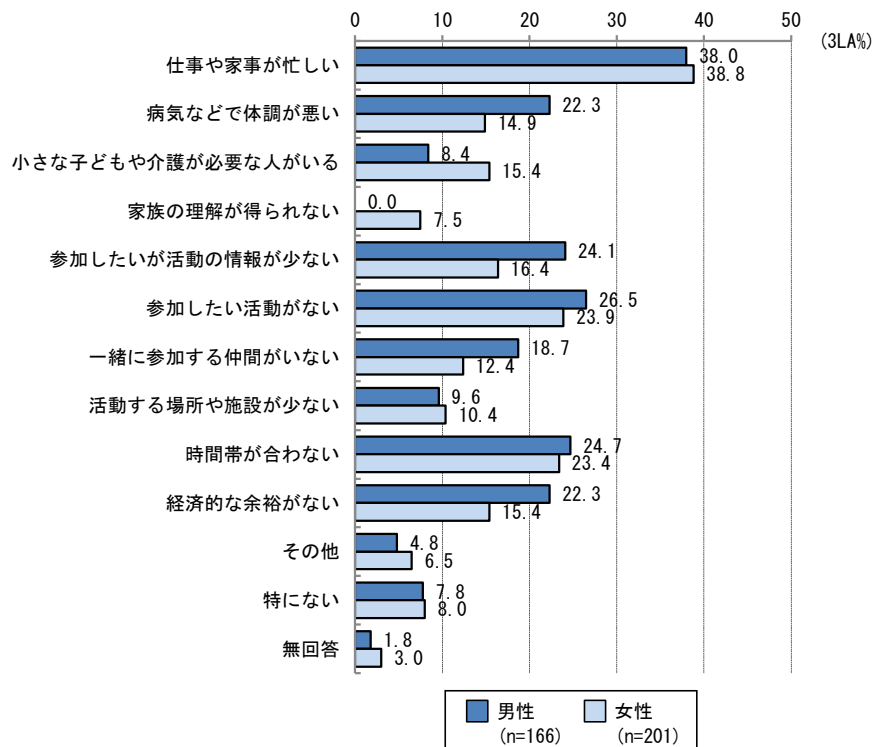


社会活動への参加に支障になることについて、「仕事や家事が忙しい」が37.9%と最も高く、次いで、「参加したい活動がない」が25.5%、「時間帯が合わない」が23.4%、「参加したいが活動の情報が少ない」が19.5%、「経済的な余裕がない」が18.7%となっている。

経年比較でみると、「仕事や家事が忙しい」が、今回調査で37.9%、前回調査で47.2%となっており、前回に比べて9.3ポイント、「時間帯が合わない」が、今回調査で23.4%、前回調査で30.3%となっており、前回に比べて6.9ポイント低くなっている。(図7-2-1)

その他の主な意見内容は、「交通の問題がある」、「年齢の問題」となっています。

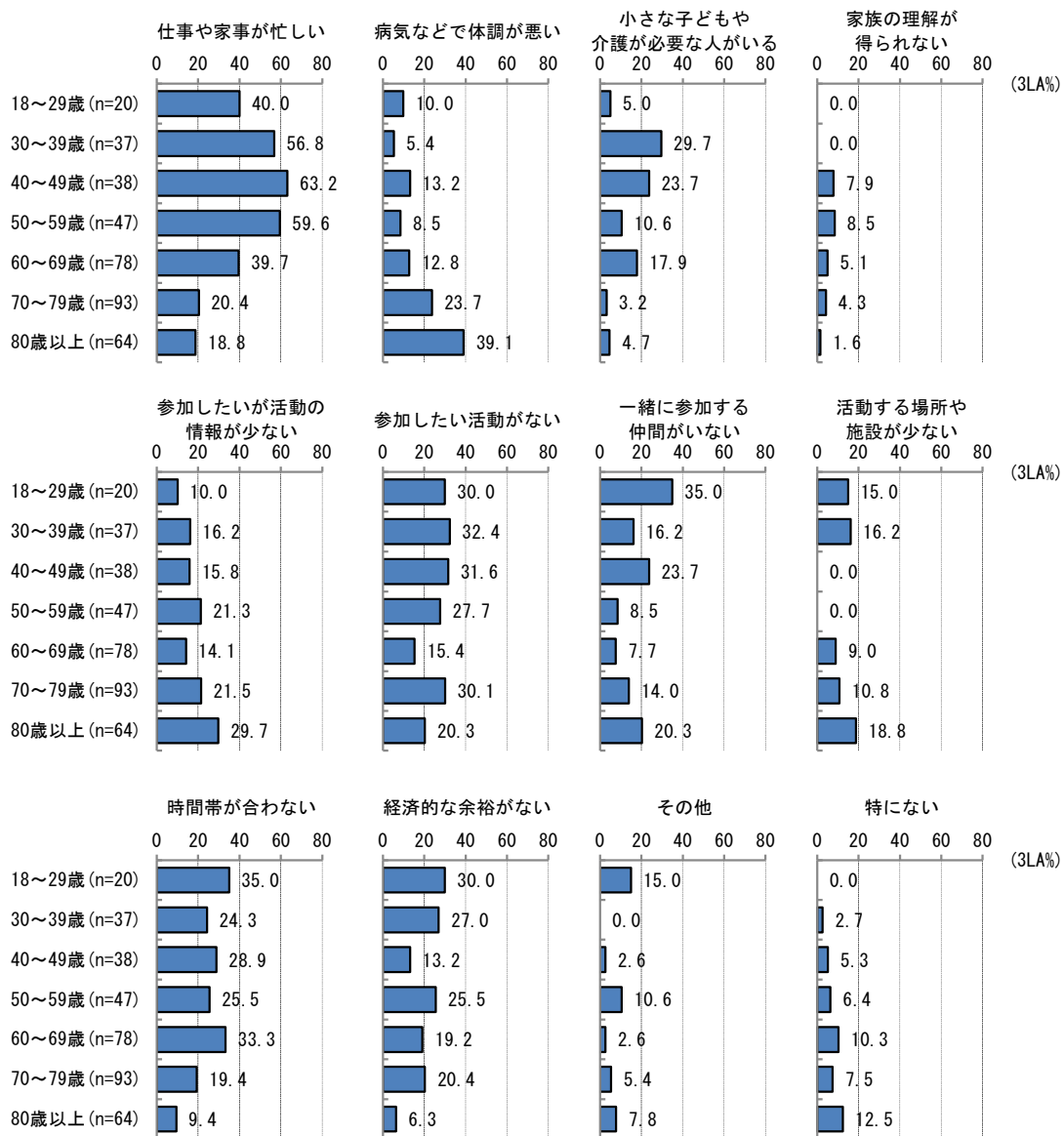
【図7-2-2 性別 社会活動への参加に支障になること】



性別でみると、「家族の理解が得られない」の割合は女性が7.5%、男性の回答者はおらず、女性の方が7.5ポイント、「小さな子どもや介護が必要な人がいる」の割合は女性が15.4%、男性が8.4%となっており、女性の方が7.0ポイント高い割合になっている。

一方で、「参加したいが活動の情報が少ない」の割合は男性が24.1%、女性が16.4%となっており、男性の方が7.7ポイント、「病気などで体調が悪い」の割合は男性が22.3%、女性が14.9%となっており、男性の方が7.4ポイント、「経済的な余裕がない」の割合は男性が22.3%、女性が15.4%となっており、男性の方が6.9ポイント、「一緒に参加する仲間がいない」の割合は男性が18.7%、女性が12.4%となっており、男性の方が6.3ポイント高い割合になっている。(図7-2-2)

【図7-2-3 年代別 社会活動への参加に支障になること】



年代別にみると、「仕事や家事が忙しい」が40～49歳で63.2%と最も高く、次いで、50～59歳で59.6%、30～39歳で56.8%となっている。(図7-2-3)

【図7-2-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別 社会活動への参加に支障になること】

(%)

	仕事や家事が忙しい	病気などで体調が悪い	小さな子どもや介護が必要な人がいる	家族の理解が得られない	参加したいが活動の情報が少ない	参加したい活動がない	一緒に参加する仲間がいない	活動する場所や施設が少ない	時間帯が合わない	経済的な余裕がない	その他	特にな	無回答
問題だと思う (n=286)	40.2	16.4	11.9	5.6	20.3	25.5	16.1	11.2	24.8	19.6	5.9	6.3	1.7
問題だと思わない (n=76)	34.2	25.0	14.5	0.0	19.7	26.3	13.2	7.9	22.4	18.4	5.3	9.2	2.6
わからない (n=14)	14.3	14.3	7.1	0.0	7.1	21.4	21.4	0.0	7.1	7.1	0.0	28.6	14.3

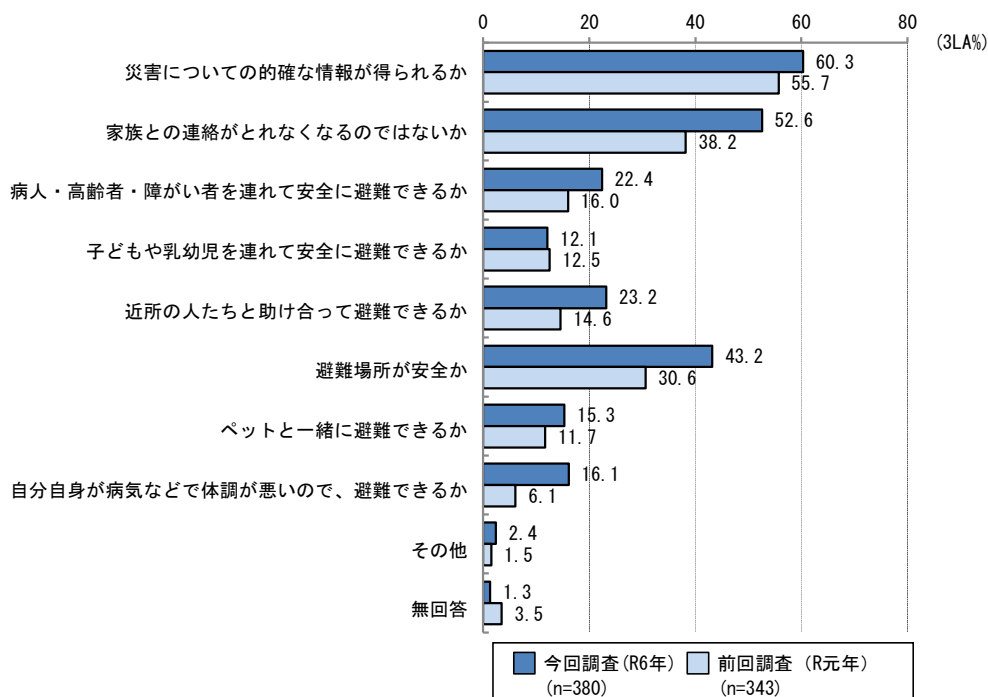
性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、問題だと思うと問題だと思わないは「仕事や家事が忙しい」で、それぞれ40.2%、34.2%、わからないは「特にな」で28.6%と最も高くなっている。(図7-2-4)

8. 災害について

(1) 大災害が発生し避難が必要になった時に心配なこと

問13 大災害が発生し避難が必要になった時、あなたはどのようなことが心配ですか。
(3つ以内選択)

【図8-1-1 経年比較 大災害が発生し避難が必要になった時に心配なこと】



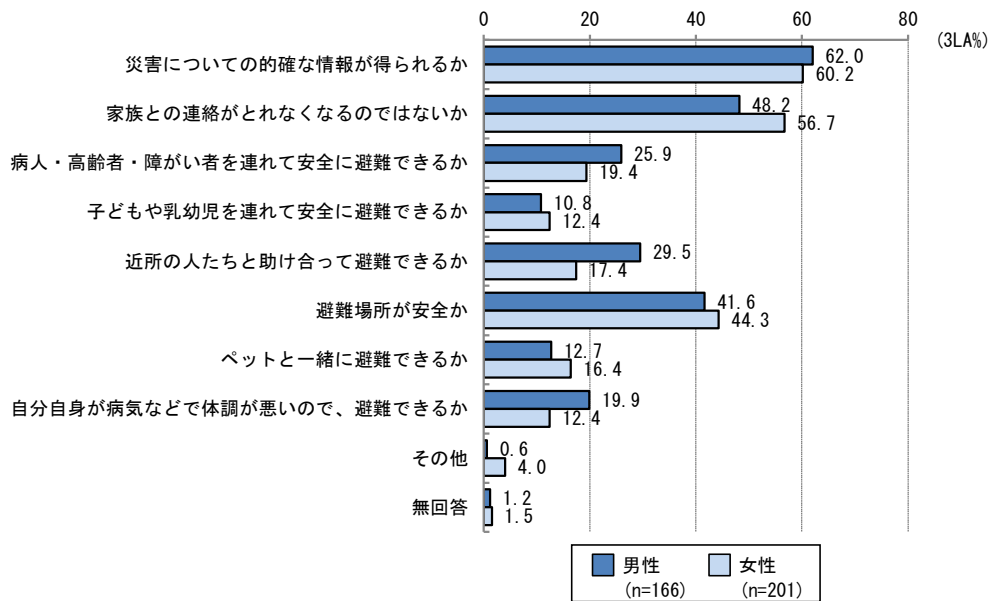
※前回調査の回答制限は、「2つまで」

大災害が発生し避難が必要になった時に心配なことについて、「災害についての的確な情報が得られるか」が60.3%と最も高く、次いで、「家族との連絡がとれなくなるのではないかと」が52.6%、「避難場所が安全か」が43.2%、「近所の人たちと助け合って避難できるか」が23.2%、「病人・高齢者・障がい者を連れて安全に避難できるか」が22.4%となっている。

経年比較でみると、「家族との連絡がとれなくなるのではないかと」が、今回調査で52.6%、前回調査で38.2%となっており、前回に比べて14.4ポイント、「避難場所が安全か」が、今回調査で43.2%、前回調査で30.6%となっており、前回に比べて12.6ポイント、「自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか」が、今回調査で16.1%、前回調査で6.1%となっており、前回に比べて10.0ポイント、「近所の人たちと助け合って避難できるか」が、今回調査で23.2%、前回調査で14.6%となっており、前回に比べて8.6ポイント、「病人・高齢者・障がい者を連れて安全に避難できるか」が、今回調査で22.4%、前回調査で16.0%となっており、前回に比べて6.4ポイント高くなっている。(図8-1-1)

その他の主な意見内容は、「独居高齢者なので的確な判断ができるか不安」、「持病の悪化」となっています。

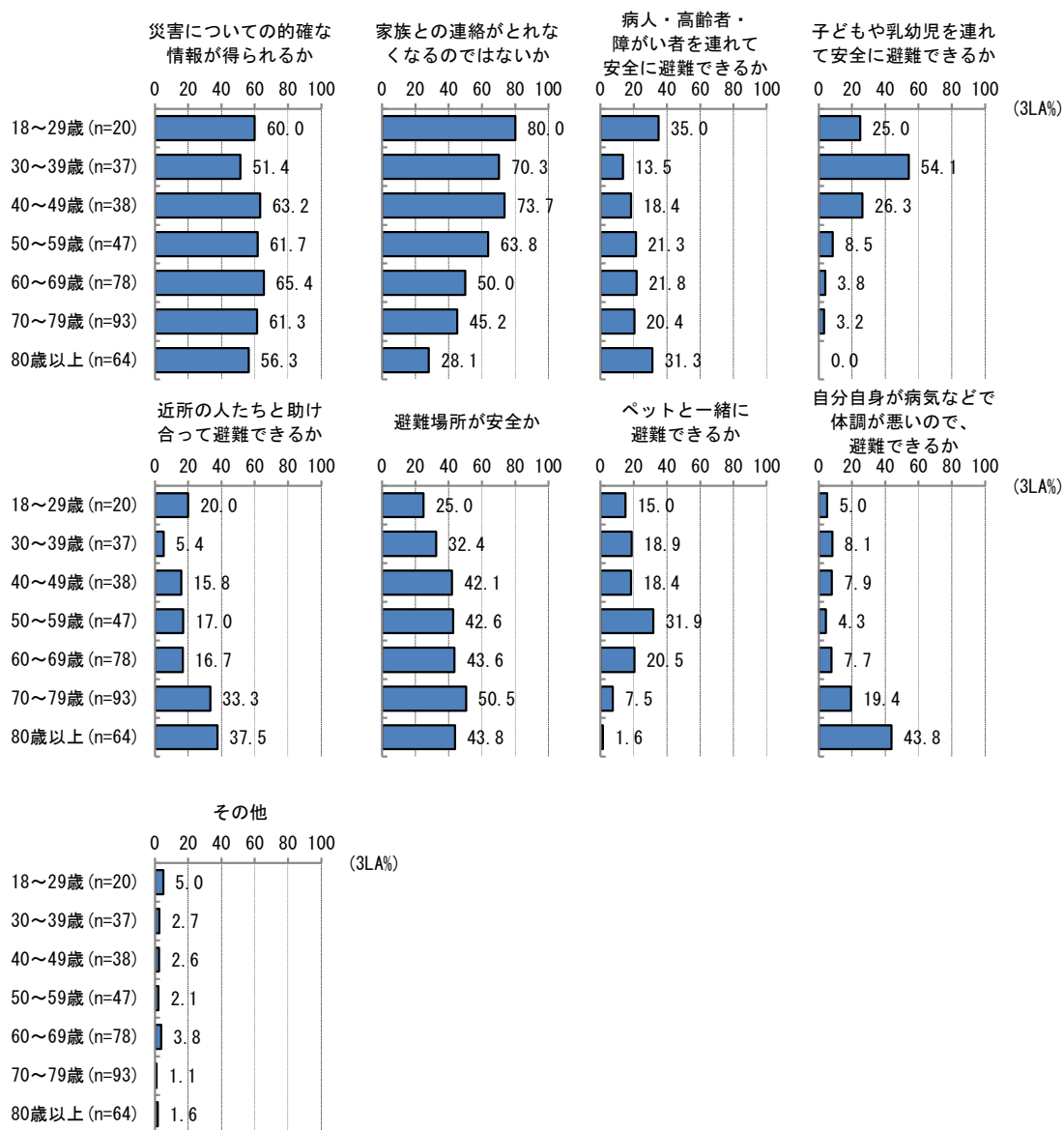
【図8-1-2 性別 大災害が発生し避難が必要になった時に心配なこと】



性別でみると、「家族との連絡がとれなくなるのではないかと」の割合は女性が56.7%、男性が48.2%となっており、女性の方が8.5ポイント、「ペットと一緒に避難できるか」の割合は女性が16.4%、男性が12.7%となっており、女性の方が3.7ポイント、「避難場所が安全か」の割合は女性が44.3%、男性が41.6%となっており、女性の方が2.7ポイント高い割合になっている。

一方で、「近所の人たちと助け合って避難できるか」の割合は男性が29.5%、女性が17.4%となっており、男性の方が12.1ポイント、「自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか」の割合は男性が19.9%、女性が12.4%となっており、男性の方が7.5ポイント、「病人・高齢者・障がい者を連れて安全に避難できるか」の割合は男性が25.9%、女性が19.4%となっており、男性の方が6.5ポイント高い割合になっている。(図8-1-2)

【図8-1-3 年代別 大災害が発生し避難が必要になった時に心配なこと】



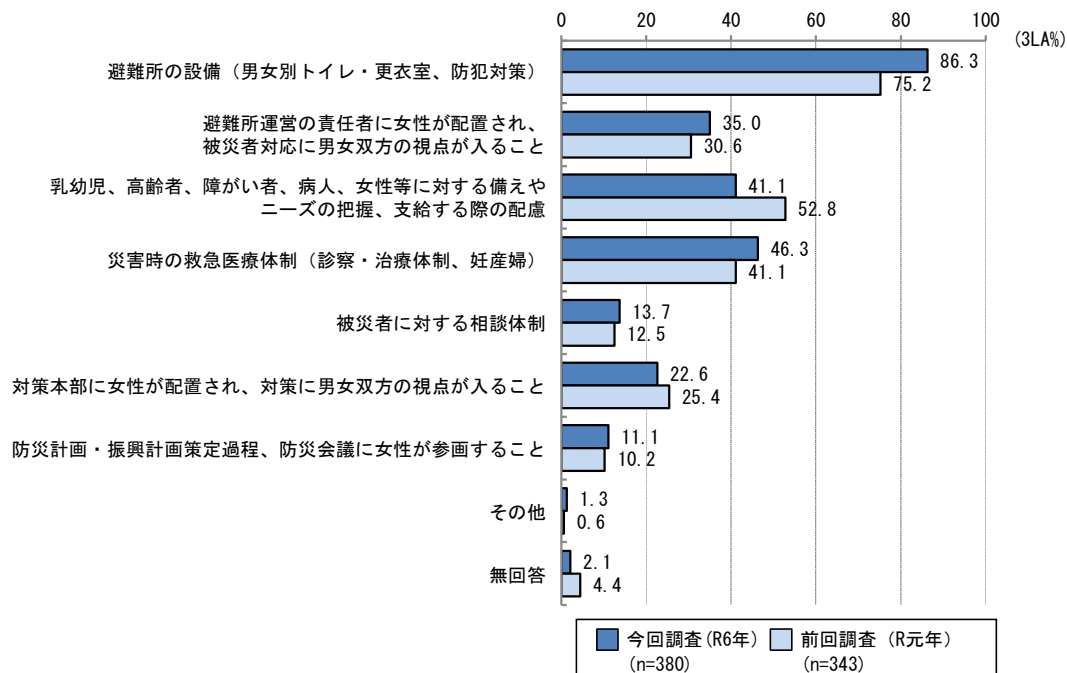
年代別でみると、「家族との連絡がとれなくなるのではないかと心配」が18～29歳で80.0%と最も高く、次いで、40～49歳で73.7%、30～39歳で70.3%となっている。

「自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか」が80歳以上で43.8%と最も高くなっている。(図8-1-3)

（２）防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うこと

問14 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。（３つ以内選択）

【図8-2-1 経年比較 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うこと】



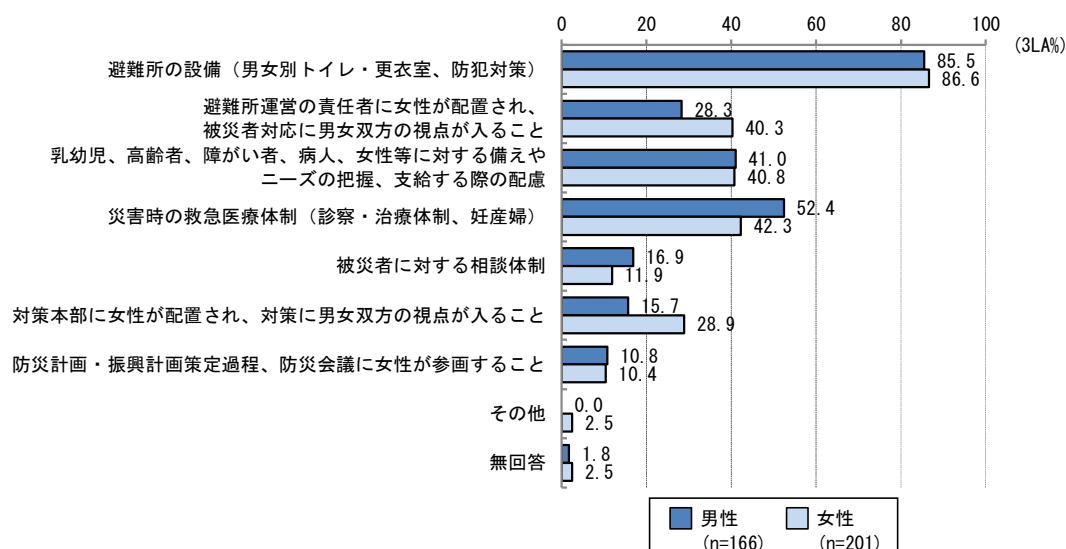
防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことについて、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」が86.3%と最も高く、次いで、「災害時の救急医療体制（診察・治療体制、妊産婦）」が46.3%、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性等に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が41.1%、「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に男女双方の視点が入ること」が35.0%、「対策本部に女性が配置され、対策に男女双方の視点が入ること」が22.6%となっている。

経年比較でみると、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」が今回調査で86.3%、前回調査で75.2%となっており、前回に比べて11.1ポイント、「災害時の救急医療体制（診察・治療体制、妊産婦）」が今回調査で46.3%、前回調査で41.1%となっており、前回に比べて5.2ポイント高くなっている。

一方で、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性等に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が今回調査で41.1%、前回調査で52.8%となっており、前回に比べて11.7ポイント低くなっている。（図8-2-1）

その他の主な意見内容は、「被災地での性被害防止対策を強化する」、「男女の住みわけをする」となっています。

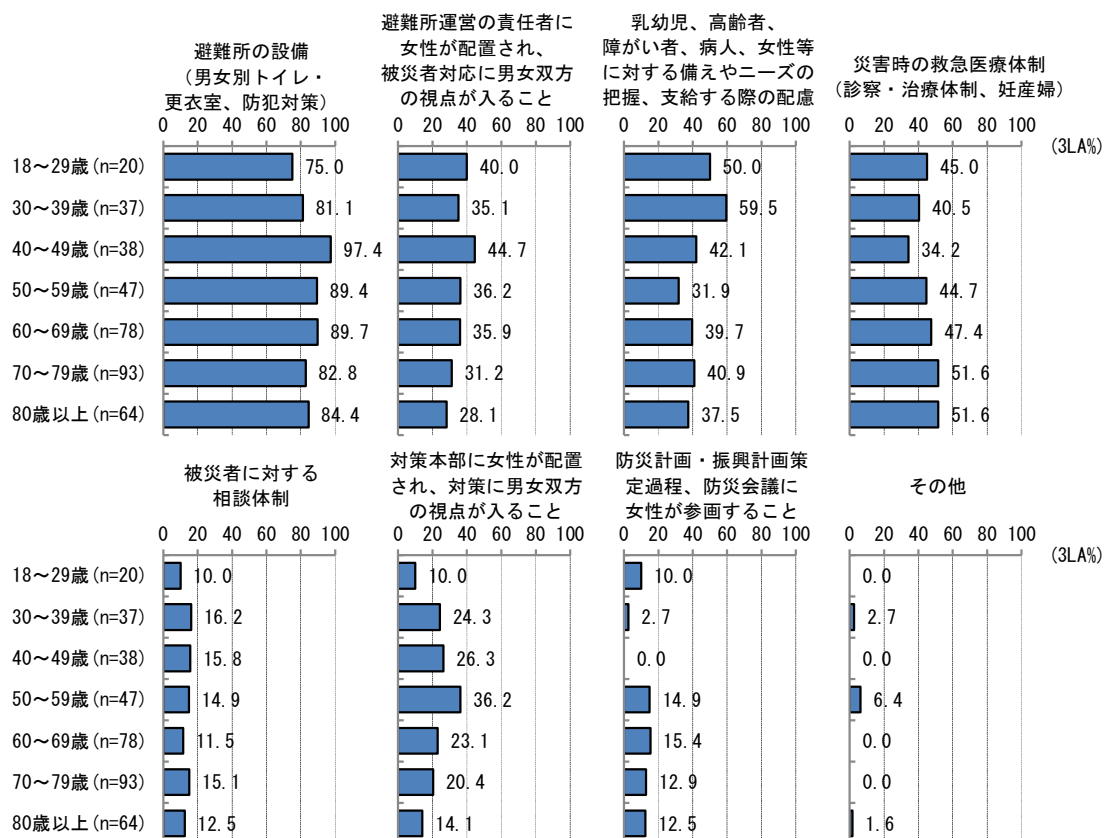
【図8-2-2 性別 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うこと】



性別でみると、「対策本部に女性が配置され、対策に男女双方の視点が入ること」の割合は女性が28.9%、男性が15.7%となっており、女性の方が13.2ポイント、「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に男女双方の視点が入ること」の割合は女性が40.3%、男性が28.3%となっており、女性の方が12.0ポイント、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」の割合は女性が86.6%、男性が85.5%となっており、女性の方が1.1ポイント高い割合になっている。

一方で、「災害時の救急医療体制（診察・治療体制、妊産婦）」の割合は男性が52.4%、女性が42.3%となっており、男性の方が10.1ポイント、「被災者に対する相談体制」の割合は男性が16.9%、女性が11.9%となっており、男性の方が5.0ポイント、「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること」の割合は男性が10.8%、女性が10.4%となっており、男性の方が0.4ポイント高い割合になっている。（図8-2-2）

【図8-2-3 年代別 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うこと】



年代別にみると、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」が40～49歳で97.4%と最も高く、次いで、60～69歳で89.7%、50～59歳で89.4%となっている。（図8-2-3）

【図8-2-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別

防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うこと】

	(%)								
	避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）	避難所運営の責任者に女性が入置され、被災者対応に男女双方の視点が配置されること	乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性等に対する配慮やニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救急医療体制（診療・治療体制、妊産婦）	被災者に対する相談体制	対策本部に女性が入置され、対策に男女双方の視点が配置されること	防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が入置されること	その他	無回答
問題だと思う（n=286）	87.1	39.2	41.3	47.9	13.3	23.1	10.8	1.7	0.7
問題だと思わない（n=76）	88.2	25.0	44.7	43.4	14.5	22.4	9.2	0.0	2.6
わからない（n=14）	64.3	7.1	28.6	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	21.4

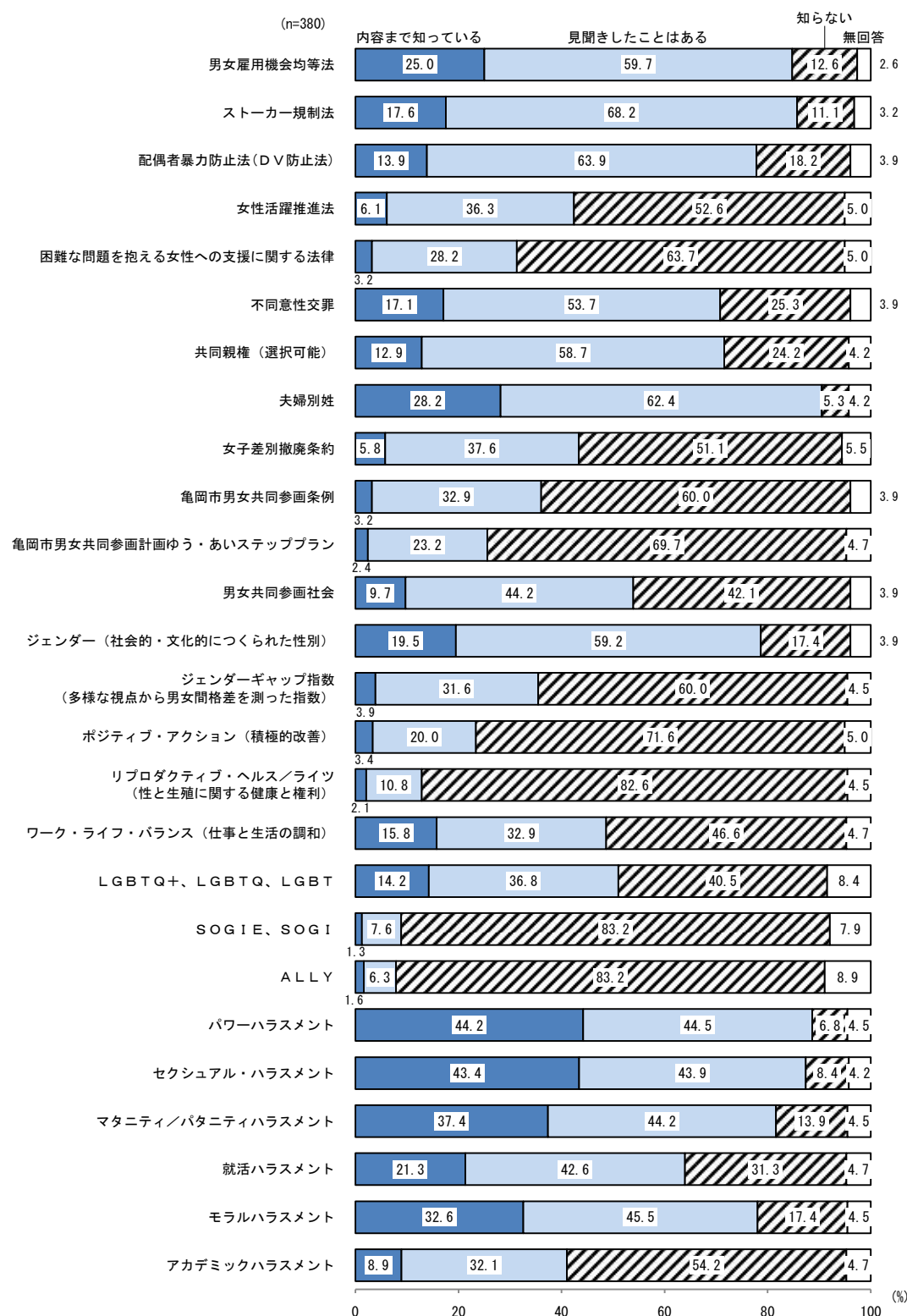
性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、全ての項目で「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」が最も高く、問題だと思うで87.1%、問題だと思わないで88.2%、わからないで64.3%となっている。（図8-2-4）

9. 男女共同参画に関する法律、施策、用語等について

(1) 男女共同参画に関する法律等の認知状況

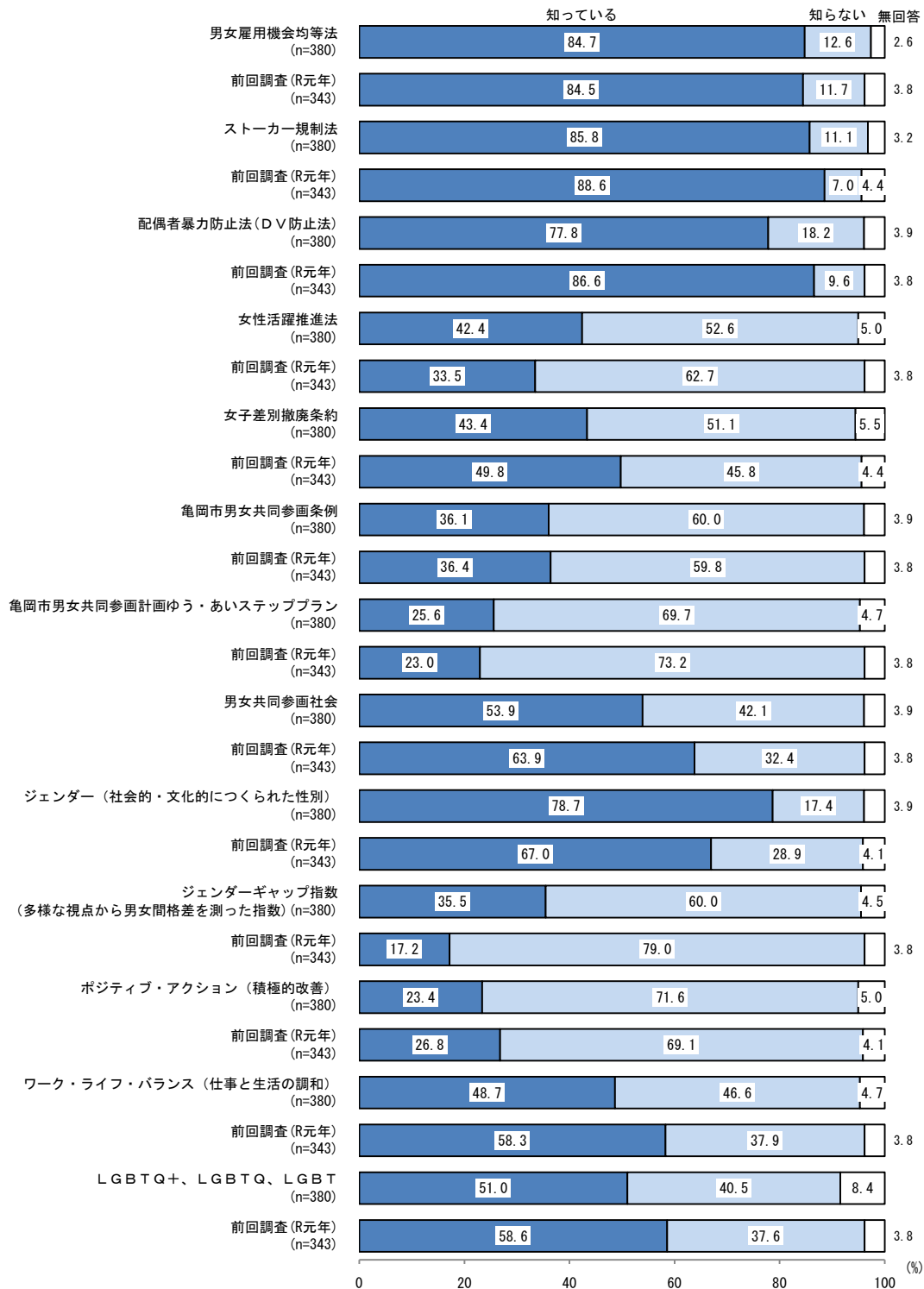
問15 あなたは、男女共同参画に関する事項について、どの程度ご存じですか。
(それぞれ1つ選択)

【図9-1 男女共同参画に関する法律等の認知状況】



男女共同参画に関する法律等の認知状況について、「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」を合わせた『知っている』が、「夫婦別姓」で90.6%と最も高く、次いで、「パワーハラスメント」で88.7%、「セクシュアル・ハラスメント」で87.3%、「ストーカー規制法」で85.8%、「男女雇用機会均等法」で84.7%となっている。(図9-1)

【図9-1-1 経年比較 男女共同参画に関する法律等の認知状況】



※『知っている』は、「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」の合計

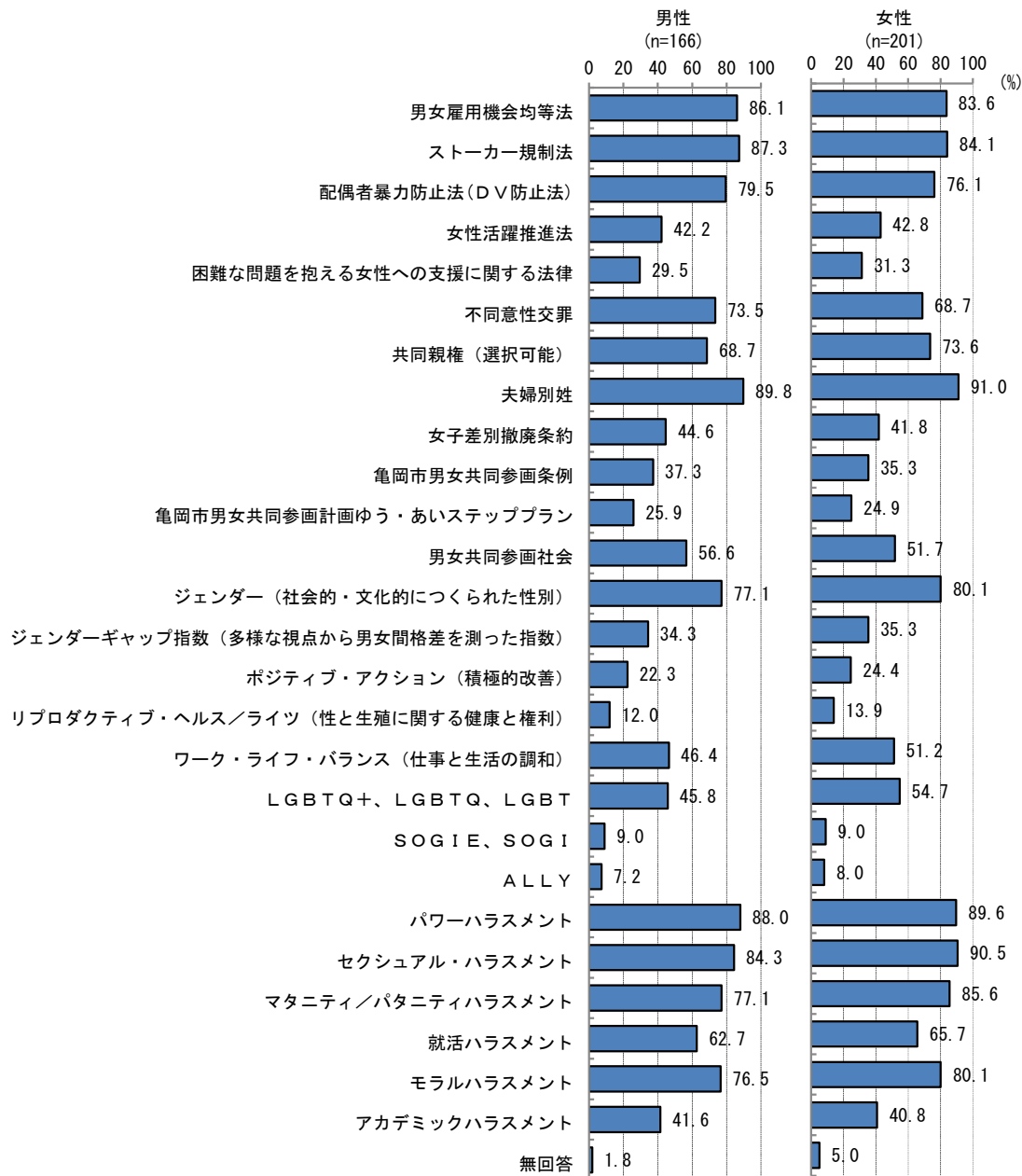
※前回調査にない以下の項目は省く。

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」、「不同意性交罪」、「共同親権（選択可能）」、「夫婦別姓」、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」、「SOGIE、SOGI」、「ALLY」、「パワーハラスメント」、「セクシュアル・ハラスメント」、「マタニティ／パタニティハラスメント」、「就活ハラスメント」、「モラルハラスメント」、「アカデミックハラスメント」

経年比較でみると、「ジェンダーギャップ指数（多様な視点から男女間格差を測った指数）」で『知っている』が、今回調査で35.5%、前回調査で17.2%となっており、前回に比べて18.3ポイント、「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」で『知っている』が、今回調査で78.7%、前回調査で67.0%となっており、前回に比べて11.7ポイント、「女性活躍推進法」で『知っている』が、今回調査で42.4%、前回調査で33.5%となっており、前回に比べて8.9ポイント高くなっている。

一方で、「男女共同参画社会」で『知っている』が、今回調査で53.9%、前回調査で63.9%となっており、前回に比べて10.0ポイント、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で『知っている』が、今回調査で48.7%、前回調査で58.3%となっており、前回に比べて9.6ポイント、「配偶者暴力防止法（DV防止法）」で『知っている』が、今回調査で77.8%、前回調査で86.6%となっており、前回に比べて8.8ポイント、「LGBTQ＋、LGBTQ、LGBT」で『知っている』が、今回調査で51.0%、前回調査で58.6%となっており、前回に比べて7.6ポイント、「女子差別撤廃条約」で『知っている』が、今回調査で43.4%、前回調査で49.8%となっており、前回に比べて6.4ポイント低くなっている。（図9-1-1）

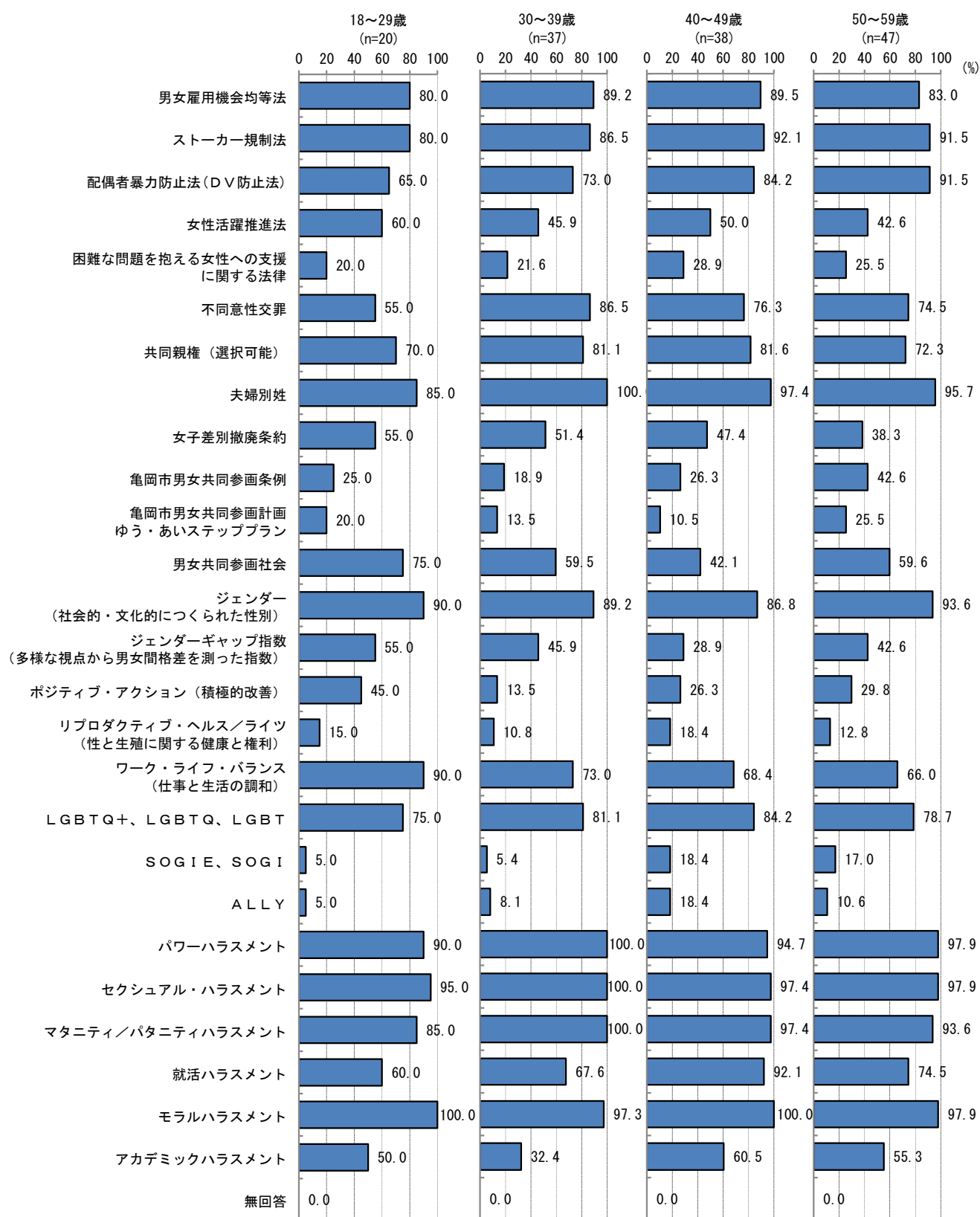
【図9-1-2 性別 男女共同参画に関する法律等の認知状況 『知っている』のみ】



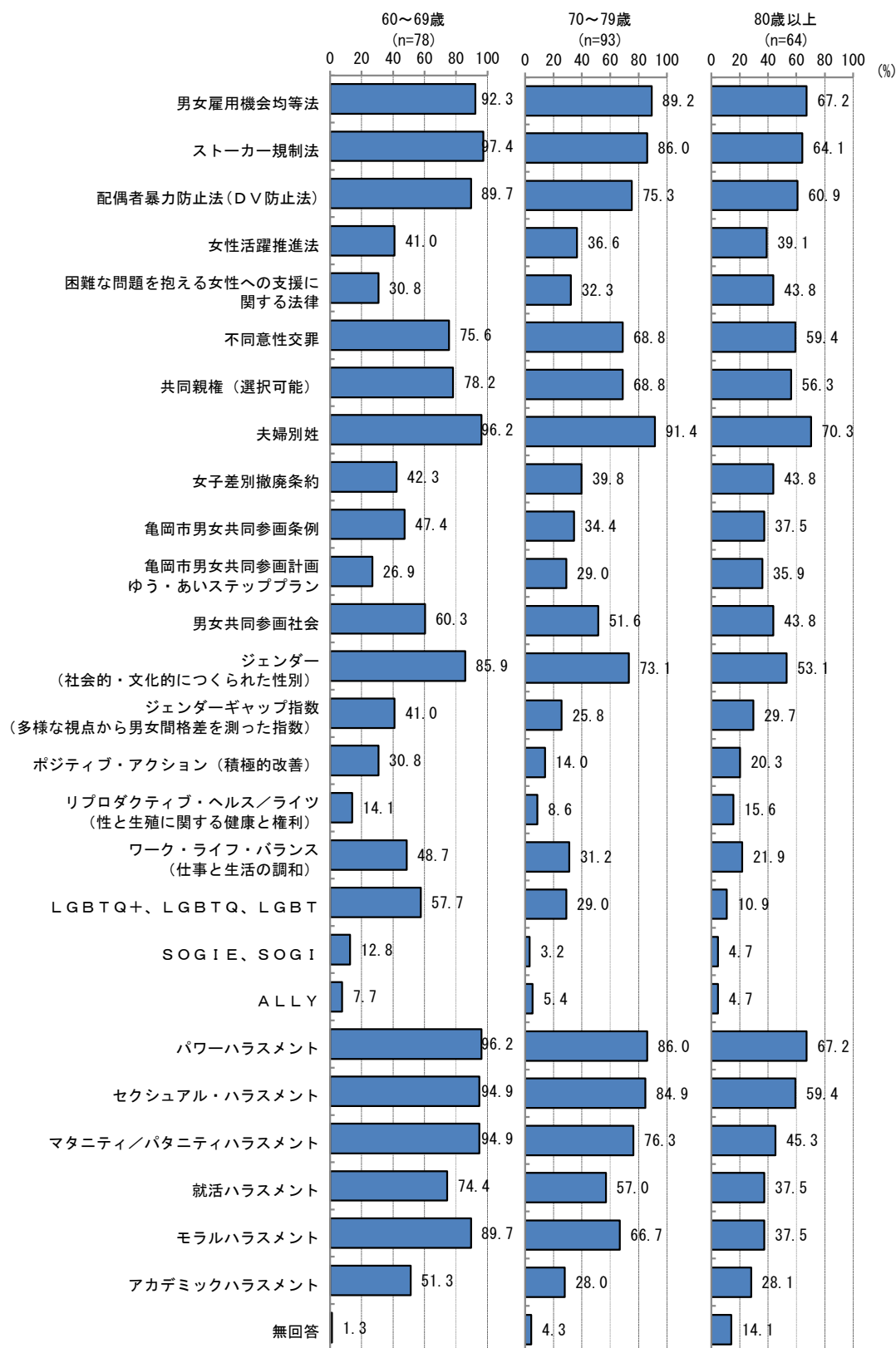
※「内容まで知っている」、「見聞きしたことはある」を合わせた『知っている』のみで集計

性別でみると、『知っている』の割合は、「LGBTQ+、LGBTQ、LGBT」で女性が54.7%、男性が45.8%となっており、女性の方が8.9ポイント、「マタニティ/パタニティハラスメント」で女性が85.6%、男性が77.1%となっており、女性の方が8.5ポイント、「セクシュアル・ハラスメント」で女性が90.5%、男性が84.3%となっており、女性の方が6.2ポイント高い割合になっている。(図9-1-2)

【図9-1-3 年代別 男女共同参画に関する法律等の認知状況① 『知っている』のみ】



【図9-1-3 年代別 男女共同参画に関する法律等の認知状況② 『知っているのみ』】



年代別でみると、「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」で『知っている』が50～59歳で93.6%と最も高く、次いで、18～29歳で90.0%、30～39歳で89.2%となっているが、80歳以上になると53.1%と他の年代と比べて低い割合になっている。（図9-1-3）

【図9-1-4 性別による役割分担意識に対する問題意識別
男女共同参画に関する法律等の認知状況（知っている割合）】

	男女雇用機会均等法	ストーカー規制法	配偶者暴力防止法（DV防止法）	女性活躍推進法	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	不同意性交罪	共同親権（選択可能）	夫婦別姓	女子差別撤廃条約	亀岡市男女共同参画条例	亀岡市男女共同参画計画 （ゆう・あいステツプラン）
問題だと思う（n=286）	89.2	89.2	81.8	44.0	30.8	72.3	75.1	93.0	45.1	38.1	28.7
問題だと思わない（n=76）	78.9	84.2	71.0	39.5	34.2	72.4	67.1	86.9	39.4	32.9	17.1
わからない（n=14）	50.0	42.9	42.9	28.6	28.6	42.9	35.7	71.4	42.9	14.3	14.3

	男女共同参画社会	ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	ジェンダーギャップ指数（多様な視点から男女間格差を測った指数）	ポジティブ・アクション（積極的改善）	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	LGBTQ+、LGBTQ、LGBT	SOGIE、SOGI	ALLY	パワーハラスメント	セクシュアル・ハラスメント
問題だと思う（n=286）	57.4	81.4	37.1	24.4	12.6	51.1	54.9	9.4	8.0	91.7	91.3
問題だと思わない（n=76）	46.1	75.0	31.5	21.1	14.4	42.1	40.8	7.9	7.9	84.2	79.0
わからない（n=14）	42.9	57.1	35.7	21.4	14.3	42.8	42.9	7.1	7.1	64.3	64.3

	パタニティハラスメント	就活ハラスメント	モラルハラスメント	アカデミックハラスメント
問題だと思う（n=286）	85.4	68.5	82.9	46.1
問題だと思わない（n=76）	76.3	55.3	67.2	28.9
わからない（n=14）	50.0	28.6	57.1	7.1

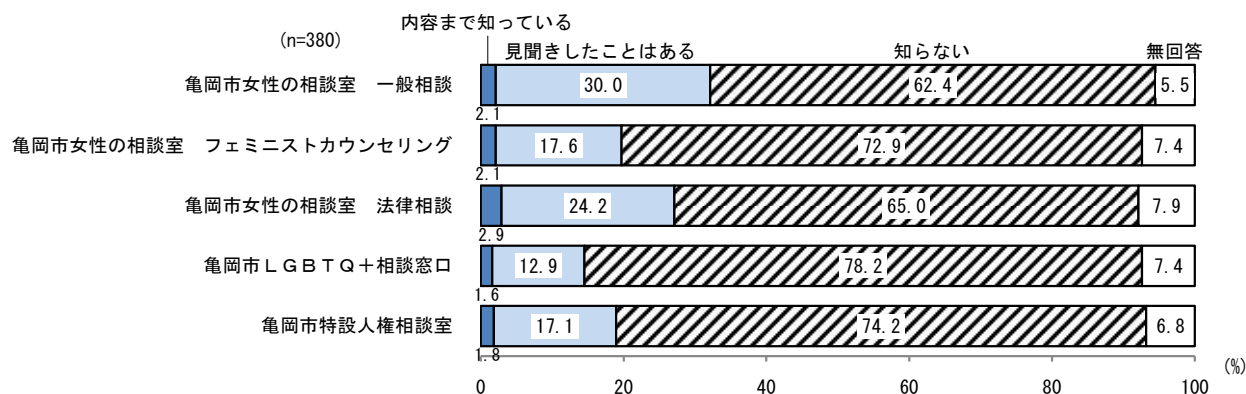
性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、全ての項目で「夫婦別姓」が最も高く、問題だと思うで93.0%、問題だと思わないで86.9%、わからないで71.4%となっている。

（図9-1-4）

(2) 亀岡市の相談室の認知状況

問16 あなたは、下記の相談室について、どの程度ご存じですか。(それぞれ1つ選択)

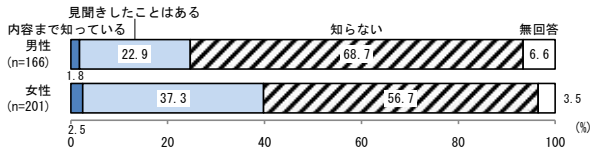
【図9-2 亀岡市の相談室の認知状況】



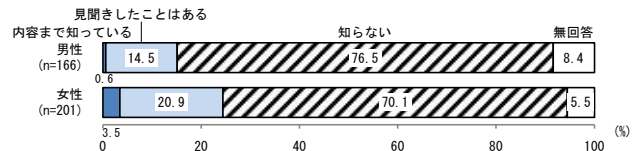
亀岡市の相談室の認知状況について、「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」を合わせた『知っている』が、「亀岡市女性の相談室 一般相談」で32.1%と最も高く、次いで、「亀岡市女性の相談室 法律相談」で27.1%、「亀岡市女性の相談室 フェミニストカウンセリング」で19.7%、「亀岡市特設人権相談室」で18.9%、「亀岡市LGBTQ+相談窓口」で14.5%となっている。(図9-2)

【図9-2-1 性別 亀岡市の相談室の認知状況】

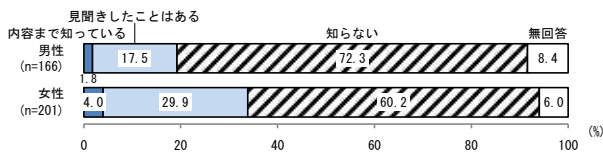
〔1. 亀岡市女性の相談室 一般相談〕



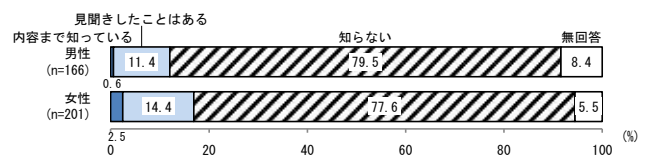
〔2. 亀岡市女性の相談室
フェミニストカウンセリング〕



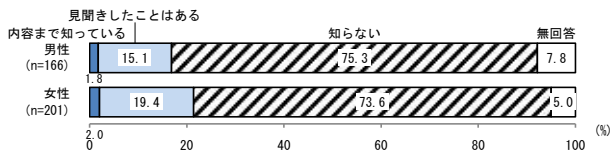
〔3. 亀岡市女性の相談室 法律相談〕



〔4. 亀岡市LGBTQ+相談窓口〕



〔5. 亀岡市特設人権相談室〕



性別でみると、「亀岡市女性の相談室 一般相談」で『知っている』の割合は女性が39.8%、男性が24.7%となっており、女性の方が15.1ポイント高い割合になっている。

「亀岡市女性の相談室 フェミニストカウンセリング」で『知っている』の割合は女性が24.4%、男性が15.1%となっており、女性の方が9.3ポイント高い割合になっている。

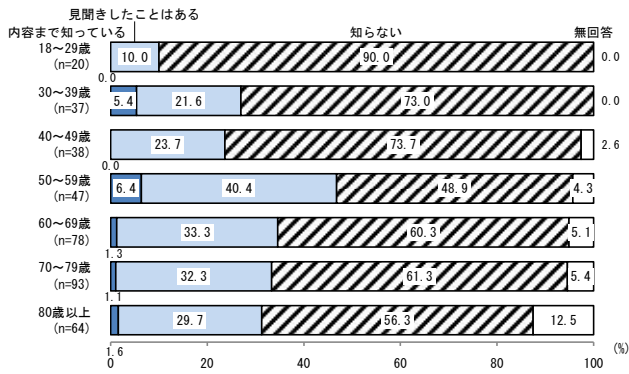
「亀岡市女性の相談室 法律相談」で『知っている』の割合は女性が33.9%、男性が19.3%となっており、女性の方が14.6ポイント高い割合になっている。

「亀岡市LGBTQ+相談窓口」で『知っている』の割合は女性が16.9%、男性が12.0%となっており、女性の方が4.9ポイント高い割合になっている。

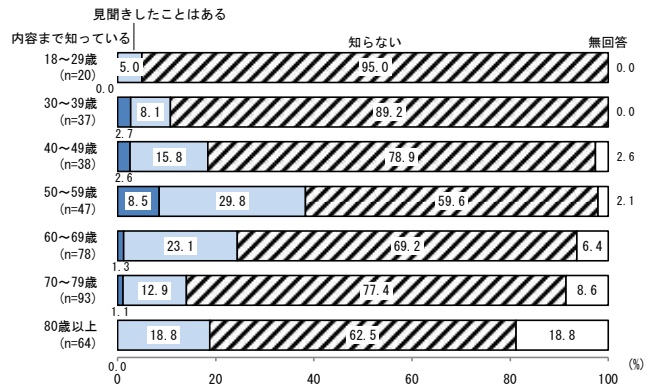
「亀岡市特設人権相談室」で『知っている』の割合は女性が21.4%、男性が16.9%となっており、女性の方が4.5ポイント高い割合になっている。(図9-2-1)

【図9-2-2 年代別 亀岡市の相談室の認知状況】

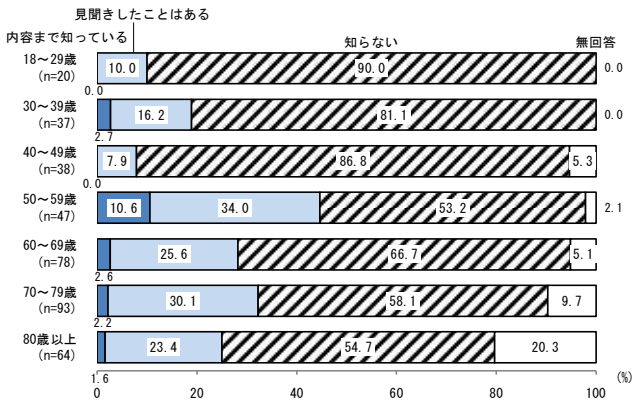
〔 1. 亀岡市女性の相談室 一般相談〕



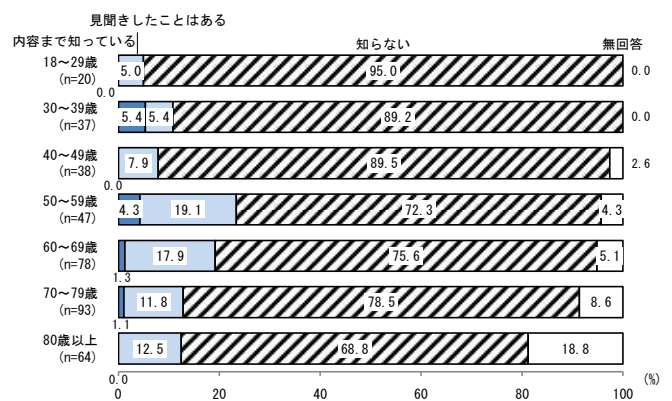
〔 2. 亀岡市女性の相談室
フェミニストカウンセリング〕



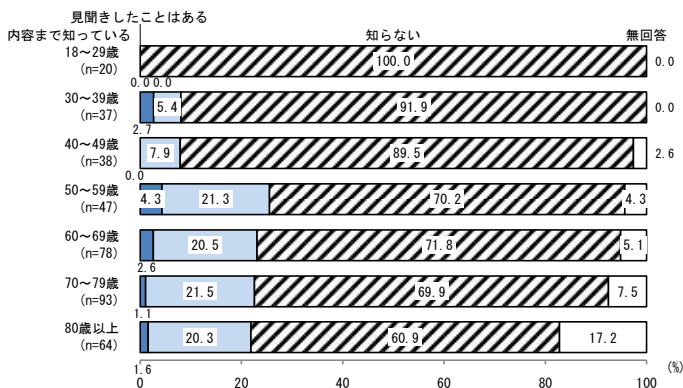
〔 3. 亀岡市女性の相談室 法律相談〕



〔 4. 亀岡市LGBTQ+相談窓口〕



〔 5. 亀岡市特設人権相談室〕



年代別にみると、『知っている』の割合は、すべての項目で50～59歳が最も高く、特に「亀岡市女性の相談室 一般相談」は46.8%となっている。(図9-2-2)

【図9-2-3 性別による役割分担意識に対する問題意識別
 亀岡市の相談室の認知状況（知っている割合）】

	(%)				
	亀岡市女性 の相談室 一般相談	フエミ ニスト の相談 センター	亀岡市女性 の相談室 法律相談	亀岡市L G B T Q +相談 窓口	亀岡市特 設人権 相談室
問題だと思う（n=286）	33.9	21.0	28.6	15.0	19.2
問題だと思わない（n=76）	28.9	18.4	23.7	14.5	19.7
わからない（n=14）	21.4	7.1	21.4	7.1	14.3

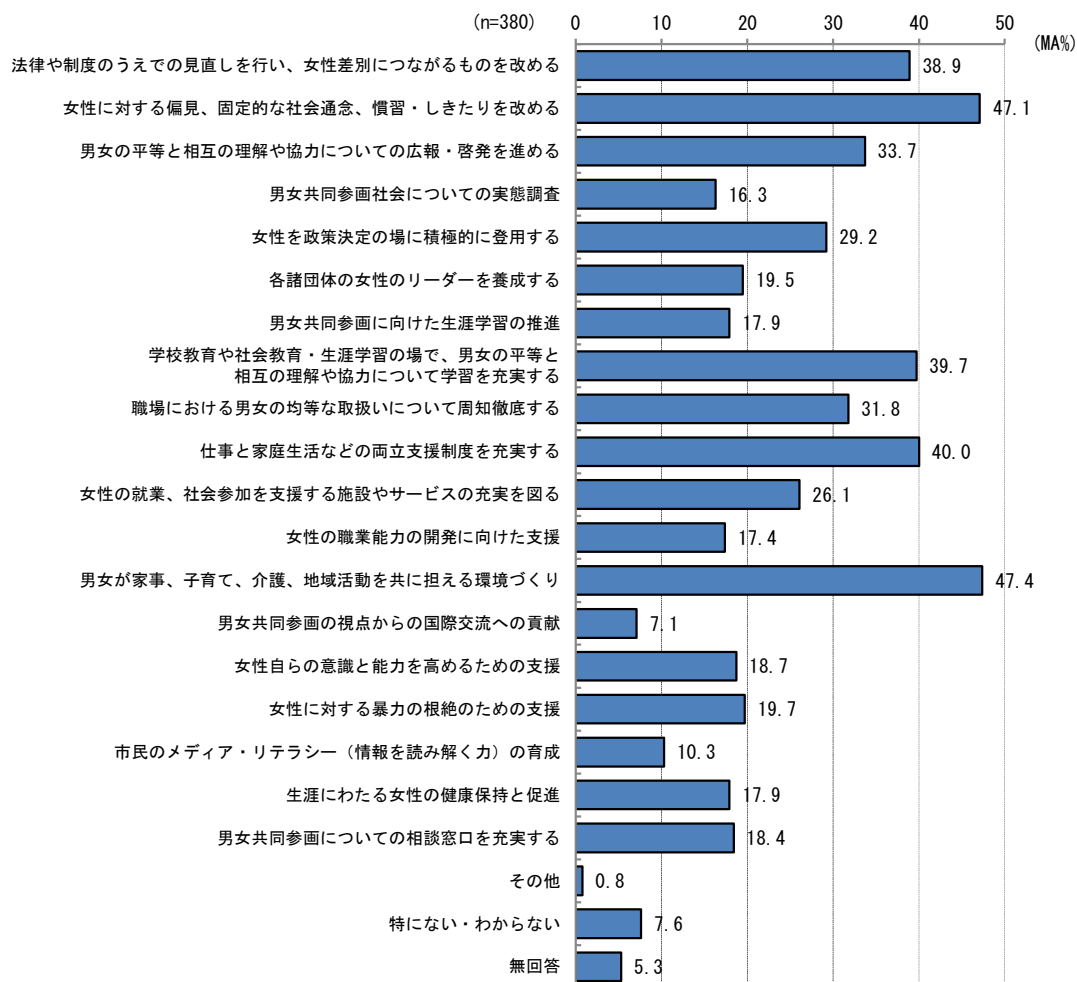
性別による役割分担意識に対する問題意識別にみると、全ての項目で「亀岡市女性の相談室一般相談」が最も高く、問題だと思うで33.9%、問題だと思わないで28.9%、わからないで21.4%となっている。（図9-2-3）

10. 男女共同参画の推進について

（１）男女共同参画社会の実現のため、力を入れていくべき取組

問17 行政、企業、市民は男女共同参画社会の実現のため、どのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまるものをすべて選択）

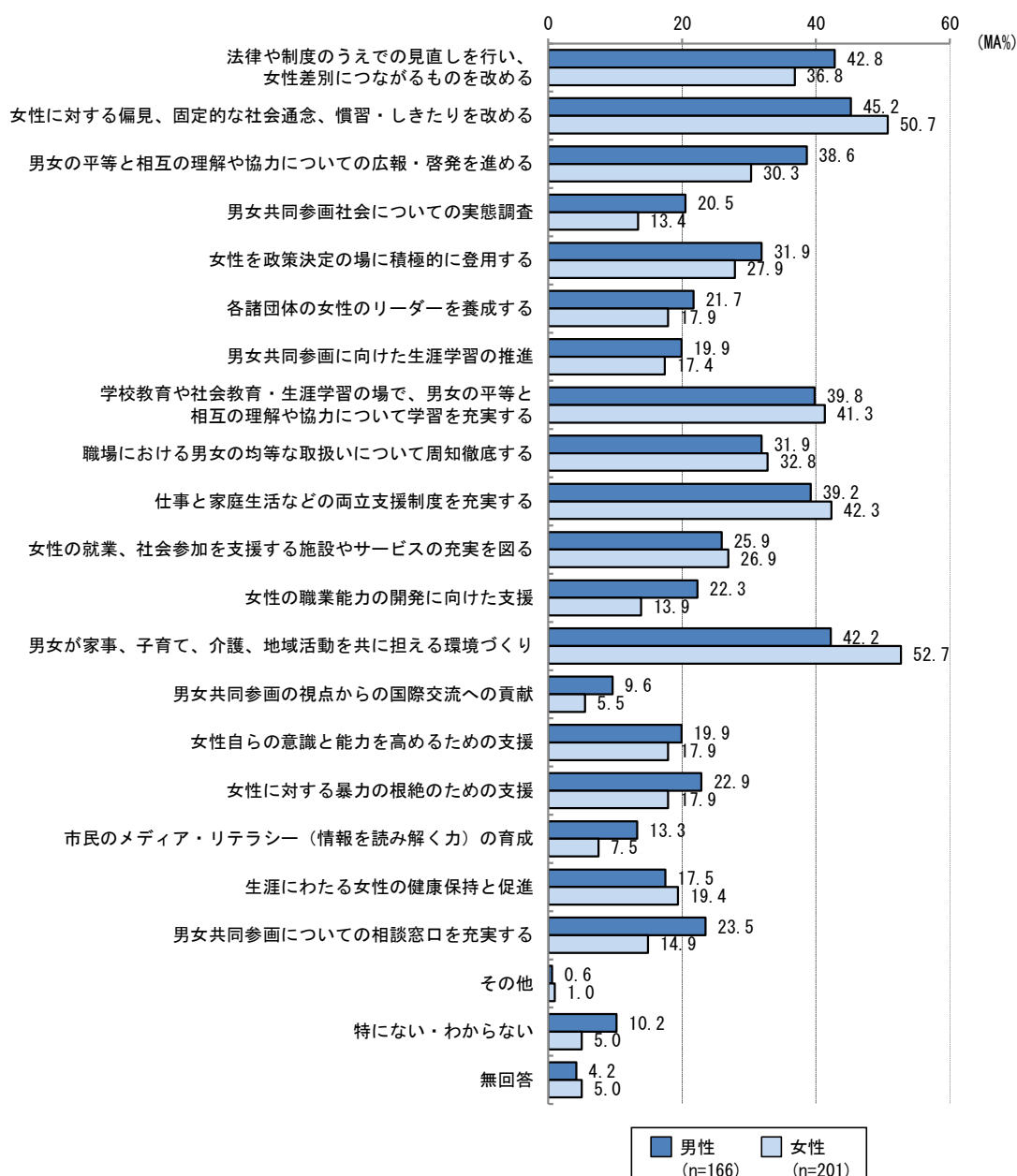
【図10-1 男女共同参画社会の実現のため、力を入れていくべき取組】



男女共同参画社会の実現のため、力を入れていくべき取組について、「男女が家事、子育て、介護、地域活動を共に担える環境づくり」が47.4%と最も高く、次いで、「女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が47.1%、「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」が40.0%、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する」が39.7%、「法律や制度のうえでの見直しを行い、女性差別につながるものを改める」が38.9%となっている。（図10-1）

その他の主な意見内容は、「すべてを平等にするのは不可能だと思う」となっています。

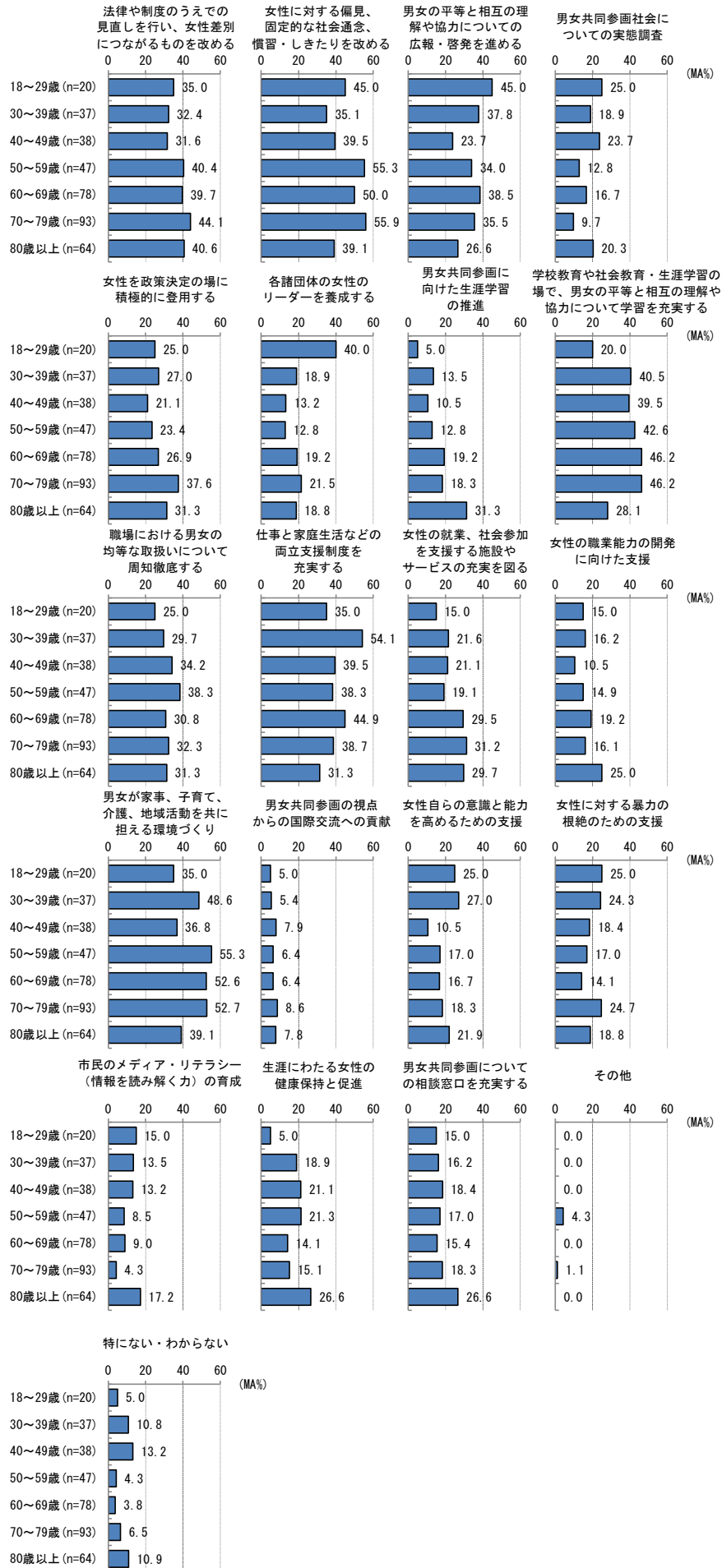
【図10-1-1 性別 男女共同参画社会の実現のため、力を入れていくべき取組】



性別でみると、「男女が家事、子育て、介護、地域活動を共に担える環境づくり」の割合は女性が52.7%、男性が42.2%となっており、女性の方が10.5ポイント、「女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」の割合は女性が50.7%、男性が45.2%となっており、女性の方が5.5ポイント、「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」の割合は女性が42.3%、男性が39.2%となっており、女性の方が3.1ポイント高い割合になっている。

一方で、「男女共同参画についての相談窓口を充実する」の割合は男性が23.5%、女性が14.9%となっており、男性の方が8.6ポイント、「女性の職業能力の開発に向けた支援」の割合は男性が22.3%、女性が13.9%となっており、男性の方が8.4ポイント、「男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める」の割合は男性が38.6%、女性が30.3%となっており、男性の方が8.3ポイント高い割合になっている。（図10-1-1）

【図10-1-2 年代別 男女共同参画社会の実現のため、力を入れていくべき取組】



年代別でみると、「女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が70～79歳で55.9%と最も高く、次いで、50～59歳で55.3%、60～69歳で50.0%となっている。また、「各所団体の女性のリーダーを養成する」では18～29歳が「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」では30～39歳が、それぞれ他の年代と比べて高い傾向になっている。

(図10-1-2)

(2) 自由意見

亀岡市の男女共同参画社会づくりのための意見等について、24名の方から回答があり、意見総数は26件となっている。

意見内容	件数
啓発や情報発信、支援活動の強化を希望	5
適材適所を意識、可能な範囲で平等化を進めるべき	3
教育内容の見直し	2
立法・行政等において女性の進出を強化	2
講習ではなく誰でも参加がしやすいイベントの実施	2
亀岡市の施策について	2
女性リーダーの育成を強化	1
男性に対する固定的な社会通念、しきたりの見直し	1
調査に関して	5
その他	3

第3章 調査票

「男女共同参画に関する市民意識調査」

市民の皆様には、日頃から本市人権行政の推進について、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本市におきましては、男女共同参画社会の実現をめざして、様々な事業に取り組んでいるところです。

この調査は、「ゆう・あいプラン 2021～亀岡市男女共同参画計画～」の前期計画を検証し、今後の施策の方向性を示すため、男女共同参画における啓発の普及度、また、啓発方法や展開している事業の課題等を把握することを目的に実施するものです。

この調査の実施にあたり、市内にお住まいの18歳以上の方の中から1,000人を無作為に選ばせていただき、あなた様のご意見をお伺いすることになりました。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をくださいますようお願いいたします。

※本調査は、亀岡市より株式会社サーベイリサーチセンターへ調査業務を委託しています。

2024年(令和6年) 11月
亀 岡 市

ご回答にあたってのお願い

- この調査は、匿名で実施されますので、あなた様にお名前やご住所をお答えいただく必要はございません。
- ご回答いただいた内容は、秘密を厳守のうえ、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用させていただきますので、調査以外の目的で使用することはありません。
- ・宛名にあるご本人がご回答ください。
(ご本人による記入が難しい場合は、ご家族等がご本人から聴き取って記入をお願いいたします。)
- ・次の2つの方法からいずれか1つをお選びいただき、**12月13日(金)までに**回答・投函してください。

(1)インターネットでの回答方法

- ①右記二次元コードまたは下記URLよりご回答ください。

URL: <https://src.webcas.net/form/pub/src2/k12>

※専用サイトへのログインの際には、次のID・パスワード(全て半角英数字)を入力してください。

ID

パスワード

* ID とパスワードは無作為に付与しており、個人が特定されることはありません。

* 回答画面内の「一時保存」ボタンから、回答途中のデータを一時的に保存することができます。
回答を再開される際は、保存時に発行される再開用URLまたは二次元コード、上記URL からアクセスしてください。

(2)郵送での回答方法

- ①黒のボールペンまたは濃い鉛筆でご記入ください。
- ②お答えは、「1つ」「3つ以内」「すべて」などの表記に従って、該当する番号に○印を付けてください。
「その他」にあてはまる場合は、()内にその内容を具体的に記入ください。
- ③ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、ポストにご投函ください。

【問合せ先】 亀岡市 生涯学習部 人権啓発課 男女共同参画推進係

T E L : 0771-25-5075(直通) F A X : 0771-22-6372
e-mail : jinken-keihatsu@city.kameoka.lg.jp



だんじょびようどう かん いしき
男女平等に関する意識について、おたずねします。

【すべての人におたずねします。】

問1 あなたは、現在、次の分野で男女の立場は平等になっていると思いますか。

あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つ選択)

項 目	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇され ている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇され ている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
(1) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2) 職場で	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(4) 自治会など地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体のなかで(市民活動を含む)	1	2	3	4	5	6

【すべての人におたずねします。】

問2 『男は仕事、女は家庭』など、性別による役割分担意識があることについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(1つ選択)

※ここでいう、「性別による役割分担意識」とは、男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」などのように、「男性」、「女性」という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方を言います。

- 問題だと思う
- どちらかといえば問題だと思う
- どちらかといえば問題だと思わない
- 問題だと思わない
- わからない

かていせいかつ こそだ
家庭生活・子育てについて、おたずねします。

【すべての人におたずねします。】

問3 あなたの家庭では、(1)～(8)のそれぞれについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。
(それぞれ1つ選択)

項 目	主に男性	共同して分担	主に女性	その他	該当しない
(1) 家事(炊事・洗濯・掃除など)	1	2	3	4	5
(2) 子育て(子どもの世話、しつけ、教育など)	1	2	3	4	5
(3) 介護(介護が必要な親の世話、病人の介護など)	1	2	3	4	5
(4) 地域の行事への参加、自治会活動	1	2	3	4	5
(5) PTA活動	1	2	3	4	5
(6) 生活費(年金を含む)の確保	1	2	3	4	5
(7) 会計の管理	1	2	3	4	5
(8) 高価な商品や土地、家屋の購入決定	1	2	3	4	5

【すべての人におたずねします。】

問4 あなたは、今後、男女ともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内選択)

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 6 労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 12 その他(具体的に)
- 13 特に対策の必要はない

仕事について、おたずねします。

「女性のみの職場」、「男性のみの職場」以外に勤めている人(パート・アルバイトなどを含む)→問5以降へ進んでください
それ以外の人→問6以降へ進んでください

問5 あなたの職場では、次のようなことがありますか。(それぞれ1つ選択)

項 目	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
(1) 採用条件が女性に不利	1	2	3	4
(2) 女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い	1	2	3	4
(3) 能力評価が男女平等ではない	1	2	3	4
(4) 女性は管理職に登用されにくい	1	2	3	4
(5) 配置転換に性別による差がある	1	2	3	4
(6) 能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある	1	2	3	4
(7) 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている	1	2	3	4
(8) 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい	1	2	3	4
(9) 男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい	1	2	3	4
(10) 男性の方が残業が多い	1	2	3	4
(11) 人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい	1	2	3	4

【すべての人におたずねします。】

問6 あなたは、男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内選択)

- 育児・介護休業などの休業中に所得保障があること
- 保育サービスなどの子育て支援策を充実すること
- 地域で自主的な子育てや介護支援ができるようなネットワークをつくること
- 在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること
- 長時間労働を容認する職場の雰囲気是正すること
- 介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること
- 一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること
- 再就職、再チャレンジに関する施策が充実すること
- セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の性的な嫌がらせをなくすること
- 家族の積極的な支援や協力があること
- 男女の待遇を均等にすること
- パート・アルバイトなどの待遇を改善すること
- その他(具体的に)
- わからない

はいぐうしゃ こいびととう ぼうりよく
配偶者・恋人等からの暴力について、おたずねします。

【すべての人におたずねします。】

問7 あなたはこれまでに、あなたの配偶者(事実婚や別居中を含む)や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。(それぞれ1つ選択)

こ う 目	何 度 も あ っ た	一、二 度 あ っ た	も しか し た ら そ う か も し れ な い	ま っ た く な い
(1) 命の危険を感じるくらい の 暴行を受けた	1	2	3	4
(2) 医師の治療が必要となるような暴行を受けた	1	2	3	4
(3) 医師の治療が必要ではない程度 の 暴行を受けた	1	2	3	4
(4) いやがっているのに、性的な行為を強要された	1	2	3	4
(5) 目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された	1	2	3	4
(6) 避妊に協力しなかった	1	2	3	4
(7) 何を言っても、無視され続けた	1	2	3	4
(8) 交友関係や電話、郵便物を細かく監視された	1	2	3	4
(9) 「誰のおかげで生活できるのか」や「役立たず」など、人格を否定することを言われた	1	2	3	4
(10) 大声でどなられた	1	2	3	4
(11) 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた	1	2	3	4
(12) 子どもの前で暴力を振るう、子どもに自分の愚口を言うなどされた	1	2	3	4



問7で「何度もあった」「一、二度あった」「もしかしたらそうかもしれない」を1つでも選択した人→問8以降へ進んでください
すべての項目について、「まったくない」を選択した人→問9以降へ進んでください

問8 あなたは、その行為について、誰かにうちあけたり相談したりしましたか。(あてはまるものをすべて選択)

1 警察に連絡・相談した	2 人権擁護委員・法務局などに相談した
3 女性相談所、女性相談員に相談した	4 市役所の相談窓口相談した
5 その他の公共機関に相談した	6 民間の相談機関のカウンセラーに相談した
7 医師や医療機関のカウンセラーに相談した	8 弁護士に相談した
9 学校の先生、スクールカウンセラーに相談した	10 家族や親族に相談した
11 友人や知人に相談した	12 その他(具体的に)
13 どこにも相談しなかった	

【すべての人におたずねします。】

問9 あなたは、配偶者や恋人等からの暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つ以内選択)

- 1 学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する
- 2 大学、企業、地域等での暴力防止のための人権研修を充実する
- 3 被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する
- 4 被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する
- 5 被害者の自立を支援する体制を充実する
- 6 警察がもっと積極的に対応する
- 7 加害者に対するカウンセリングや教育などを進める
- 8 暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する
- 9 被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する
- 10 被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす
- 11 加害者への罰則を強化する
- 12 地域で暴力防止のための研修会、イベントを行う
- 13 その他(具体的に)
- 14 特に対策の必要はない

日常生活又は社会生活における困難な問題を抱える女性について、おたずねします。

【女性におたずねします。】

問10 あなた又は、あなたの周囲にいる女性が以下のような困難な問題を経験したことや、見聞きしたことがありますか。(あてはまるものをすべて選択)

※法律上で「困難な問題を抱える女性」とは、「性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性、その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性(そのおそれのある女性を含む。)」と定義されています。

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 配偶者や元配偶者、交際相手からの暴力・暴言 | 2 学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害 |
| 3 親や兄弟、子からの暴力・虐待 | 4 家庭内の役割の偏り(ワンオペ等) |
| 5 家庭不和(家族が抱える問題も含む) | 6 離婚問題(養育費問題も含む) |
| 7 ストーカー被害 | 8 セクシュアル・ハラスメントや性暴力被害 |
| 9 リベンジポルノやAV出演被害 | 10 経済的困難(非正規雇用・多重債務・生活困窮など) |
| 11 家出、住宅喪失 | 12 その他(具体的に) |
| 13 そのような経験はない | |

しゃかいかつどう さんか
社会活動への参加について、おたずねします。

【すべての人におたずねします。】

問11 あなたは、次のような活動に参加していますか。(それぞれ1つ選択)

こ う 目	よく 参加する	時々 参加する	まったく 参加しない
(1)趣味・学習・スポーツ活動	1	2	3
(2)自治会などの役員活動	1	2	3
(3)PTA、子ども会などの地域活動	1	2	3
(4)消費生活活動や住民運動(共同購入やリサイクルなど)	1	2	3
(5)福祉・ボランティア活動	1	2	3
(6)政治活動や労働組合活動	1	2	3
(7)宗教活動	1	2	3
(8)審議会委員などの公的な委員活動	1	2	3
(9)NPOの活動	1	2	3

【すべての人におたずねします。】

問12 あなたが、社会的な活動に参加しようと思うとき、支障となることはどのようなことですか。(3つ以内選択)

1 仕事や家事が忙しい	2 病気などで体調が悪い
3 小さな子どもや介護が必要な人がいる	4 家族の理解が得られない
5 参加したいが活動の情報が少ない	6 参加したい活動がない
7 一緒に参加する仲間がいない	8 活動する場所や施設が少ない
9 時間帯が合わない	10 経済的な余裕がない
11 その他(具体的に)	12 特にない

さいがい
災害について、おたずねします。

【すべての人におたずねします。】

問13 大災害が発生し避難が必要になった時、あなたはどのようなことが心配ですか。(3つ以内選択)

- 1 災害についての的確な情報が得られるか
- 2 家族との連絡がとれなくなるのではないか
- 3 病人・高齢者・障がい者を連れて安全に避難できるか
- 4 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか
- 5 近所の人たちと助け合って避難できるか
- 6 避難場所が安全か
- 7 ペットと一緒に避難できるか
- 8 自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか
- 9 その他(具体的に

)

【すべての人におたずねします。】

問14 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。(3つ以内選択)

- 1 避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策)
- 2 避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に男女双方の視点が入ること
- 3 乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性等に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
- 4 災害時の救急医療体制(診察・治療体制、妊産婦)
- 5 被災者に対する相談体制
- 6 対策本部に女性が配置され、対策に男女双方の視点が入ること
- 7 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること
- 8 その他(具体的に

)

だんじょきょうどうさんかく かん ほうりつ しきく ようごとう
男女共同参画に関する法律、施策、用語等について、おたずねします。

【すべての人におたずねします。】

問15 あなたは、男女共同参画に関する事項について、どの程度ご存じですか。(それぞれ1つ選択)

こ う 目		知 し て い る	内 容 ま で	こ と は あ る	見 聞 き し た	知 ら な い
法 律 ・ 法 律 用 語 ・ 施 策 等	(1) 男女雇用機会均等法	1		2		3
	(2) ストーカー規制法	1		2		3
	(3) 配偶者暴力防止法(DV防止法)	1		2		3
	(4) 女性活躍推進法	1		2		3
	(5) 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1		2		3
	(6) 不同意性交罪	1		2		3
	(7) 共同親権(選択可能)	1		2		3
	(8) 夫婦別姓	1		2		3
	(9) 女子差別撤廃条約	1		2		3
	(10) 亀岡市男女共同参画条例	1		2		3
	(11) 亀岡市男女共同参画計画ゆう・あいステッププラン	1		2		3
用 語	(12) 男女共同参画社会	1		2		3
	(13) ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)	1		2		3
	(14) ジェンダーギャップ指数 (多様な視点から男女間格差を測った指数)	1		2		3
	(15) ポジティブ・アクション(積極的改善)	1		2		3
	(16) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	1		2		3
	(17) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1		2		3
	(18) LGBTQ+, LGBTQ, LGBT	1		2		3
	(19) SOGIE, SOGI	1		2		3
	(20) ALLY	1		2		3
	(21) パワーハラスメント	1		2		3
	(22) セクシュアル・ハラスメント	1		2		3
	(23) マタニティ/パタニティハラスメント	1		2		3
	(24) 就活ハラスメント	1		2		3
	(25) モラルハラスメント	1		2		3
	(26) アカデミックハラスメント	1		2		3

【すべての人におたずねします。】

問16 あなたは、下記の相談室について、どの程度ご存じですか。(それぞれ1つ選択)

項 目	知っている 内容まで	見聞きした ことはある	知らない
(1) 亀岡市女性の相談室 一般相談	1	2	3
(2) 亀岡市女性の相談室 フェミニストカウンセリング	1	2	3
(3) 亀岡市女性の相談室 法律相談	1	2	3
(4) 亀岡市LGBTQ+相談窓口	1	2	3
(5) 亀岡市特設人権相談室	1	2	3

※上記の相談室・窓口については、お電話またはメールで受付しています。

(1)(2)(3) 亀岡市女性の相談室 一般相談、フェミニストカウンセリング、法律相談:0771-25-7171

(4) 亀岡市LGBTQ+相談窓口:0771-25-5075

(5) 亀岡市特設人権相談室:0771-25-5018

(1)～(5)共通メール:jinken-keihatsu@city.kameoka.lg.jp

だんじょきょうどうさんかく すいしん
男女共同参画の推進について、おたずねします。

【すべての人におたずねします。】

問17 行政、企業、市民は男女共同参画社会の実現のため、どのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。

(あてはまるものをすべて選択)

- 1 法律や制度のうえでの見直しを行い、女性差別につながるものを改める
- 2 女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める
- 3 男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める
- 4 男女共同参画社会についての実態調査
- 5 女性を政策決定の場に積極的に登用する
- 6 各諸団体の女性のリーダーを養成する
- 7 男女共同参画に向けた生涯学習の推進
- 8 学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する
- 9 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する
- 10 仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する
- 11 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
- 12 女性の職業能力の開発に向けた支援
- 13 男女が家事、子育て、介護、地域活動を共に担える環境づくり
- 14 男女共同参画の視点からの国際交流への貢献
- 15 女性自らの意識と能力を高めるための支援
- 16 女性に対する暴力の根絶のための支援
- 17 市民のメディア・リテラシー(情報を読み解く力)の育成
- 18 生涯にわたる女性の健康保持と促進
- 19 男女共同参画についての相談窓口を充実する
- 20 その他(具体的に)
- 21 特にない・わからない

問18 亀岡市の男女共同参画社会づくりのために、ご意見やご要望がありましたら、自由にご記入ください。

さいご じしん たず
最後にあなたご自身のことについて、お尋ねします。

【すべての人におたずねします。】

あなたの性別をお書きください。(ご自身が認識する性別についてお書きください。)

性別()

※この調査では、男女の意識や行動の違いを把握する必要があるために伺っています。

あなたの年齢はおいくつですか。(1つ選択) ※令和6年10月1日時点

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 18～19歳 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 |
| 4 40～49歳 | 5 50～59歳 | 6 60～69歳 |
| 7 70～79歳 | 8 80～89歳 | 9 90歳以上 |

あなたは結婚されていますか。(1つ選択)

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 結婚している(再婚も含む) | 2 結婚していないがパートナーと暮らしている |
| 3 離別した | 4 死別した |
| 5 結婚していない | |

あなたの現在の世帯構成は次のどれにあてはまりますか。(1つ選択)

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 単身世帯(一人住まい) | 2 1世代世帯(夫婦のみ、事実婚などを含む) |
| 3 2世代世帯(親と子ども) | 4 3世代世帯(親と子どもと孫) |
| 5 その他(具体的に) | |

あなたの職業をお答えください。(1つ選択)

※2つ以上あてはまる場合は、そのうち主なもの1つを選択してください。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 学生 | 2 家事専業(主婦、主夫)、家族従業者 |
| 3 自営業、自由業 | 4 正社員・正職員 |
| 5 非正規社員・非正規職員 | 6 無職(1～5を除く) |
| (パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など) | |
| 7 役員(法人・団体役員など) | 8 その他(具体的に) |

きょうりやく
ご協力ありがとうございました。

たよう きょうしゆく きにゆう ちょうきひよう
ご多用のところ恐縮ですが、ご記入いただきました調査票は、
どうふう へんしんようふうとう きってふよう い
同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

がつ にち きん とうかん
12月13日(金)までに投函してください。

(お名前やご住所の記入は不要です。スマートフォンで回答いただいた方は投函不要です。)

亀岡市男女共同参画に関する市民意識調査 報 告 書

令和7（2025）年3月

編集・発行 亀岡市 生涯学習部 人権啓発課

〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地

TEL 0771-25-5075 / FAX 0771-22-6372

URL <https://www.city.kameoka.kyoto.jp/>